

社会福祉法人 山口市社会福祉協議会

令和6年度事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和6年度は、地域共生社会の実現のため「あらゆる生活課題への対応」と「地域のつながりの再構築」を地域と協働で進めました。そのため、山口市と協働で策定した「第4次山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」に明記してある事業について、年次計画に沿った着実な推進のため、その進行管理に注力し事業を行いました。

あらゆる生活課題への対応としては、令和5年度に本所兼北部支所地域福祉課内及び山口市川西地域包括支援センターと山口市川西第2地域包括支援センターに設置した、やまぐち「まちの福祉相談室(通称:ふくまる相談室)」で、前年度に引き続き多様な相談にあたりました。

また、身寄りのない高齢者や精神上的の障がいのある方等の支援について、「成年後見制度利用促進事業(持続可能な権利擁護支援モデル事業)」の山口市権利擁護支援検討ワーキンググループの運営を通して、仕組みづくりを進めるとともに、山口県社会福祉協議会が実施主体である新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金等の特例貸付債権管理事務の一端を担い、借受人の償還に係る支援や貸付相談を通じて新たに顕在化した地域の生活課題解決に取り組みました。

地域のつながりの再構築としては、コロナ禍で希薄となった地域社会のつながりを強めるため要援護者の見守り訪問活動に力を入れ、ふれあい・いきいきサロンを中心とした地域の集いの場づくりを進め、山口市ボランティア連絡協議会を柱としたボランティア活動の支援、山口市内の社会福祉法人と協働で小・中学校の福祉教育を行うなど、地域の関係機関・団体とより密接に連携しながら事業を行いました。

「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画」の進行管理では、南部居宅介護支援事業所及び南部訪問介護事業所を事務事業評価に基づき令和6年度末を以て閉所し、それにより、介護・障がいサービス課の拠点を南部支所から本所兼北部支所へ移管しました。

就労継続支援B型事業所「かがやき」と「希望の館」においても、事務事業評価に基づき、令和7年度末で閉所する結論に至り、令和7年度は、利用者及び保護者へ丁寧な説明を行うとともに、相談支援事業所と連携を図りながら、利用者の希望に沿った就労先等を一緒に探すこととなります。

一方、遺贈による寄附を活かすため「福祉課題解決積立金」を創設するとともに、「職員研修実施の手引き」を作成し、OJT、OFF-JTを通じて人材育成にも取り組みました。

また、社会的にも問題になっているカスタマーハラスメントに対応するため、「カスタマーハラスメント等不当要求行為対応マニュアル」を作成し職員へ周知するとともに、市民の期待に応えられる組織であるために「法令等遵守規程及び法令等遵守方針」を作成し職員への徹底を図りました。

将来にわたって方向性を示す必要がある事務事業については、本年度も事務事業評価シートに基づき精査を進め、事務事業の方向性及び組織体制の見直しを行いました。

重点事業

●「福祉ビジョン2020」がめざす「ともに生きる豊かな地域社会」の実現

I 「第4次山口市地域福祉活動計画」の推進(令和5年度～令和9年度)

- (1) 地区社会福祉協議会活動の支援と協働
- (2) 地域福祉を推進する人材の育成と専門職等のネットワークの構築
- (3) 見守り訪問活動及び地域支え合い活動の推進
- (4) 地域子育て支援機能の充実
- (5) 社会福祉法人の地域公益活動の支援と協働
- (6) 持続可能な権利擁護支援事業の構築及び推進
- (7) 法律相談や貸付相談及び重層的支援体制整備事業の推進
- (8) 介護保険法関連事業及び障害者総合支援法に基づくサービス事業の推進

II 「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画」の推進 (令和5年度～令和9年度)

◇基盤強化計画推進室の設置による計画の推進及び進行管理〔2年次〕

- (1) 組織強化と効率的な組織運営<組織>
 - ① 組織体制の見直し
 - ② 業務の効率化
 - ③ 情報管理・発信能力の強化
 - ④ 内部管理体制の整備強化
- (2) 人材の確保・育成<人材>
 - ① 職員の資質及び専門性の向上
 - ② 職場環境の整備
- (3) 安定的な財政運営<財政>
 - ① 民間財源の確保と効率的運用
 - ② 公費財源の確保と効率的運用
 - ③ 事業収入の確保と効率的運用
 - ④ 安定的な財政運営のための仕組みづくり
- (4) 効率的な法人運営

重点事業Ⅰ

「第4次山口市地域福祉活動計画」の推進(令和5年度～令和9年度)

1 「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」の実行

山口市と本会が策定した「第4次山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」は、令和5年度から令和9年度の5箇年の計画となります。

今回の計画は、社会情勢の変化や国等の動向、今までの計画の成果を踏まえ、市民や地域、福祉関係機関など地域福祉に関わるすべての人々と協働し、国全体で進められている「地域共生社会」の実現を目指し、重層的支援体制整備事業と一体的に取りながら本計画を推進します。

本会は、3つの基本目標(基本目標1「地域福祉を支えるひとづくり」、基本目標2「ともに見守り、支え合う地域づくり」、基本目標3「誰もが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり」)を念頭におき、地域のみなさまや関係機関等と連携を取りながら本計画を推進します。

また、「地域福祉推進協議会」にて、活動目標ごとに取組みの進行管理を行うとともに、市民の視点からの評価、検証を行い、その結果に基づき必要な見直し等も進めます。なお、本年度の「地域福祉推進協議会」は、令和6年10月18日(金)にKKR山口あさくらにて開催しました。

【山口市地域福祉活動計画の実行(主な取り組み)】

基本目標1 地域福祉を支えるひとづくり

活動目標1 地域福祉活動の普及・啓発及び活動支援

活動目標2 地域福祉の担い手の育成・参加促進

活動目標3 福祉教育の推進

基本目標2 とともに見守り、支え合う地域づくり

活動目標1 地域交流の場づくり

活動目標2 地域の支え合い活動の推進

活動目標3 安全安心に暮らせる防災防犯体制づくり

基本目標3 誰もが自分らしく安心して暮らせる仕組みづくり

活動目標1 地域福祉の基盤づくりとネットワーク強化

活動目標2 権利擁護のための支援の充実

活動目標3 地域の生活課題の発見・把握と解決の仕組みづくり

活動目標4 包括的支援体制の構築

※主要事業のほとんどが、本計画の中に含まれます。

主要事業

1 地区社会福祉協議会活動の支援と協働

(1) 小地域福祉活動計画策定及び実行委員会の開催

* 受託事業

事業名	地区社協名	会議回数
第1次小地域福祉活動計画の策定	全地区実施済み	—
第2次小地域福祉活動計画の策定	全地区実施済み	—
第3次小地域福祉活動計画の策定 (令和7年度～令和11年度) ※ 座談会等を開催し、第3次計画を策定する	小郡	5
	阿知須	4
第4次小地域福祉活動計画の策定 (令和7年度～令和11年度) ※ 座談会等を開催し、第4次計画を策定する	湯田	4
	平川	7
第5次小地域福祉活動計画の策定 (令和7年度～令和11年度) ※ 座談会等を開催し、第5次計画を策定する	嘉川	5
第2次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和3年度～令和7年度)	秋穂	2
	阿東	3
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和3年度～令和7年度)	大内	3
	串	2
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和4年度～令和8年度)	出雲	3
	八坂	2
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和5年度～令和9年度)	島地	2
第3次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和6年度～令和10年度)	柚野	2
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和3年度～令和7年度)	大殿	3
	鑄銭司	2

事業名	地区社協名	会議回数
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和4年度～令和8年度)	仁保	1
	佐山	1
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和5年度～令和9年度)	吉敷	4
	陶	3
第4次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和6年度～令和10年度)	大歳	3
	名田島	2
第5次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和5年度～令和9年度)	小鯖	2
第5次小地域福祉活動計画実行委員会の開催 (令和6年度～令和10年度)	白石	3
	宮野	3
	秋穂二島	3

《成果と課題》

「小地域福祉活動計画」策定地区は、現行計画の中で取り組んできた5年間の各事業を評価することにより総点検する機会となった。地域によっては障がい団体等の関係者の関わりが少なく、当事者と連携しながらどのような取り組み方ができるのか課題である。

また、その他の地区で実施された「小地域福祉活動計画実行委員会」は、現行小地域福祉活動計画の進捗管理(進捗状況の確認)や地域づくり計画等との調整を行う場として実施した地区が多くあった。

なお、人口の減少や高齢化に伴う担い手の減少により、集いの場の解散や立ち上げが難しい等の地域が出てきている。地域だけではなく、社会福祉法人や地域包括支援センター、市地域交流センターの地域担当等の専門職の関わりや企業や事業所等を巻き込み取り組む仕組みづくりが課題である。

(2) 山口市地区社会福祉協議会連絡会の運営支援

1. 会議・研修テーマ(目標)

各地区社協の代表者が集い、相互の情報交換と研修を行うことで、各地区の取り組みや課題を共有し、それぞれの小地域福祉活動につなげるとともに、山口市の地域福祉活動の発展に資する。

2. 会議・研修報告

会議・研修名	開催時期	内 容	対象者	会 場	当番地区
--------	------	-----	-----	-----	------

連絡会	6月3日(月) 午前9時30分～	1. 役員選任(退任に伴うもの) 2. 令和5年度事業報告 3. 令和6年度事業計画 4. 市社協各担当課からの 事業説明(マイクロバス等 運行事業など) 5. 地区敬老行事対象者名簿 の配付	地区社協会長 事務局長・事 務局員	県総合保健 会館	(南部)
研修会	8月26日(月)午 後1時30分～	1. 事務連絡〔(市社協事業(共 同基金関連・地区社協アンケ ート・福祉員関係等)) 2. テーマ「地域支え合い活動 について」 説明 市高齢福祉課及び市社協 事例発表 白石地区社協:吉田事務局長 大内菅内団地寿会:澄川会長 3. 情報交換会(地域での支え 合い活動について)	地区社協会長 事務局長・事 務局員	維新みらい ふスタジア ム	(北部)
情報交 換会	12月12日(木) 午後4時～	山口市社会福祉法人地域公益活 動推進協議会役員と山口市地区 社協役員の情報交換会の開催に ついて	地区社協連役員	湯田地域交 流センター	—
連絡会	令和7年 3月21日(金) 午後1時30分～	1. 令和7年度地区社協連絡会 事業計画(案) 2. 令和6年度市社協事業計画 等	地区社協会長	県総合保健 会館	—

役員会実施日 第1回5月22日(水)・第2回7月18日(木)・第3回令和7年1月24日(金)

《成果と課題》

市内25地区社会福祉協議会会長をもって組織する「山口市地区社会福祉協議会連絡会」が平成28年12月14日に発足。研修会では、多機関との連携を掲げ、地域にある社会資源と情報交換を行うことで、今後、地域福祉課題に取り組むべく第一歩の研修となった。また、本会事業の進め方等について、役員会での審議を経て地区社協の意見を取り入れることで、現実的な事業の運営に繋がっている。

今後の課題として、研修で学んだ内容と地域性を考慮して、地域で活かすにはどのようにすべきかという仕掛けが重要になってきている。そのためにモデル的に取り組むことが必要である。

2 地域福祉を推進する人材の育成と専門職等ネットワークの構築

(1) 地域支え合いフォーラム山口市福祉の輪づくり運動関係者及び福祉員研修会の開催

開催日	10月30日(水)
会 場	山口県総合保健会館
参加者数	165名
内 容	【講演】【テーマ】 「支え合いについて」 「地福地区助け合い・支え合い活動について」 【講師】ご近所福祉クリエイター 酒井 保 氏 【事例発表者】地福地区助け合い・支え合い実行委員会 会長 松岡 才記 氏 地福地区助け合い・支え合い実行委員会 事務局 先浦 靖弘 氏

《成果と課題》

今回は、初めての試みで生活支援コーディネーター事業と合同で開催し、「支え合いについて」及び「地福地区助け合い・支え合い活動について」と題して講演を行った。

福祉員改選2年目の年であり、昨年度よりステップアップした発展的な内容で「立ち上げている支え合い活動の参考になった」「“支え合い”の意味をあらためて考えさせられた」などの感想があった。

昨年同様に福祉員、民生委員、地区社協関係者、地域包括支援センター関係者、介護支援専門員(ケアマネジャー)や企業ボランティアに周知し、参加者を募った。さらに、多くの方に地域福祉活動の推進に携わっていただくため、一般参加も募った。より多くの方に参加していただくため、地域広報誌も活用するなど工夫する必要性を感じた。

(2) 山口市地域住民グループ支援事業の推進 * 受託事業

○事業内容:地域において高齢者の生きがいと社会参加を促すとともに、社会的孤立感の解消、自立生活の助長及び要介護状態になることの予防を目的とするふれあい・いきいきサロン等の自主活動グループに対して支援を行った。

○ 補助金交付内容

【地域住民グループ】 全26箇所

グループ	運営費支援		会場費支援
	新規	2年目	
ふれあい・いきいきサロン	3箇所	1箇所	13箇所
サロン以外のグループ	4箇所	2箇所	6箇所
合 計	7箇所	3箇所	19箇所

《成果と課題》

地域住民グループは、新しく活動を開始されるグループが7箇所あり、引き続き継続されるグループにも会場費、運営費の補助等を行った。百歳体操グループの新規活動開始に伴い、補助申請されるグループが多い。

今後も活動についての広報紙への掲載や、民生委員・児童委員及び福祉員、地区社協等の会合にて説明、PRをする場を設けていきたい。また、各地域包括支援センターとの情報共有を行っていくことが必要と考える。

(3) ふれあい・いきいきサロンの推進

○事業内容:ひとり暮らし高齢者をはじめ、地域に住んでいる方々が生活に寂しさを感じたり、地域の中で孤立したり、家に閉じこもることがないよう地域の中で楽しく過ごせる場をつくる活動を推進する。

○登録サロン数:241箇所

○新規登録サロン:3箇所

○ふれあい・いきいきサロンレクリエーション講習会 実施状況

・実施回数:全17回実施(うち3回中止)

・延参加者 131名

・講習会の内容:スプリングミニコンサート、サロンでできる小物づくり、熱中症について学ぼう、健口元気！笑いヨガとあいうべ体操、小物づくり、自分に素直に生きるために(ヨガ)、クラフトハンドの小物入れづくり、健康維持～寝たきりにならないための健康寿命～(中止)、銭太鼓(2回)、唱歌・童謡でしっかり声だししよう！、折り紙、ハンドケア講座とアロマハンドクリーム作り、植物のクラフトづくり、セルフ整体とセルフリンパで健康づくり(中止)、SDGsで素敵にリメイク缶&ビン、いきいき元気！転倒予防体操ケアビクス(中止)

○ふれあい・いきいきサロン講師派遣事業(サロンお助け隊) 実施状況

・登録講師65(個人・団体) ・派遣実績:147回

○ふれあい・いきいきサロン器材貸出 実施状況

・貸出実績 360件

○子育てサロン等交流会の開催

①開催日:11月12日(火)

②会 場:山口県総合保健会館

③内 容:講演「子育て支援に役立つ遊び」

講師 社会福祉法人島地保育園 みのり保育園 大枝 佐希 氏
グループワーク

④参加者:17名

○ふれあい・いきいきサロン交流会の開催

①開催日:11月12日(火)

②会 場:山口県総合保健会館

③内 容:サロンの活動紹介(吉敷地区)ふれあい・いきいきサロン木崎

グループワーク 『みんなで話してみませんか～それぞれのサロン活動～』

④参加者:96名

《成果と課題》

本年度は新規に立ち上げられるサロン3箇所あり、また、現在立ち上げを検討されている地域も複数あり、相談も数件あった。

高齢者サロンの抱える悩み・課題として、サロンの立ち上げ年数が経過するとともに担い手及び参加者が高齢化し、参加者数が減少していることや担い手の負担感が挙げられる。

今後も、地域の中にサロンが増えていくことを目指し、民生委員・児童委員及び福祉員、地区社協等の会合にて説明、PRをする場を設けていきたい。また、現在活動しているサロンにも、サロン活動を持続的に行うことができるよう支援を行っていく。

交流会では、午前中に子育てサロン等交流会、午後にふれあい・いきいきサロン交流会として開催した。サロン講師、各地域包括支援センター職員にも参加を案内し、サロン担い手とともに情報交換を行った。

ふれあい・いきいきサロン器材貸出事業については、地区社協主催のサロン交流会等で器材の紹介や使い方の指導を通して、周知と利用促進を行った。

講師派遣事業では、健康づくりのための運動や講座を行う講師や音楽や演芸等鑑賞できる活動を行う講師が人気を博した。また、ホームページに講師の講座内容情報一部抜粋したものを掲載し、より事業を利用しやすいように情報提供を行った。

(4) 福祉の種まきリーディング事業の推進 * 受託事業

事業内容：地区社協、ボランティアグループ、福祉団体等と協力して、地域住民が気軽に地域福祉活動に参加できる事業として実施し、地域に福祉活動の芽を育てることを目的とする。

No	地 区	事業区分／事業名	実施団体名	実施日	実施場所
1	大 殿	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 大殿地区サロン交流会	大殿地区社会福祉協議会	12月8日(日)	大殿地域交流センター
2	大 殿	交流の場づくり／子育て活動支援事業	子育てサロンブーフォー	8月1日(木)	大殿地域交流センター
3	大 殿	交流の場づくり／子育て活動支援事業	おおどのサロン	8月25日(日)	大殿地域交流センター
4	白 石	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業	白石地区社会福祉協議会	11月8日(金)	白石地域交流センター
5	白 石	交流の場づくり／子育て活動支援事業	子育てサロンあゆみの会	7月17日(水)	白石地域交流センター
6	湯 田	交流の場づくり／子育て活動支援事業 湯田キッズレストラン	湯田地区社会福祉協議会	8月20日(火)	湯田地域交流センター
7	小 鯖	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業	小鯖地区社会福祉協議会	12月19日(木)	小鯖地域交流センター
8	大 内	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業	大内地区社会福祉協議会	10月9日(水)	大内地域交流センター
9	宮 野	交流の場づくり／高齢者・子育てサロン支援(お試しサロン)事業	宮野地区社会福祉協議会 (熊坂町内会／ふれあい・いきいきサロン熊坂)	11月19日(火) 12月5日(木) 令和7年 1月21日(火) 2月18日(火) 3月18日(火)	熊坂集会所
10	宮 野	交流の場づくり／高齢者・子育てサロン支援(お試しサロン)事業	宮野地区社会福祉協議会 (上恋路町内会／ふれあい・いきいきサロン上恋路)	9月19日(木) 11月21日(木) 令和7年 1月20日(月) 3月24日(月)	上恋路公会堂
11	宮 野	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 宮野地区サロン運営連絡協議会	宮野地区社会福祉協議会	令和7年 2月25日(火)	宮野地域交流センター
12	宮 野	課題対応／地域課題解決実践事業	宮野地区社会福祉協議会	11月27日(水)	宮野地域交流センター

		先進地視察研修			
13	平 川	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 ふれあい・いきいきサロン連絡会	平川地区社会福祉協議会	10月28日(月)	平川地域交流センター
14	大 歳	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 いきいき・サロン交流会	大歳地区社会福祉協議会	10月11日(金)	下関・門司港方面
15	大 歳	交流の場づくり／子育て活動支援事業	子育て支援サークル 太陽クラブ	7月27日(土)	大歳地域交流センター
16	大 歳	課題対応／地域課題解決実践事業	大歳地区社会福祉協議会	7月25日(木)	大歳地域交流センター
17	陶	課題対応／地域課題解決実践事業	陶地区社会福祉協議会	8月21日(水)	陶地域交流センター
18	陶	課題対応／地域課題解決実践事業	陶地区社会福祉協議会	11月9日(土)	陶地区内西コース
19	鑄銭司	課題対応／認知症高齢者徘徊模擬訓練等の開催支援事業	鑄銭司地区社会福祉協議会	10月5日(土)	梅の里かわばた邸とその近隣歩道
20	秋 穂 二 島	課題対応／地域課題解決実践事業	秋穂二島地区社会福祉協議会	6月14日(金)	二島中学校
21	秋 穂 二 島	課題対応／地域課題解決実践事業	秋穂二島地区社会福祉協議会	8月7日(水)	二島地域交流センター
22	小 郡	福祉教育／学校と地域の福祉教育協働事業	小郡地区社会福祉協議会	各学期に1回 (年3回)	小郡地域3小学校各家庭数
23	小 郡	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業 小郡地区サロン代表者会議	小郡地区社会福祉協議会	令和7年 3月7日(金)	山口市社会福祉協議会南部支所 2階
24	小 郡	災害ボランティア／「避難行動要支援等」の避難訓練事業〔災害ボランティア養成事業も可〕 小郡地区災害ボランティアセンター研修会	小郡地区社会福祉協議会	令和7年 2月14日(金)	山口市小郡ふれあいセンター
25	秋 穂	交流の場づくり／地区サロン連絡会議開催事業	秋穂地区社会福祉協議会	12月9日(月)	秋穂総合支所
26	阿知須	交流の場づくり／子育て活動支援事業	阿知須地区社会福祉協議会	7月24日(水) 7月31日(水) 8月7日(水) 8月21日(水)	阿知須健康福祉センター「おげんきかん」
27	阿 東	災害ボランティア／「避難行動要支援者等」の避難訓練事業〔災害ボランティア養成事業も可〕	阿東地区社会福祉協議会 (地福自治会連合会)	10月6日(日)	阿東地域交流センター地福分館
28	阿 東	災害ボランティア／「避難行動要支援者等」の避難訓練事業〔災害ボランティア養成事業も可〕	阿東地区社会福祉協議会 (篠生地区連合自治会)	令和7年 2月16日(日)	阿東地域交流センター篠生分館
29	阿 東	災害ボランティア／「避難行動要支援者等」の避難訓練事業〔災害ボランティア養成事業も可〕	阿東地区社会福祉協議会	令和7年 3月19日(水)	阿東老人福祉センター

		事業も可			
30	—	人材育成／ボランティア養成講座開催事業	朗読グループ まごころの会	10月29日(火)	湯田地域交流センター
31	—	人材育成／ボランティア養成講座開催事業	音声訳グループ 小郡やまびこの会	令和7年 3月8日(土)	小郡地域交流センター
32	—	人材育成／ひきこもり支援講座の開催 ひきこもり一般公開講座	山口市社会福祉法人 地域公益活動推進協議会	令和7年 2月6日(木)	山口県総合保健会館
33	—	交流の場づくり／子育て活動支援事業	県庁前子ども食堂	7月27日(土) 8月3日(土) 8月10日(土) 8月17日(土)	山口地の果て 宣教教会
34	—	交流の場づくり／子育て活動支援事業	AACD の会(サビエル こども食堂)	8月2日(金)	白石地域交流センター
35	—	交流の場づくり／子育て活動支援事業	メイクボランティア団体 きらめ輝山口	8月20日(火)	小鯖小学校
36	—	交流の場づくり／子育て活動支援事業	祐寿会本部	7月11日(木) ～8月31日(土)	祐寿会本部(旧 グループホーム)
37	—	課題対応／地域課題解決実践事業	NPO 法人移動ネット 山口	11月22日(金)	セントコア山口

《成果と課題》

子どもの交流の場づくりにも焦点を当て10件の助成を行った。子どもの居場所づくりを通じて多世代交流が広がった。新たに、ひきこもり支援講座を山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会が開催し、社会福祉法人と学校とがつながるきっかけとなった。ボランティア団体からの申請もあり、担い手を増やすこともできた。助成対象団体等を広げたことにより、令和5年度の26回から37回と11回増となった。今後も、福祉活動のきっかけとなるよう地域福祉活動団体等へ周知をしていく。

(5) 地域活性化推進事業の推進

地域活性化推進事業は、本会が旧支部ごとに築いてきた地域の特性を活かした地域福祉活動を引継ぎ、心豊かな地域づくりの実現を図るものである。

1) 阿知須地域活性化事業の実施

○あじす元気ハウスの管理運営

- ・事業内容: 阿知須地域の旧商店街である旧野村酒場跡地に建設した「あじす元気ハウス」(平成17年10月オープン)の管理運営を行い、地域住民とともに地域福祉活動が担い手の垣根を取り除き、共に豊かに住み慣れた地域で総合的に展開できる拠点として、活用できるような地域福祉サービス活動を展開し、地域での交流を促進する。
- ・実施箇所: 山口市阿知須4226番地(寺河内区)
- ・組織: 阿知須出張所内に元気ハウス運営委員会を設置し運営を行っている。
- ・提供サービス
 - * ぼらんていあショップの運営(毎月10日市開店)
 - * ひなもん祭り 令和7年2月7日(金)～11日(火)開催(A、B棟を終日開放)
 - * 地域住民に開放(趣味の会、同窓会、自治会定例会、自主グループの各種研修会など)

＊障害のある方、その家族を対象とした憩いの場の開設(地域活動支援センターやまぐち事業)

・利用人員 A棟 105名(前年度217名)

B棟 1,936名(前年度1,641名)

C棟 令和4年度から山口市川西第2地域包括支援センター事業所に移行している

《成果と課題》

阿知須地域のおまつり等で活用されていることから、地域の方々に「元気ハウス」があることが浸透しており、A棟はぼらんていあショップの運営があるため、利用者が限定されているがB棟については、コロナ禍が収束し利用者が増加している。

また、隣接地に100年前に山口銀行の前身である百十銀行だった古民家をリニューアルした、高齢者から赤ちゃんまで、みんなで集って楽しく過ごし、誰もが自由に立ち寄れるコミュニティスペースをNPO法人山口ヘルスプロモーションネットワークが福祉の駅あじす『コミュニティスペース 百十カフェ』を運営している。その相乗効果として、今後も高齢者、障がい者、子どもなど誰もが、総合的な支援を手軽に利用でき、地域住民も主体的に運営に参画する総合循環型事業の取り組みを地域に周知し、理解を深めながら地域に根差した拠点として展開する。

2) 徳地地域活性化事業の実施

＜19地区福祉部会の活動の充実・強化＞

・事業内容: 徳地地区には、福祉員を中心に民生委員・児童委員、自治会長等で編成された福祉部会が19地区に設置され、運営支援を運営主体である徳地5地区社会福祉協議会や徳地地区社会福祉協議会連絡協議会と本会が連携して以下の活動支援を行っている。

福祉部会では「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目的に、福祉部会員による情報共有やふれあい会(高齢者を中心とした地域交流行事)の開催等が行われている。

・支援内容 ①地区福祉部会への会議出席及び活動支援

②地区福祉部会への補助金交付

③各地区ふれあい会等への参加及び企画補助

・各地区福祉部会(19地区毎)の開催実績

開催数: 46回開催

＜各地区福祉部会の地域福祉活動実績等＞

部会名	開催日	内 容	参加者数
柚木	令和7年3月11日(火)	第1回ふれあい会(ペタンク大会)	20名
	令和7年3月20日(木)	第2回ふれあい会(友愛クラブと合同親睦会)	15名
釣山	5月28日(火)	第1回ふれあい会(会食会)	3名
	10月3日(木)	第2回ふれあい会(ポッチャ・交流会)【野谷部会と合同開催】	11名
	令和7年3月19日(水)	第3回ふれあい会(カーレット・交流会)	7名
野谷	10月3日(木)	第1回ふれあい会(ポッチャ・交流会)【釣山部会と共同開催】	9名
	令和7年2月3日(月)	友愛訪問活動(全戸へ節分豆、可燃ごみ袋配布)	15名
	令和7年3月19日(水)	第2回ふれあい会(カーレット・交流会)	4名
八坂	7月31日(水)	第1回ふれあい会(音楽体操・講話)	18名
	11月12日(火)	第2回ふれあい会(ペタンク)	25名
	令和7年3月11日(火)	第3回ふれあい会(ポッチャ)	32名

部会名	開催日	内 容	参加者数
船路	令和7年3月17日(月)	第1回ふれあい会(交流会)	21名
引谷	10月29日(火)	第1回ふれあい会(日帰り旅行)	12名
三谷	8月20日(火)	第1回ふれあい会(演奏会鑑賞)	21名
	12月13日(金)	第2回ふれあい会(健康講座)	12名
	令和7年3月25日(火)	第2回ふれあい会(小旅行)	20名
深谷	10月31日(木)	ふれあい会(健康講座、手芸、英会話)	12名
	令和7年3月4日(火)	友愛訪問活動(物品配布)	全戸
小古祖	4月7日(日)	第1回ふれあい会(茶話会)	60名
	8月11日(日)	第2回ふれあい会(夏祭り)	32名
	令和7年2月2日(日)	第3回ふれあい会(節分会)	28名
関・才谷・ 伏野・須路・ 中村	11月28日(木)	第1回ふれあい会(健康講座、ゲーム)	16名
	令和7年3月19日(水)	第2回ふれあい会(小旅行)	29名
堀・庄方	10月22日(火)	第1回ふれあい会(小旅行)	23名
伊賀地	8月9日(金)	第1回ふれあい会(小旅行)	26名
岸見	11月17日(日)	第1回ふれあい会(小旅行)	22名
	令和7年2月23日(日)	友愛訪問活動(75歳以上のひとり暮らしの方へひな祭りお菓子配布)	
島地	11月10日(日)	第1回ふれあい会(小旅行)	18名
藤木	11月13日(水)	第1回ふれあい会(ヤクルト健康講座、防犯講習)	27名
	令和7年3月3日(月)	第2回ふれあい会(小旅行)	24名
上村	10月23日(水)	第1回ふれあい会(小旅行)	27名
	令和7年2月12日(水)	第2回ふれあい会(交通安全講習会)	28名
山畑	11月11日(月)	第1回ふれあい会(健康講座)	23名
	12月2日(月)	第2回ふれあい会(小旅行)	13名
鯖河内	11月5日(火)	第1回ふれあい会(防犯・交通講習、ゲーム)	20名
	令和7年3月4日(火)	第2回ふれあい会(健康講座、ゲーム)	21名
串	11月14日(木)	第1回ふれあい会(防犯・交通講座)	31名
	令和7年2月20日(木)	第2回ふれあい会(ゴミの分別講座、ゲーム)	26名

《成果と課題》

広域地域である徳地では町社協時代から福祉部会が小単位での福祉活動を推進する組織体としての役割を果たしており、本会の活動支援がその一助となっている。

ただ、地区全体での高齢化や人口減少に伴い、行事参加者の減少や担い手不足が顕著になっており、19地区福祉部会が一律の活動というのは難しくなることが予想される。そのため、部会活動の実施主体である地区社協や徳地地区社会福祉協議会連絡協議会とも今後の活動や支援の在り方について協議検討をしていく必要がある。

(6) 地域福祉の担い手の育成

1) 福祉員研修会の開催

(1) 新任福祉員研修会の開催（希望地区のみ）

- 目 的 地域福祉活動（福祉の輪づくり運動）の推進にあたり、福祉員としての基礎知識を習得することを目的に研修会を開催する。
- 開 催 日 各地区第1回福祉員定例会
- 会 場 各地区
- 参加対象 新任福祉員（委嘱を受けて1年以内の福祉員又は希望者）
- 内 容 「福祉員活動」について ガイドブック(第6版)をもとに地区担当職員が説明

《成果と課題》

今年度から、任期1年目のみ新任福祉員研修会を開催することとし、任期2年目、3年目は希望地区のみ地区担当が各地区定例会で福祉員活動について説明するという方針に変更した。変更については、令和5年度第3回福祉員連絡協議会で協議し、決定した。

2) 山口市福祉員連絡協議会の設置及び運営

○目 的：各地区の福祉員代表者で構成し、福祉員活動の推進と情報交換を行うことを目的に開催する。

月 日	内 容	会 場
令和6年 4月～	退任者・新任福祉員の名簿の提出、委嘱状・門標・ガイドブック等の配付、ボランティア活動保険の加入	
5月29日(水)	山口市福祉員連絡協議会（第1回） ・事業報告、事業計画等について	維新公園みらいふ スタジアム
各地区第1回 福祉員定例会	新任福祉員研修会（希望地区のみ）	各地区
8月29日(木)	山口市福祉員連絡協議会（第2回）※書面議決 ・輪づくり運動関係者及び福祉員研修会について ・山口市福祉員連絡協議会研修等について	
10月24日(木)	社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式	山口県総合保健会館
10月30日(水)	地域支え合いフォーラム山口市福祉の輪づくり運動 関係者及び福祉員研修会 参加者：165名 【講演】 「支え合いについて」 「地福地区助け合い・支え合い活動について」 【講師】ご近所福祉クリエーター 酒井 保 氏 【事例発表者】 地福地区助け合い・支え合い実行委員会 会長 松岡 才記 氏 地福地区助け合い・支え合い実行委員会 事務局 先浦 靖弘 氏	山口県総合保健会館
10月31日(木)	山口県総合社会福祉大会	長門市 (ルネッサながと)

12月20日(金)	山口市福祉員連絡協議会研修会 【視察】 光地区消防組合防災センター 参加者：11名	
令和7年 2月28日(金)	山口市福祉員連絡協議会（第3回） ・事業報告、事業計画 ・新任福祉員研修会等について	維新公園みらいふ スタジアム

(7) 有償在宅福祉サービス事業の推進

1) 有償在宅福祉サービス事業の実施

○事業内容：誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目的に、高齢者や障がいを持っている方等が様々な理由で日常生活上の家事及び介護等で困っている時、その負担を少しでも和らげるために福祉に理解をもった地域の方々（協力会員）に訪問してもらい、身の回りのお手伝いをしていたく事業である。

利用会員	協力会員	賛助会員
82名(内令和6年度登録1名)	74名(内令和6年度登録6名)	23名・18団体

○サービスの内容の内訳

内 容	件数	内 容	件数	内 容	件数
食事の支度・後片付け	4	外出支援	1	保育	0
住居等の掃除・整理・補修	369	話し相手	55	その他	42
衣類の洗濯・補修	9	通院介助	1	合 計	540
生活必需品等の買物	59	代筆・朗読	0		

○地域福祉課広報紙「結～YOU～」の発行：4回

《成果と課題》

初回相談件数は24件(新規利用会員は1名)であった。平成28年10月から山口市で介護予防・日常生活支援総合事業が始まり、要介護認定でのサービス利用の流れが変わってきたこともあり、要支援1・2認定の方からの相談が増加している。利用者のニーズに対して専門的な対応が必要となる相談も増えている。

今年度は、利用会員の登録は少なかったが、ホームページ等を見て協力会員へ登録される方が多かった。今後も本会としては、サービスを提供するだけでなく相談者に必要なサービスを見極め、他機関との連携を密に図ることも重要である。

2) 有償在宅福祉サービス事業担い手養成講座の開催

○事業目的：人材養成(有償在宅福祉サービス事業協力会員の養成)を図ることを目的に開催する。

○会 場：南部支所

○受講者：11名

○内 容

開催日	内容・講師
令和7年2月6日(木)	テーマ：「高齢者の特性について」 講 師：山口コ・メディカル学院 大田 茂臣 氏

《成果と課題》

有償在宅福祉サービス事業の課題となっている担い手(協力会員)不足を解消するため、養成講座を開催している。市社協だよりや福祉員定例会などで周知し、一般参加者もおられ、今年度は協力会員1名の新規加入があった。今後ますます利用ニーズが増えることを想定し、本事業についてより広く周知ができるよう地域へ働きかけ、現協力会員の資質の向上と新たな会員の獲得につなげていくことが最重要課題である。また、今後も適切な事業運営を行っていくために、必要な協議、検討を行っていく。

(8) 生活支援・介護予防体制整備事業の推進

1) 生活支援コーディネーターの設置

* 受託事業

- 目的: 山口市社会福祉協議会に1名の第1層生活支援コーディネーター、各地域包括支援センターに1名の第2層生活支援コーディネーターを配置し、高齢者の生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取り組みの推進を行うため、既存の地域資源等を把握し、地域のニーズにあった生活支援サービスが行われるように、地域に不足するサービスの創出やサービスの担い手の養成、関係者間の情報共有やサービス提供主体間の連携体制づくりなどのネットワーク構築を進める。

○事業内容

①地域組織からのニーズ把握に関すること

- ・各地域包括支援センター第2層生活支援コーディネーター及び市社協地区担当職員が地区社会福祉協議会を訪問し、地域課題や地域が求めている活動の担い手等について聞き取りを実施した。また、各地区の小地域福祉活動計画実行委員会、民生委員児童委員協議会、福祉員協議会等の会議に出席し、生活支援コーディネーターの周知や情報の高齢者の生活課題や取り組みの情報収集をするとともに、支え合いの取り組み事例の情報提供等を行った。

○訪問地区 25地区

○地域の会議への出席 随時(小地域福祉活動計画策定委員会、実行委員会等)

○自立支援型地域ケア会議への出席

②不足する生活支援サービスの把握・調整・創出に関すること

- ・連絡定例会、エリア別会議の開催、各地区の話し合いの場等への出席により、現状把握と対策についての協議を行った。

③地域資源の把握と見える化に関すること

- ・介護予防サポーター養成講座の開催、また、介護予防サポーターのつどいの開催支援を行った。
- ・ワンドライブ(社会資源情報等保存先)の更新を行った。

④ネットワーク構築に関すること(令和4年度から市高齢福祉課が招集)

- ・基幹型地域包括支援センター、1層、2層の協議の場を設定し、事業推進における課題や方法等を検討・共有した。

○全体会議・連絡定例会 21回

○エリア別会議 49回

⑤介護予防・生活支援サポーターと生活支援サービスとのマッチングに関すること

- ・平成31年度から調整業務が2層に移管された。

⑥協議体の開催に関すること

- ・令和6年度地域支え合い推進会議(第1層協議体)を年1回開催し、山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会と生活支援コーディネーターとの情報交換を行った。
- ・地域支え合いフォーラムを年1回開催し、阿東地福地区助け合い・支え合い実行委員会からの活動報告や、ご近所福祉クリエーター酒井保氏の講演を行い、地域支え合い活動についての周知を図った。

2) 介護予防・生活支援サポーター養成講座の開催

* 受託事業

・高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域での支え合い体制づくりを目指して、地域における住民等による介護予防や生活支援の取組の担い手となる人材の養成を目的に講座を開催している。

令和5年度からは介護予防の担い手確保に目的を絞り、令和6年度は小郡地区で養成講座を実施している。また、令和5年度養成講座開催後に活動を希望された方を対象に開催された、介護予防サポーターのつどいの開催支援を行った。

(介護予防サポーター養成講座)

日時: 12月17日(火)午後1時30分～3時30分 受講者 27名

会場: 小郡地域交流センター2階 大ホール

内容: ①誰もが気軽に集える居場所づくり

②小郡地域の介護予防の現状と取組

③小郡地域で始まっている集いの場

④グループワーク(自分に取り組んでいる介護予防)(高齢者が地域で元気に暮らし続けるため、自分にできそうなことや、やってみたいと思う取組)

(介護予防サポーターのつどい)※令和5年度養成講座フォローアップの開催支援

日時: 7月10日(水)午後1時30分～3時30分 受講者 8名

会場: 湯田地域交流センター2階 大集会室

内容: ①令和5年度介護予防サポーター養成講座の振り返り・中央圏域の特徴

②グループワーク「集いの場について考えよう」

③グループワーク「百歳体操について考えよう」

《成果と課題》

介護予防サポーター養成講座受講後、14名の方が継続しての活動や研修の案内がほしいとのアンケート結果から、本会は、その名簿を各地域包括支援センター配置の第2層生活支援コーディネーター及び基幹型包括と共有し、次の展開につなげることにした。今後、養成講座を受講された方たちがスムーズに活動に取り組めるよう、第2層生活支援コーディネーターが地域の実情に合わせて介護予防の取組を進めていくことにした。

第2層生活支援コーディネーターは各地域包括支援センターに配置されて以降、各地域の会合やつどいの場に参加されるようになり、より地域の社会資源、現状・課題等の情報把握や地域への働きかけができるようになった。

また、本年度は地区内の社会福祉法人や地区社協との情報交換の場も設定し、新たなつながりとなった。今後も第2層生活支援コーディネーターとの協働により、各地区で高齢者の生活支援について理解を深めていきたい。

(9) その他の生活支援・介護予防関連事業の推進

1) マイクロバス運行事業の実施

○事業内容：各地区にマイクロバスの無料貸出し又は民間バス借り上げ費用の一部助成をすることにより、高齢者の交流及び福祉関係団体の活動の促進を図る。

○今年度の運行実績

地 区	マイクロバス（件）	民間バス（件）	福祉員協議会の利用の有無と種類	備考
大 殿	4	0	マイクロバス	
白 石	6	2	マイクロバス	
湯 田	7	1	マイクロバス	
仁 保	1	1	なし	
小 鯖	4	2	なし	
大 内	9	4	民間バス	
宮 野	8	0	マイクロバス	
吉 敷	7	2	マイクロバス	
平 川	6	2	マイクロバス	
大 蔵	6	2	民間バス	
陶	2	2	マイクロバス	
鑄銭司	2	0	なし	
名田島	2	0	なし	
秋穂二島	1	0	なし	
嘉 川	5	1	マイクロバス	
佐 山	3	0	マイクロバス	
小 郡	8	2	マイクロバス	
秋 穂	4	1	なし	
阿知須	0	0	なし	
出 雲	0	1	なし	
八 坂	0	1	なし	
島 地	2	1	なし	
串	0	1	なし	
柚 野	0	0	なし	
阿 東	4	1	なし	
その他	3	0	—	・ 山口市福祉員絡協議会 ・ 盲ろう者友の会 ・ 盲人福祉協会
合 計	94	27	12	

《成果と課題》

主に高齢者の外出支援の一つとして、各地区社会福祉協議会に活用してもらっている。利用団体からは、参加者同士の交流につながった、日頃外出機会の少ない者も楽しめた等の感想が多くあった。

今後も物価や人件費等の高騰が予想されるが、バス事業所等と協議し、負担金の現状維持を図りたい。

2) チェアキャブの貸出

○事業内容：身体に障がいがあるため社会参加や外出が困難な方に、車いすのまま乗車できる車両の貸出を行う。運転は家族または知人が行う。

○チェアキャブの貸出

配置場所	件数	配置場所	件数	配置場所	件数
本所・北部支所	51	南部支所	66	阿知須出張所	0
秋穂出張所	0	徳地出張所	14	阿東出張所	0
				合計	131

《成果と課題》

チェアキャブは、在宅の車いす使用者の方々の遠方への外出や、通院時等に貸出を行い、喜ばれている。各支所・出張所で利用件数に差があり、車両の維持費がかかることから、令和6年度から、本所・北部支所、南部支所、徳地出張所に車両を配置した。南部支所での利用が多く、通院目的の利用が多い。車いすの貸出の際に、併せて福祉車両の紹介や福祉員定例会でも事業説明し、周知した。

3) 福祉機器リサイクル事業の実施

* 受託事業

○事業内容:車いす、介護用ベッド、ポータブルトイレ、歩行器などの福祉機器を無料で貸し出す。(介護用ベッドは費用がかかる)

機器の種類	貸出件数	保有台数	機器の種類	貸出件数	保有台数
電動式ベッド	0	1	杖	11	26
歩行器	19	21	松葉杖	5	14
車いす	226	122	スロープ	2	7
介護テーブル	3	3	ポータブルトイレ	39	18
シャワーチェアー	17	19	浴槽台	2	5
介助バー	0	1	バスボード	0	3
手押し車	6	10	その他(マット・たっちあっぷ等)	12	18
浴槽用手すり	1	6	合 計	343	274

《成果と課題》

福祉機器の貸出についての相談は例年多くあり、必要に応じて貸出や情報提供を行った。特に車いす、ポータブルトイレの貸出についての相談が多かった。情報提供は市社協だより、市社協ホームページや福祉員定例会などで行った。引き続き、山口刑務所にポータブルトイレ等の消毒作業を行っていただいた。

基本的には、在宅利用を目的とした貸し出しを行っているが、緊急性を伴う場合は施設入居者(介護保険上在宅扱いの施設含む)への貸し出しも1箇月は可としている。要綱に則って貸し出すが、利用者の状況に応じて、組織で協議したうえで対応することになっている。

4) 移送サービスの実施

* 受託事業

合併前に、山口陸運支局の許可により、地域限定の移送サービス事業として行っている。

地域	利用件数	登録台数
阿知須	6	1
合 計	6	1

《成果と課題》

利用者は、車いす等のままで通院が必要な方が大半を占めている。地域によっては、民間介護タクシーの利用の増加等で利用者が減少傾向にあり、運転手(担い手)不足も課題である。

山口市と協議した結果、小郡および阿東での移送サービス事業は令和5年度をもって廃止となり、阿知須地区のみでの運用となっている。

(10) ボランティア活動の推進

1) ボランティアグループの活動支援

- 保険受付件数:基本タイプ3,972名、天災・地震補償タイプ251名
※大規模災害特例含む

2) ボランティア活動保険の掛金補助

- 補助団体数49団体

3) ボランティア活動に関する連絡調整

- 事業内容:ボランティアに関する相談について、必要な情報の提供や関係機関への連絡調整を行う。
- 相談件数:55件(個人12件、ボランティア団体15件、行政・関係機関23件、企業5件、その他0件)
- 内 容:派遣依頼22件、活動紹介16件、その他16件

4) 山口市ボランティアセンターの活用

- 山口ボランティアセンター 利用者数:802名(月平均67名)
利用団体:5団体
- 小郡ボランティアセンター 利用者数:797名(月平均66名)
利用団体:4団体

5) ボランティア活動器材の貸出

- 貸出件数:11件

6) ボランティア情報紙の発行

- 発行回数:年4回
ふれあい・いきいきサロン、有償在宅福祉サービスの広報紙を統合し、地域福祉課広報紙「結～YOU～」として発行した。

7) 使用済み切手の収集

- 毎月第2・4木曜日の午後から市ボランティアセンターで、使用済み切手の整理をボランティアが行っている。整理した切手は、切手収集家に送り換金され、ボランティア基金に積み立てている。
- また、活動費の管理のため、新たに口座を開設した。
- 現会員の高齢化に伴い、参加者が減少傾向であるため、新規会員の獲得が今後の課題である。

8) 意志疎通支援事業の推進

○体験講座の開催

<手話講座>※山口手話友の会、小郡手話友の会との共催

山口

日 時:12月11日(水) 午後6時30分～8時

場 所:しらすぎ会館

参加者:11名

講 師:山口手話友の会 会員

小郡

日 時:①11月5日(火)午前10時～正午

②11月29日(金)午後7時～8時30分

場 所:①山口市社会福祉協議会南部支所

②小郡地域交流センター

参加者:①9名

②7名

講 師:小郡手話友の会 会員

<要約筆記講座>※山口市要約筆記サークルやまびことの共催

日 時:5月18日(土)午前9時30分～正午

場 所:しらすぎ会館

参加者:18名

講 師:山口市要約筆記サークルやまびこ 会員

<点訳講座>小郡点訳サークルてんとう虫との共催

日 時:①11月12日(火) 午前9時30分～11時30分

②11月19日(火) 午前9時30分～11時30分

③11月26日(火) 午前9時30分～11時30分

④12月3日(火) 午前9時30分～11時30分

場 所:山口市社会福祉協議会南部支所

参加者:①8名

②9名

③10名

④10名

講 師:小郡点訳サークルてんとう虫 会員

<音声訳公開講座・体験会>

音声訳グループみずの会、朗読グループまごころの会、音声訳ボランティア小郡やまびこの会、
音訳ボランティア愛メイトと共催

日 時:10月29日(火)午前10時～正午

場 所:湯田地域交流センター

参加者:約70名(市内の音声訳ボランティアグループ含む)

講 師:安田知博氏(フリーアナウンサー、音訳指導者)

音声訳ボランティア小郡やまびこの会との共催

日 時:11月5日(火)午前10時30分～正午

場 所:小郡ボランティアセンター

参加者:7名

内 容:音声訳体験

<子どもボランティア講座>※山口と小郡で開催

山口

日 時:①7月26日(金) 午前10時～正午 手話体験

②8月2日(金) 午前10時～正午 点字体験

場 所:山口市ボランティアセンター

参加者:①8名

②7名

講 師:①ゆびの会

②点訳すぎなの会、点訳「のぼらの会」

小郡

日 時:①7月31日(水) 午前10時～正午 手話体験

②8月7日(水) 午前10時～正午 点字体験

場 所:小郡ふれあいセンター

参加者:①8名

②7名

講 師:①小郡手話友の会

②小郡点訳サークルてんとう虫

○関係ボランティア団体の会議

<市内点訳グループ情報交換会>

日 時:①7月17日(水)午後1時30分～3時

②令和7年3月10日(月)午後1時30分～3時

場 所:山口市ボランティアセンター

参加者:点訳のぼらの会、点訳すぎなの会、小郡点訳サークルてんとう虫、点訳コムニオの会

山口市障がい福祉課、山口市社会福祉協議会地域福祉課

内 容:福祉体験学習について、意思疎通支援普及啓発事業について、情報交換

<点訳・音声訳グループ情報交換会>

日 時:12月26日(木)午後1時30分～3時

場 所:南部支所

参加者:点訳のぼらの会、点訳すぎなの会、小郡点訳サークルてんとう虫、点訳コムニオの会

音声訳グループみずの会、朗読グループまごころの会、音声訳ボランティア小郡やまびこの会、
音声訳ボランティア愛メイト

山口市社会福祉協議会地域福祉課

内 容:情報交換(今後の講座について等)、市社協との意見交換

<市内音声訳グループ情報交換会>

日 時:①6月5日(水)午後1時30分～3時

②10月18日(金)午前10時～11時30分

③12月26日(木)午後3時15分～4時30分

場 所:①②山口市ボランティアセンター、③南部支所

参加者:音声訳グループみずの会、朗読グループまごころの会、音声訳ボランティア小郡やまびこの会、
音声訳ボランティア愛メイト

山口市社会福祉協議会地域福祉課

内 容:意思疎通支援普及啓発事業について、情報交換(今後の講師について等)

《成果と課題》

コロナ禍が明けたことで、ボランティア活動に対する連絡調整が増えた。特に敬老会などの季節のイベントに施設側からボランティアに来て欲しいという相談が複数件寄せられた。個人からの相談も今後増加すると見込まれるが、施設・団体からの依頼もコロナ前へ回復しつつある。

また、本年度も市ボランティア連絡協議会の加入グループと協働で一般・子ども向けに体験講座を開催し、参加者が講座後、ボランティアグループに加入された。このように、啓発も含めて既存グループと一緒にあって、人材発掘に努めていきたい。

他方団体の高齢化に伴い解散や担い手不足の話もよく耳にするようになっている。また、次年度から補助金制度も変化することになるため、民間助成金を紹介することも必要になる。今後も、新しいボランティアの発掘や広報を他の事業と組み合わせるなど、様々な関連機関と連携し、情報収集に努め、ボランティア活動のマッチングを行っていきたい。

(11) ボランティア(ひとづくり)養成講座の開催

1) ひきこもり支援公開講座の開催支援

山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会が主催する研修会において、ひきこもりに関する現状や支援をテーマとした一般公開講座の開催を支援した。

○主 催:山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会

○目 的:山口市における不登校の現状と学校の取組について理解すること

○開催日:令和7年2月6日(木)午前10時～11時30分

○参加者:73名(一般参加者含む)

《成果と課題》

本年度の一般公開講座は、山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会の研修会において「山口市の不登校への取組について～子どもの幸せのために学校・地域・家庭がつながろう～」をテーマとして開催した。

参加者からも「よく理解ができた」「思うだけではなく行動していこうと思った」等のアンケート結果があり、地域

や法人ができることについて考えるきっかけとなった。また、公開講座後、市内の社会福祉法人が不登校の子の受入れ先として市と協議をすすめ、新たに事業を始められている。

2) 山口市災害ボランティア研修会の開催

○目的:地域における防災意識の向上と新しい行動様式を踏まえた災害ボランティアの周知・啓発

○開催日:令和7年1月17日(金)

○会場:山口県総合保健会館

○対象:災害ボランティア登録者、災害時支援協定締結団体、地区社協

民生委員・児童委員、福祉員、一般住民等

○報告:能登半島地震の支援～支援者からの報告～

報告者:特別養護老人ホーム秋穂あかり園 岡本 竜司 氏

山口県社会福祉協議会

大倉 福恵 氏

山口市社会福祉協議会

職員

○説明:山口市災害ボランティアセンターについて

○参加者:157名

《成果と課題》

本年度は、能登半島地震の支援に携わった方々に現地の様子や支援内容お話をいただいた。特別養護老人ホーム秋穂あかり園 岡本氏には、3月に金沢市に設置された1.5次避難所のことを、山口県社会福祉協議会 大倉氏には、夏季に行かれた輪島市での災害ボランティアセンター運営支援のことを報告いただいた。本会からも3月から4月にかけて能登町へ災害ボランティアセンター運営支援として職員を派遣しており、派遣された職員からの報告も行った。山口市における災害ボランティアセンターの設置の流れ等も職員より説明を行った。

災害に対する関心が高まっている今、今後も市民の一人一人が災害を自分のこととして捉えられるような内容を検討し、開催していきたい。

3) 「災害時における協力に関する協定」に関する会議の開催

本会は、平成21年度に小鯖地区、平成25年度に阿東地区にて、災害ボランティアセンターを設置したが、本会だけでの運営では限界があった。このため、他機関と協定を結び、災害が発生した場合のセンターの機能強化に努めることにした。平成30年度5月に、山口市職員労働組合といのちを守る防災危機管理協会と協定を結び、当年度2月に本会議を開催した。その後は、本会議を令和元年度から災害が発生しやすい時期前の5月に顔を合わせて情報交換・共有等を目的に開催している。令和元年度12月に山口青年会議所と協定を結び、また、令和5年度12月に山口ライオンズクラブ、山口西京ライオンズクラブ及び山口中央ライオンズクラブと協定を結び顔合わせを行っている。

○開催日:5月13日(月)

○会場:山口市福祉センター

○参加者:山口市職員労働組合 1名、いのちを守る防災危機管理協会 2名、山口青年会議所 1名

山口ライオンズクラブ 2名、山口西京ライオンズクラブ 2名、山口中央ライオンズクラブ 1名

《成果と課題》

令和6年度は山口市において災害ボランティアセンターを設置することはなかったが、協定団体同士顔を合せて協議し、緊急時の連絡先も交換しておくことは、いざという時、円滑なセンター運営のために必要不可欠である。また、この時に意見をいただいた大学との連携について、市職労等に協力いただき、スムーズに依頼する方法(県社協及び市職労経由)の確認ができた。

4) 山口市災害ボランティアセンターの設置・運営等

令和6年度山口市内において実績なし。

※能登半島地震の被災地への派遣として、本会職員の1名を令和6年3月27日～4月2日まで能登町へ派遣した。この経験を活かし、派遣職員及びボランティア担当を中心にキントーンを活用した研修会を講師に県社協を招き2回実施した。また、災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルの更新(キントーンの活用など追記)を行った。

(12) 福祉教育の推進

1) 福祉教育事業の企画・実施

○小・中学生等の福祉体験学習への協力及び体験用具の貸出

- ・車いす、高齢者疑似体験、点字、ガイドヘルプ、手話等
- ・各小・中学校に福祉教育に取り組むため、福祉教育・福祉体験学習プログラムを活用しながら、ユニバーサルデザインの啓発用(福祉教育)DVDの活用も行った。
- ・小学校…23校(延べ84回) ・中学校…2校(延べ4回) ・その他…4件(延べ9回)
- ・取り組み人数 延べ4,669人
- ・体験用具等貸出
車椅子…25件 高齢者疑似体験…30件 点字盤…11件
白杖…14件 ユニバーサルデザイングッズ…5件 福祉教育 DVD…3件

2) 福祉体験学習研修会の開催

○地区福祉員協議会等で依頼があった際に福祉体験学習を実施した。

3) 福祉教育推進協力校の指定

* 受託事業

○目的: 次代を担う小・中学生を対象として、福祉の心を育て社会福祉への理解と関心を高め、社会奉仕、助け合い、社会連帯の精神を育成するとともに児童・生徒を通じて家庭や地域で福祉の心を育める総合的教育の啓発、体験、実践、研究を行うことを目的として福祉教育推進協力校の指定を年次的に推進する。

○協力校数: 小学校 7校、中学校 4校

(令和6年度指定校 興進小、佐山小、小鯖小、小郡小、島地小、八坂小、さくら小、宮野中、川西中、仁保中、徳地中)

○指定期間: 1年

○協力校の活動: それぞれの地域の実情に合わせ、地域住民、ボランティア、社会福祉協議会の協力を得て、下記の活動を実施

- (1) 福祉体験学習
- (2) 福祉講演会、映画会、展示会等による福祉意識の啓発
- (3) 社会福祉、地域の福祉課題についての調査研究活動

- (4) 地域社会で生活している高齢者、障がい者などに対する実践活動や地域内の社会福祉関係・団体等の交流会
- (5) 社会福祉施設等への訪問、体験活動及びボランティア活動
- (6) 社会福祉関係行事等への参加
- (7) 福祉関係紙、学区新聞等の配布、広報活動
- (8) 家庭、地域社会への啓発活動
- (9) 災害時における地域の福祉課題を学ぶ活動
- (10) 福祉に関する制度・サービスについて学ぶ学習活動
- (11) その他目標達成のために必要な活動

- 市社協の役割
- (1) 福祉体験の助言及び指導
 - (2) 活動に関する相談、情報提供、活動の場コーディネート
 - (3) 助成金の交付

○助成基準 1年につき2万円(上限)

興進小学校

- 事業内容
- 1. 手話体験、点字体験、アイマスク体験(白杖)
 - 2. 書籍の購入等

佐山小学校

- 事業内容
- 1. 手話を学ぼう
 - 2. 総合的な学習(手話、車いす、高齢者、地域防災などの体験学習)

小鯖小学校

- 事業内容
- 1. 車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字体験
 - 2. 鳴滝園への訪問
 - 3. 保護者と一緒にパラスポーツ大会の実施

小郡小学校

- 事業内容
- 1. 高齢者疑似体験、点字体験、車いす体験、要約筆記体験
 - 2. 講演会(視覚障害者の方から、聴覚障害者の方から)
 - 3. 小郡小周り(公共施設)の道路見学
 - 4. 「福祉とは何か」についてのお話

島地小学校

- 事業内容
- 1. 地域の高齢者を中心とした団体との交流活動
 - 2. 福祉に関する本を読み、ユニバーサルデザインなど福祉に関する知識を増やす
 - 3. 福祉について学んだことをまとめる活動

八坂小学校

- 事業内容
- 1. 高齢者とのグラウンドゴルフ体験

さくら小学校

- 事業内容
1. 人権教育講演会「ターシャと散歩～盲導犬って何？～」
 2. 福祉に関する書籍の購入

宮野中学校

- 事業内容
1. 乳幼児ふれあい体験事業

川西中学校

- 事業内容
1. 高齢者疑似体験
 2. 福祉講演会

仁保中学校

- 事業内容
1. 小・中地域合同人権学習会
 2. 認知症サポーター養成講座
 3. つながりの花(ひらきの里の方と鉢植え、にほ苑ほか近隣事業所に配付)
 4. ボランティア(はるひ苑のクリスマス会と餅つきに参加)
 5. 敬老会のボランティア
 6. 結、お元気ですかを校内掲示板に掲示、校長だよりの配付
 7. 学校ホームページで活動の様子を発信
 8. ふくしの寺子屋授業in仁保中学校

徳地中学校

- 事業内容
1. 高齢者疑似体験
 2. 講演会「あなたも大切、私も大切！～人を笑顔にするコミュニケーション～」
 3. はがき交流、思春期子育て体験学習
 4. 職場体験授業(特別養護老人ホーム)、募金活動、書き損じはがき収集
 5. 学校だより、学校広報の作成
 6. 保護者、地域を対象とした子育て等に関する会(保護者カフェ)の実施2回
 7. 避難訓練(大雨、火災)の実施

4) 福祉教育推進協力校の情報交換会の開催

* 受託事業

平成22年度・23年度指定福祉教育推進協力校(平川小学校、鑄銭司小学校、阿東中学校)と
 平成23年度・24年度指定福祉教育推進協力校(大殿小学校、白石小学校、湯上中学校)、
 平成24年度・25年度指定福祉教育推進協力校(小鯖小学校、小郡小学校、阿東東中学校)、
 平成25年度・26年度指定福祉教育推進協力校(島地小学校、さくら小学校、川西中学校、仁保中学校)、
 平成26・27年度指定福祉教育推進協力校(佐山小学校、八坂小学校、宮野中学校、徳地中学校)、
 平成27・28年度指定福祉教育推進協力校(大内小学校・興進小学校・小郡南小学校、湯田中学校)、
 平成28・29年度指定福祉教育推進協力校(名田島小学校・中央小学校・白石中学校・小郡中学校)、
 平成29・30年度指定福祉教育推進協力校(湯田小学校、二島小学校、大殿中学校、大内中学校)、
 平成30・31年度指定福祉教育推進協力校(大内南小学校、秋穂小学校、平川中学校、秋穂中学校)

令和元年・2年度指定福祉教育推進協力校(良城小学校、仁保小学校、生雲小学校、阿知須中学校)

令和2・3年度指定福祉教育推進協力校(宮野小学校・陶小学校・徳佐小学校・二島中学校)

令和3・4年度指定福祉教育推進協力校(柚野木小学校・串小学校・上郷小学校・鴻南中学校)

令和4・5年度指定福祉教育推進協力校(大歳小学校・嘉川小学校・阿知須小学校・井関小学校・大海小学校)

令和5年度ですべての小・中学校が推進協力校に指定された。令和6年度もすべての小学校、中学校(計48校 柚野木小学校、串小学校は令和6年3月末で廃校)を対象に案内し、山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会と情報交換を行った。

《成果と課題》

本年度は、市内小学校・中学校と山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会で情報交換を行った。

初めての試みであったが、お互いに有益な研修会となった。

また、市内で介護体験授業を実施した中学校及び社会福祉法人から事例発表をしていただいた。

アンケートには「いろいろな立場の方の参加があり、学校だけに限らず広い視野が持ててよかった」「是非とも今後も開催してほしい」というご意見があった。今後も、学校や法人また、地域の方や他の団体なども巻き込んで福祉教育を推進していくことが課題である。

(13) 企業の社会貢献活動の推進

1) 企業の社会貢献活動の支援

○企業ボランティア活動促進モデル事業所の推薦

有限会社仁成堂を推薦し、モデル事業所に指定された。

3 見守り訪問活動及び地域支え合い活動の推進

(1) 小地区見守り訪問活動の推進 * 受託事業

○事業内容:ひとり暮らし高齢者等の安否確認のため、自治会(町内)または民生委員・児童委員担当地区ごとに見守り訪問グループを結成し、要援護者を地域で見守るという主旨で友愛訪問活動を実施する。

地区名	見守り訪問対象者数	グループ数	地区名	見守り訪問対象者数	グループ数
大 殿	161	38	鑄銭司	112	18
白 石	213	54	名田島	25	11
湯 田	639	23	秋穂二島	50	50
仁 保	52	9	嘉 川	109	29
小 鯖	115	31	佐 山	90	90
大 内	677	40	小 郡	296	46
宮 野	193	138	秋 穂	115	21
吉 敷	131	24	阿知須	98	13
平 川	312	31	徳 地	143	47
大 歳	328	28	阿 東	168	5
陶	57	15	合計	4,084	761

《成果と課題》

前年度と同様に山口市の高齢化率は高まっているが、ひとり暮らしの高齢者や高齢の二人暮らし世帯の対象者はあまり増えていない現状がある。しかし、悪質な業者等にだまされる等もいまだに発生しているため、未然防止や、認知症等で気になる人を孤立させないように地域で関わるのが引き続き重要である。

今年度は、見守り訪問活動についての現状やこれまでの活動の取り組みが見守り訪問活動に繋がっていることを伝え、ツールとして「小地区見守り訪問活動について」のDVD等を活用した。ただ、何度も見ている方もおられるため、新たに作成する等も検討の一つと考える。

また、活動する際の知識として、各地区で研修会を実施し、高齢者の異変に気づくための情報共有も見守り活動の一環となっている。市内において要援護者をグループで支援するこの活動も徐々に浸透し、グループでの見守り活動の方法が重要になっているが、次年度は民生委員・児童委員の改選や福祉員の改選の年度であり、各地区の見守り体制が継続されるか懸念であるため、継続して地域包括支援センターや生活支援コーディネーターとも連携していく必要があると考える。

地区名	日 時	主な内容	参加者
大 殿	11月30日(土) 午前9時30分～11時30分	・小地区見守り訪問活動の現状と課題 ・活動報告	44
白 石	7月23日(火) 午前9時30分～11時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・事例発表及びグループワーク「事例検討」	25
湯 田	5月22日(水) 午前9時30分～正午	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 (DVD視聴)及び体験談講話(能登半島地震) ・事例及びグループワーク(町内ごとに情報交換)	72

地区名	日 時	主な内容	参加者
仁 保	5月2日(木) 午前10時25分～11時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・グループワーク【事例検討】	11
小 鯖	6月27日(木) 午後2時30分～3時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・包括支援センターからの話 ・グループワーク「地域の支え合いについて」	72
大 内	10月10日(木) 午後1時30分～2時	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明	45
宮 野	4月7日(日) 午前10時～午後0時30分	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・高齢者保健福祉総合調査について ・事例発表 ・グループワーク 対象者の把握(民生委員・児童 委員と福祉員の個別協議)	66
吉 敷	10月21日(月) 午後1時30分～4時	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・包括支援センターからの話(高齢者の見守りに について) ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題」	59
平 川	① 7月6日(土) 午前10時～11時55分 ② 12月7日(土) 午前10時～11時50分	①②友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・事例発表 ・グループワーク「地域支え合いマップ」と「そのま とめ」の更新及び情報交換	①75 ②69
大 歳	① 7月7日(日) 午前9時30分～11時30分 ② 令和7年1月11日(土) 午前10時～11時30分	①②友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の 説明(DVD 視聴) ①②地域包括支援センターからの話 ①大学名誉教授による話 ①グループワーク(民生委員・児童委員と福祉員 の個別協議)	①81 ②69
陶	6月28日(金) 午後1時30分～3時10分	・講演(防災士) ・グループワーク(民生委員・児童委員と福祉員 の個別協議)	21
鑄銭司	8月3日(土) 午前10時～正午	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題 について」	29
名田島	6月6日(木) 午後7時～午後8時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「災害時等地域支え合いマップ 更新作業」	64
秋 穂 二 島	7月30日(火) 午後1時30分～3時30分	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 ・防災講座 ・グループワーク「地域支え合いマップ」の更新及 び情報交換	37

地区名	日 時	主な内容	参加者
嘉 川	6月26日(水) 午前10時～11時40分	・友愛訪問活動(小地区見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・関係機関の連帯について ・避難マイプランについて ・グループワーク「見守り訪問活動の現状と課題」 見守り対象者の確認、グループ員一覧表作成	72
小 郡	①7月19日(金) ②7月22日(月) ③7月31日(水) 午後1時30分～3時30分	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 (DVD 視聴) ・「地域支え合い活動」を進めるにあたって ・災害時避難行動要支援者の支援について ・グループワーク、事例発表 「向こう三軒両隣トーク」	101
秋 穂	7月12日(金) 午前11時～午後3時	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・グループワーク「地域支え合いマップ」の更新及 び情報交換	61
八 坂	5月23日(木) 午後1時30分～2時30分	・見守り訪問活動について ほか ・グループワーク	46
島 地	4月25日(木) 午前10時～11時	・友愛訪問活動について	30
柚 野	5月16日(木) 午前9時30分～10時40分	・見守り訪問活動について ほか	24
串	11月15日(金) 午前9時30分～正午	・友愛訪問活動(小地域見守り訪問活動)の説明 ・講話「自主防災組織の活動事例から学ぶ」 ・グループワーク情報交換(見守り対象者の確認)	21

《成果と課題》

見守り訪問グループ員研修会は、研修メニューの中から地区社協の選択により実施された。市内21地区社協で開催され、本会職員も同席して研修会の企画、運営の支援を行った。見守り訪問活動につながる活動として、高齢者のサロンや百歳体操などの集いの場やふれあい型給食など既存の活動が見守りにつながることを改めて周知した。

(2) ふれあい型給食サービス事業の推進

* 受託事業

1) ふれあい型給食サービス事業の実施

○事業内容: 概ね65歳以上のひとり暮らしの高齢者、75歳以上の高齢者のみの世帯、単身の障がい者世帯で給食を必要とし、かつ地域との交流が必要な方に月1回、見守り活動を兼ねて地域のボランティアがお弁当を届ける。

○利用人員 892名

○延利用人員 8,710名

○実施地区: 12地区

○実施頻度: 月1回(昼食または夕食)

地区	実施回数	利用対象者	対象人員	延利用者数 (R6.4～R7.3)	調理会場
大殿	月1回(夕食) 第1水曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	22名	236名	太陽堂旅館
白石	月1回(夕食) 第2火曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者 ・75歳以上の高齢者のみの世帯 ・単身の身体障害者	206名	1,910名	いちやなぎ
大内	月1回(昼食) 第2・第3木曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者	131名	1,408名	大内地域交流センター
宮野	月1回(昼食) 第1木曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等 ・身体障害者等	104名	977名	ふしの学園
吉敷	月1回(夕食) 第3木曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	53名	537名	吉敷地域交流センター (自主調理と委託調理を混ぜている)
平川	月1回(夕食) 第2火・水曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	68名	669名	山口あかり園
陶	月1回(昼食) 第2水曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者もしくは夫婦が高齢者同士	48名	480名	温泉ホーム 日吉台
鑄銭司	月1回(昼食) 第4火曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者 ・75歳以上の高齢者のみの世帯 ・単身の身体障害者	42名	361名	まるしょう鑄銭 司店
名田島	月1回(夕食) 第3火曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者 ・78歳以上の高齢者のみの世帯	31名	319名	まるしょう鑄銭 司店
秋穂 二島	月1回(昼食) 第1火曜日	・70歳以上のひとり暮らし高齢者等 ・75歳以上の高齢者のみの世帯	43名	423名	山口秋穂園
嘉川	月1回(夕食) 第3水曜日	・75歳以上のひとり暮らし高齢者 ・80歳以上の高齢者夫婦	98名	951名	温泉ホーム 日吉台
佐山	月1回(昼食) 第4水曜日	・65歳以上のひとり暮らし高齢者等	46名	439名	佐山地域交流センター

2) 給食サービス関係者食品衛生(食中毒対策)研修会の開催

○事業内容:ふれあい型給食サービス事業の食中毒予防対策として、本会の主催による給食サービス関係者食品衛生(食中毒対策)研修会を開催する。

開催日	5月21日(火)
会 場	山口県総合保健会館
参加者数	25名

3) ふれあい型給食サービス事業実施地区交流会の開催

○事業内容:ふれあい型給食サービス事業の実施地区を対象とした交流会を2年に1回開催する。

開催日	10月7日(月)
会 場	山口市社会福祉協議会南部支所
参加者数	14名

《成果と課題》

本事業は、配食者が見守り訪問活動の一環として利用対象者の安否確認をすること、配食をきっかけに地域交流を促進し、地域のつながりが形成されることを目的とし、現在12地区が事業を実施している。

各地区での課題として、物価高騰による食材費の高騰や調理委託事業者の食費の値上げが続いていることから、令和7年度から利用者負担金の値上げを予定する地区が増えている。

本年度は5月に給食サービス関係者食品衛生(食中毒対策)研修会を開催し、参加者は25名であった。各地区で自主研修会を行う地区も増えていること、自主調理実施地区が以前よりも減っているため、本研修会参加者が少なくなっていると考えられる。

また、今年度は2年に1回実施の事業実施地区情報交換会を開催し、各地区での実施状況、課題等をグループに分かれ情報交換を行い、「他地区の状況を共有ができ有意義であった」等の意見とともに、「若い人のボランティアが少ないので困っている」、「人材不足、協力体制が減少している」等の意見があった。

4 地域子育て支援機能の充実

(1) 児童福祉事業の推進

1) 山口市山口児童館の運営

* 指定管理事業

事業	名 称	内 容	時期・回数	対象・人数	成果と課題
自由 来館	施設開放	遊戯室、児童遊園を開放し、子どもの遊び等の活動場所とする。ともに、保護者の交流場所とする。	通年 開館日291日 ※臨時休館2日 (うち豪雨1日・館内 清掃1日)	乳児・幼児・児童・その他 計17,712名	交流の場作りに取り組んだ。備品等が老朽化しているため、計画的な入れ替えが必要である。
	HAPPY スペース	2階図書室を中・高校生を中心に自習室・団欒室として開放。	9:00～16:30	小・中・高生 計1,048名	特に中学生の利用が多かった。
	プール開放	夏休みに児童遊園のプールを開放し、水遊びの場所とする。	7月24・25・26・31日 8月1・2・7・8・9日 計9回	幼児・児童 80名 保護者42名 計122名	職員が監視し、怪我や事故なく実施することができた。猛暑や設備の老朽化もあり利用人数は減少している。
連続 講座	やんちゃクラブ	親子の遊びや活動を通した居場所づくり、仲間づくり。(子育て相談を含む)	木曜日/月 3 回 程度 10:00～11:00 計 27 回	未就園児とその保護者 計760名	月ごとの申し込みで多くの親子の活動の場を提供することができた。
	がらくたらんど	工作や絵画活動、集団遊びを通した人間関係づくり。(子育て相談を含む)	月2回水曜日 15:45～16:45 計 20 回	小1～小3 13名	通年で活動を行うことができた。来年度はより参加しやすい実施方法に変更する。
単独 講座	ぶれい☆メイト	大学生との工作や、レクリエーション活動。	月1回土曜日 (4月～7月) 13:30～15:30 (4回実施)	3歳～小6 66名 保護者44名 大学生75名 計185名	大学生と工作やレクリエーション・自由な遊びを通して交流を行った。
	ももたろうクラブ	活動を通して子どもから高齢者まで多世代の交流を行う。	不定期 (1回実施)	3歳～小6 16名 保護者14名 計30名	しめ縄作りを通して多世代の交流を行った。
	ひよっこり講座	様々な製作や遊びの体験活動。 作物の苗植えや収穫。	不定期 (3回実施)	乳幼児・小学生 33名 保護者13名 計46名	タイルの鍋敷き作りを実施した。玉ねぎやさつまいもの収穫を楽しんだ。
	特別講座	専門講師による講座	不定期 (3回実施)	幼児小学生 62名 保護者19名 計81名	木製立体パズル作りやサイエンスショー、科学工作を行った。お正月遊びの探究講座も実施した。
	おはなしライブラリー	読み聞かせ、ペープサート、人形劇、エプロンシアター等	年10回不定期 (9回実施)	乳幼児・児童・保護者 計189名	児童館職員による紙芝居、パネルシアターを実施した。
	プラレールの日	広い部屋でプラレールで自由に遊ぶ	不定期 (7回実施)	乳幼児・児童・保護者 計275名	前年度より多くの親子の参加があった。

事業	名 称	内 容	時期・回数	対象・人数	成果と課題
	移動児童館	製作やレクリエーション	不定期	内容から設定	未実施
行事	おはなしラリー	山口学芸大学学生による様々な手法のお話会	6月22日(土) 13:30～15:30	ぶれい☆メイト事業でカウ ント	ぶれい☆メイト事業 の中で七夕の劇や工 作、ゲームを行った。
	ゲームラリー	施設内での様々な手 作りゲーム活動。	9月14日(土) 13:30～15:30	3歳～小6 37名 保護者26名 高校生・大学 生8名 計71名	施設内の10個のゲ ームをクリアし得点 を競って楽しんだ。 幼児の参加が増えて いる。
	運動会	児童館と大学生企画 による運動会。	10月19日(土) 13:30～15:30	3歳～小6 33名 保護者24名 大学生29名 計86名	雨天のため室内で実 施した。大学生企画 の競技も行い、家族 で楽しむことができ た。
	舞台芸術公演	劇団員による演劇鑑 賞・ワークショップ	11月2日(土) 10:00～11:30	3歳～小6 29名 保護者17名 計46名	笑いの要素が多く、 皆よく見ていた。音遊 びやパントマイムは 人気で楽しんでい た。
	秋祭り	各種ゲーム、飲食コー ナーでの体験活動。 ダンボール迷路の委 託設置。	11月16日(土) 13:30～15:30	3歳～小6 39名 保護者30名 大学生14名 計83名	大学生の協力を得な がらお店やゲームの 充実を図った。
	クリスマス会	音楽や劇の鑑賞、ゲ ームなど。	12月14日(土) 13:30～15:30	3歳～小6 39名 保護者28名 大学生31名 計98名	大学生による出し物 や劇などとても好評 だった。

《成果と課題》

- ・全体として昨年度と同規模で行事を行うことができた。参加者についても、ほとんどの講座で昨年度より参加人数は増えている。猛暑や設備の老朽化によりプール開放時の利用人数が減少しており、プール開放に代わる夏休み中の他の魅力ある講座の開催などを検討する。
- ・運動会やクリスマス会は、大学生(山口BBS会・学芸大)が主に企画し実施。コロナ禍を経て子どもたちと関わる学生の育成が課題となっている。次年度も課題を踏まえながら、子どもたちに参加してよかったと思ってもらえるような、より良い行事を行いたい。
- ・小学生が参加する「がらくたらんど」は、年々利用者数が減少している。来年度、対象年齢の幅を広げるとともに、工作の部またはレクリエーションの部といった希望の部に参加してもらうことで利用者を増やしていきたい。
- ・未就園児親子が参加する「やんちゃクラブ」は、今年度も多くの親子の参加があった。来年度も引き続き、多くの親子の楽しめる居場所づくりに取り組みたい。
- ・同じ施設内のあっと児童クラブとは、月1回のミーティングを行うことで情報共有・課題の解決に繋げることができた。今後も職員の連携・安全対策等を行いながら双方がよりよく利用できる方法を考えていく必要がある。
- ・児童遊園のシンボルともいえる「ひょっこり山」が老朽化により撤去された。跡地では、縄跳びや鬼ごっこなど平面を使って遊んでいる。遊具や設備の劣化による修繕等は今後もあり、利用する子ども達の安全を第一に計画的に実施していきたい。

2) 秋穂コミュニティセンターの運営

* 受託事業

○事業内容: 山口市より委託を受けた山口市秋穂コミュニティセンターの適正な管理運営を行い、センターとして地域住民と密接な連携を保ちながら、児童の健全育成に努める。

令和6年度 秋穂コミュニティセンター事業報告			
月	主な行事		会議、定例会、その他
4	2日～7日	さくらウィーク スマイルクラブ 6名	囲碁将棋定例会8回31名 ひまわり会(自彊術)4回35名 団体利用89名
	13日	みて! さがして串山ハイキング 16名 (共催: 秋穂地域交流センター)	職員会議(本所)5名
5	11日	フラワーアレンジメント教室 17名	囲碁将棋定例会7回26名 ひまわり会(自彊術)5回45名
	16日・17日	職場体験(秋穂中学校) 2名	団体利用8名
6	16日	スマイルクラブ 9名	囲碁将棋定例会9回33名 ひまわり会(自彊術)5回37名 団体利用30名 嘱託会議(会場: 秋穂)7名 職員会議(山口市・本所)7名
7	6/30日～7日	わくわくウィーク(たなばた製作) スマイルクラブ 13名	囲碁将棋定例会9回42名 ひまわり会(自彊術)4回36名 団体利用 97名
	21日 23日・26日	出前児童館(ゲームあそび) 延80名	
8	28日	山口市花いっぱい花壇コンクール 出前児童館(防災教室) 42名	囲碁将棋定例会8回 36名 団体利用103名
9	29日	第98回囲碁大会 20名	囲碁将棋定例会8回35名 ひまわり会(自彊術)4回36名 団体利用44名 職員会議(本所)4名
10	16日・20日	スマイルクラブ 延43名 (あいおコミまつり練習・持久走練習)	囲碁将棋定例会8回32名 ひまわり会(自彊術)4回35名
	27日	あいおコミまつり 247名	団体利用72名 職員会議(本所)5名 巡回聴取(本所)2名
11	10日・17日	スマイルクラブ 延20名	囲碁将棋定例会8回31名
	24日	(持久走練習)	ひまわり会(自彊術)4回36名
	24日	からだリフレッシュ講座 17名	団体利用89名

令和6年度 秋穂コミュニティセンター事業報告			
月	主な行事		会議、定例会、その他
12	1日	クリスマス会(オペレッタ劇「白雪姫」)	囲碁将棋定例会8回35名
	22日	70名 工作教室(ミニ門松作り) 34名	ひまわり会(自彊術)4回32名 団体利用36名 職員会議(本所) 5名
令和7年 1	16日	運営委員会 13名	囲碁将棋定例会8回38名
	26日	第99回囲碁大会 14名	ひまわり会(自彊術)4回39名
2	1/28日～	わくわくウィーク(節分製作)	囲碁将棋定例会7回27名
	2日		ひまわり会(自彊術)4回36名 団体利用6名 職員会議(本所)5名
3	9日	にこにこハイキング 27名	囲碁将棋定例会8回34名
			ひまわり会(自彊術)3回29名 団体利用297名 囑託会議(会場:小郡)5名

○その他の事業

- ・図書の貸し出し
- ・防災啓発活動(防災教室/年1回・避難訓練/月1回)

【成果と課題】

- ・周辺の小学校支援学級や放課後デイサービスの利用、行事の参加者や土日の来館者数が増加した。しかし夏休みの平日利用は今年も猛暑のため、こどもだけの来館が難しく利用が少なかった。
- ・本年度はいつ来ても楽しめる、「わくわくウィーク」というイベント週間を実施した。製作活動を通じて、昔ながらの風習を体験出来る場を提供した。また小・中学生の居場所づくりとして、「スマイルクラブ」の活動に取り組んだ。1年を通じた活動の中で、こども達の自主性と協調性を育むことが出来た。
- ・2回目となった「コミまつり」では、地域住民とこどもとの繋がりを提供するコミュニティセンターとしての役割を果たすことができた。今年度はスマイルクラブとボランティアによる人員確保が出来たが、継続的に開催するには、今後も人員確保のお願いをしていかなければならない。

3) 放課後児童クラブの運営

* 受託事業 * 指定管理事業

①小郡児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) * 指定管理事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

- ・放課後児童クラブ事業の円滑な運営(支援員45名+補助員16名)
(長期休業期間に非常勤支援員6名、シルバー人材センター8名増員)

登録学童 290名(5学級)

開設日数 ひまわり学級 292日開設(土曜日50日) 登録学童 60名(3月末50名)

開設日数	ひまわり第2学級	292日開設(土曜日50日)	登録学童	60名 (3月末50名)
開設日数	ひまわり第3学級	292日開設(土曜日50日)	登録学童	60名 (3月末53名)
開設日数	はちのこ学級	292日開設(土曜日50日)	登録学童	60名 (3月末51名)
開設日数	はちのこ第2学級	292日開設(土曜日50日)	登録学童	50名 (3月末50名)

各種事業

月	日	曜日	事業内容
4	1 19	月 金	・保育開始 ・小郡小学校挨拶(はちのこ・はちのこ第2学級) ・上郷小学校挨拶(ひまわり・ひまわり第2・ひまわり第3学級)
7	22 22・23	月 月、火	・小郡小学校との連絡会(はちのこ・はちのこ第2学級) ・上郷小学校との連絡会(ひまわり・ひまわり第2・ひまわり第3学級) 学級毎に担任の先生と調整後、実施
11	17	日	・令和7年度小郡小・上郷小学校区放課後児童クラブ入級説明会
令和7年 3	15 31	土 月	・学級別保護者説明会(はちのこ・はちのこ第2学級・ひまわり・ひまわり第2・ひまわり第3学級 各学級で開催) ・保育終了

※各学級でお楽しみ会、クリスマス会など開催

【職員の研修関係】

5月～6月 放課後児童支援員認定資格研修
 6月25日(火) 放課後児童クラブ支援員新人研修会
 9月26日(木) 第1回児童クラブ代表者会議
 10月28日(月) 児童クラブ支援員及び補助員全体研修
 令和7年
 3月14日(金)・18日(火) 放課後児童健全育成関係職員等中堅者研修会
 3月5日(水) 第2回放課後児童クラブ代表者会議
 その他研修会(市社協職員研修、南部支所衛生委員会等)

《成果と課題》

令和6年度から、小郡小学校区では、はちのこ第3学級が開級し、待機児童も解消された。上郷小学校区もピーク時より児童数が減少し、待機児童は解消されたが、高学年の引き続きの利用、長期休暇のみの利用者の増加がみられる。本事業の利用を希望される世帯は継続的に一定数おり、放課後、子どもが安心して過ごせる生活の場を提供できるよう支援員、保護者、小学校、地域が連携した学級運営に努めていく。

加配児童や気になる児童が増加傾向にある。支援員の人数に余裕はなく、職員の人員確保が課題である。

②秋穂児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) *受託事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。
 ・児童クラブ事業の円滑な運営(児童厚生員2名+支援員11名、夏季休業期間2名の補助員増員)

開設日数 秋穂児童にこにこ学級 293日開設(土曜日48日) 登録学童 36名 (3月末34名)

開設日数 大海なかよし学級 290日開設(土曜日48日) 登録学童 30名 (3月末26名)

各種事業

月	日		事業内容
4	1 9	月 火	・保育開始(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・入級式(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
5	27	月	・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・運動会振替休日(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・避難訓練(大海なかよし学級)
6	17	月	・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・さつま芋の苗植え(秋穂児童にこにこ学級) ・参観日振替休日(大海なかよし学級)
7	11 12	木 金	・夏季休業前保護者会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・作成活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・大掃除(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
8	23 30	金 金	・水遊び(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・制作活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・にこにこフェス(発表会)(秋穂児童にこにこ学級) ・夏祭り(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)台風接近閉級
9	25	水	・防災訓練(秋穂児童にこにこ学級)
10	30	水	・ハロウィン制作 ・ハロウィンパーティー(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
11	6	水	・芋ほり(秋穂児童にこにこ学級) ・制作活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)
12	24 27	火 金	・クリスマス会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・大掃除
令和7年 1	16 27	木 月	・制作活動(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・運営委員会開催 ・振替休日(秋穂児童にこにこ学級)
2	3	月	・節分行事(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・制作活動
3	13 14 26	木 金 水	・新年度保護者会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級) ・お別れ会(秋穂児童にこにこ学級、大海なかよし学級)

【職員の研修関係】

- ・放課後児童支援員認定資格研修
- ・児童クラブ代表者会議
- ・児童クラブ支援員及び補助員全体研修
- ・児童館長、児童厚生員等研修会
- ・放課後児童健全育成関係職員等中堅者職員研修会
- その他研修会(市社協職員研修、南部地区嘱託会議、救命救急講習等)

《成果と課題》

放課後、子どもが安心して過ごせる生活の場を提供できるよう支援員、保護者、小学校、地域が連携した学

級運営に努めている。共働き世帯、核家族世帯、1人親世帯など、本事業の利用を希望される世帯が増えている。開所時間延長事業の利用者が多く、登録児童の4割弱が利用している。

学童内における行事、制作等は、子ども達が何に興味があるのかリサーチし少しでも子ども達が楽しめるような内容のものを考え実践した。

その結果、子ども達も新しいことに取り組んだ喜びと、達成感を味わうことができ、次は何をしたいのか伝えてくるようになった。常に向上心を持ち続け、現状に満足しないように心掛けたい。

③阿知須児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) * 受託事業 * 指定管理事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

・児童クラブ事業の円滑な運営: 支援員(嘱託)2名+支援員・補助員30名

(学年始め休業期間に補助員6名増員)

登録学童183名(3学級合計)

開設日数 おひさまクラブ1 291日開設(土曜日49日) 登録学童 57名 (3月末56名)長期保育0名

開設日数 おひさまクラブ2 291日開設(土曜日49日) 登録学童 67名 (3月末65名)長期保育0名

開設日数 井関にこにこクラブ 290日開設(土曜日48日) 登録学童69名 (3月末66名)

各種事業

月	日	曜日	事業内容
4	1	月	・保育開始
5	21・22	火・水	・阿知須中学生職場体験受け入れ(3カ所)
6	7 26	金 水	・芋の苗付け(井関にこにこクラブ) ・学校引き渡し訓練に参加(井関にこにこクラブ)
7	19 22 23 24 25 26 29 30	金 月 火 水 木 金 月 火	・カレーの日(おひさまクラブ1・2) ・避難訓練(おひさまクラブ1・2) ・フラワーアレンジメント教室(おひさまクラブ2) ・阿知須小学校懇談会 ・水遊び(おひさまクラブ2) ・ネイチャーゲーム(おひさまクラブ1) ・巡回訪問・水でっぽうあそび(おひさまクラブ1) ・ネイチャーゲーム(おひさまクラブ2) ・フラワーアレンジメント教室(おひさまクラブ2)
8	2 3 5 6 7 8	金 土 月 火 水 木	・昔遊び(おひさまクラブ1) ・水でっぽうあそび(おひさまクラブ2) ・発表会(井関にこにこクラブ) ・水でっぽうあそび(おひさまクラブ1) ・かき氷(おひさまクラブ2) ・「おはなしきらきら」本の読み聞かせ(井関にこにこクラブ) ・フラワーアレンジメント教室(おひさまクラブ1) ・工作教室(井関にこにこクラブ) ・「おはなしきらきら」本の読み聞かせ(おひさまクラブ1・2) ・交通安全教室(井関にこにこクラブ) ・けん玉教室(おひさまクラブ1・2)

月	日	曜日	事業内容
	9	金	・平和学習(井関にこにこクラブ) ・かき氷(おひさまクラブ1)
	16	金	・水でっぼうあそび(おひさまクラブ1)
	19	月	・ヨガ教室(井関にこにこクラブ)
	20	火	・水でっぼう遊び(おひさまクラブ2)
	21	水	・かき氷(おひさまクラブ2)
	22	木	・音楽教室(井関にこにこクラブ)
	23	金	・昔遊び(おひさまクラブ2)
	27	火	・フラワーアレンジメント(おひさまクラブ1)
	29	木	・お楽しみ会(井関にこにこクラブ)
	29	木	・お店屋さん(おひさまクラブ1・2)
	30	金	・お楽しみ会(おひさまクラブ1・2)閉室のため中止 * 夏休み期間を通して 習字、折り紙(こま作り)、プラ板作り、ビーズ製作・自由工作などを行う。(おひさまクラブ1・2)
10	16	水	・芋ほり(井関にこにこクラブ)
	29	火	・巡回訪問(おひさまクラブ2)
12	16	月	・巡回訪問(おひさまクラブ1)
	19	木	・クリスマス会(おひさまクラブ1・2)
	27	金	・おたのしみ会(井関にこにこクラブ)
令和7年 3	14	金	・新年度説明会(おひさまクラブ1・2)
	19	水	・お店屋さん(おひさまクラブ1・2)
	26	水	・お楽しみ会・カレーの日(おひさまクラブ1・2)
	27	木	・周南ふれあいの森への遠足
	28	金	・おわかれ会(井関にこにこクラブ) ・お店屋さん(おひさまクラブ1・2)

※毎月・けん玉教室(井関にこにこ)・学校運営協議会(井関にこにこ)

毎月支援員会議(おひさま1・2・井関にこにこ)

[職員の研修関係]

- ・放課後児童健全育成関係職員等初任者研修会・放課後児童支援員認定資格研修・児童クラブ代表者会議
- ・放課後児童健全育成関係職員等資質向上研修会・放課後児童健全育成関係職員等中堅者研修会
- ・教育支援員研修会・子育て情報交換会・青少年健全育成市民会議阿知須支部総会・小学校と懇談会
- ・巡回後研修会・コドモン研修会・嘱託職員研修会

<成果と課題>

放課後児童クラブは、すべてのこどもたちが、放課後の時間を、大人の見守りのもとで安全に遊び、宿題をしたり、スポーツなどをしたり、安心して過ごせる環境を提供するところである。令和6年度の阿知須おひさまクラブ1・阿知須おひさまクラブ2・井関にこにこクラブは、各学級とも、学校・地域と密に連携し、子どもたちの育成に一層関わった。しかしながら、子どもたちの人数も増えており、支援員は日常的に人員不足の状態が続いており、支援員の確保が課題となっている。

また、来年度から阿知須おひさま3の開級に際して、阿知須小学校区の放課後児童クラブの待機児童の問題は解消されるが、実施主体が民間の業者であるため、放課後のこどもの豊かな時間、安全・安心な居場所を確保することは、次代を担う人材を育成する視点で重要であるため、今後は民間の業者との綿密な連携が必要になる。

④徳地児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) * 受託事業

○事業内容: 小学校放課後、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

・放課後児童クラブ事業の円滑な運営(支援員7名、補助員4名)

登録学童 40名(3学級)

開設日数 出雲児童クラブ 241日開設(土曜日 2日) 登録学童 14名

開設日数 八坂児童クラブ 293日開設(土曜日40日) 登録学童 15名

開設日数 島地児童クラブ 241日開設(土曜日 4日) 登録学童 11名

月	日	曜日	行事内容
10	24	木	徳地地区児童クラブ入級説明会

《成果と課題》

共働き世帯、ひとり親世帯など本事業の利用を希望される世帯に対して、小学校の放課後、子どもが安心して過ごせる生活の場を提供できるよう支援員、補助員、保護者、小学校、地域間で連携した学級運営に努めている。入級児童数は減少傾向にあるものの、開所時間延長事業を利用者は増えている。

老朽化した施設、設備の修繕は今後必要であるが、引き続き小学校や地域と連携を図り、子どもの安心安全に配慮した事業運営に努めていきたい。

⑤阿東児童クラブ事業(小学校1～6年の学童保育) * 受託事業 * 指定管理事業

○事業内容: 小学校の放課後や土曜日、学校の長期休業中に、家庭に保護者がいない児童に遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

・放課後児童クラブ事業の円滑な運営(支援員5名、補助員7名)

登録学童 23名(2学級)

徳佐児童クラブ : 開設日数 271日開設(内土曜日 33日) 登録学童 11名

さくら児童クラブ : 開設日数 238日開設(内土曜日 1日) 登録学童 15名

【職員の研修関係】

8月21日(水) 山口市巡回支援専門員整備事業(専門職員の巡回支援)

9月26日(木) 第1回放課後児童クラブ代表者会議

10月28日(月) 児童クラブ支援員及び補助員全体研修

令和7年

3月 4日(火) 山口市巡回支援専門員整備事業(専門職員の巡回支援)

3月 5日(水) 第2回放課後児童クラブ代表者会議

《成果と課題》

サービスが必要な世帯の児童に対し、児童が安心して過ごせる生活の場の提供に努めた。

また、慢性的な職員不足の解消のため、従前からの職員確保の取り組みに加え、協力いただける他法人の所属職員に児童クラブとのダブルワークの案内をさせてもらう等、状況の改善に努めた。

今後も、児童が安心して過ごせる生活の場を提供できるよう、保護者、学校、地域組織等と連携した学級運営に努める。

⑥放課後児童クラブ運営会議

○事業内容:児童クラブ事業推進室が平成31年4月に本会の運営する児童クラブの課題に取り組むため設置された。その課題解決を行う場として放課後児童クラブ運営会議が設置された。

今年度は以下のとおり協議し、課題解決に取り組み、共通認識を図った。

○年間開催回数 6回

開催日	協議内容
4月25日(木)	1.今年度の体制について 2.放課後児童クラブ事業調整シートについて 3.予算・決算について 4.年度協定書について 5.緊急時の対応について 6.スポーツ安全保険について 7.コドモンについて 8.30分前ルールの確認について 9.社協だより 職員募集の記事について 10.大学生のバイト斡旋の件 11.長期休暇における職員採用の面接方法について 12.70歳以上の雇用について 13.児童クラブ職員の労働条件通知書、名札について 14.ドタキャンの取り決めについて 15.その他
6月25日(火)	1.起案について 2.スポーツ安全保険について 3.令和5年度事業評価実施のための書類提出について 4.夏休みの本所職員の対応について 5.おやつ代の管理について 6.児童クラブ勘定科目について 7.台風・大雨等による運営について 8.巡回訪問について 9.ドタキャンの取り決めについて 10.請求書について 11.研修参加の場合の通勤手当について 12.事故 13.携帯について 14.その他
8月22日(木)	1.緊急時の対応について 2.子どもへの接し方について 3.子どもが感染症になった時の兄弟等への対応について 4.休業補償について 5.スポーツ安全保険について 6.巡回訪問について 7.一時帰休について 8.コロナウイルス感染症等の病休(特休)の取り扱いについて 9.労働条件通知書について 10.その他
10月16日(水)	1.緊急時の対応について 2.職員感染症罹患による児童クラブ運営対応マニュアル作成について

開催日	協議内容
	3.冬休みの本所職員の対応について 4.スポーツ安全保険について 5.開所延長事業について 6.学校が休みの場合の学級の開級・閉級について 7.台風等の自然災害 8.放課後児童クラブ一覧について 9.巡回訪問について 10.10月以降の決算見込み等について 11.新型コロナウイルスワクチンの予防接種について 12.健康診断の受診と日程の変更について 13.労働環境の改善について 14.その他
12月24日(火)	1.職員感染症罹患による児童クラブ運営対応マニュアル作成について 2.放課後児童クラブ一覧と27団体の数え方についての市の回答 3.子ども未来課との協議について 4.起案について 5.巡回訪問の報告 6.決算見込み等について 7.収支予算書の科目について 8.その他
令和7年 2月7日(金)	1.事業報告について 2.スポーツ安全保険について 3.おやつ代について 4.決算見込み等について 5.カスタマーハラスメントについて 6.労働条件通知書の確認について 7.スマート大臣の取り扱い 8.その他

《成果と課題》

5地区の児童クラブの現状を把握し、昨年度に引き続き、本事業の課題とその対応をまとめた事業調整シートをもとに調整できる項目は協議し解決を図った。また、緊急時の課題等についても協議し、マニュアルの作成に努めた。また、地域によるが、慢性的な人材不足があり、市と協議を行ったが、毎年、市へ運営上の課題は提言することが必要である。

4) 子育てサロンの推進

ふれあい・いきいきサロンの子育てサロンは、現在の登録数が8サロンある。今年度も、子育てサロンの担い手同士の交流を目的に交流会を行った。昨年度から、開催案内の範囲を広げ、子育てサロン関係者以外にも、主任児童委員や地域子育て支援拠点施設関係者等の参加もあり、子育てに関わる様々な団体が交流できる機会となった。

(2) 母子・寡婦・父子家庭福祉事業の推進

・山口市母子寡婦福祉連合会への支援

5 社会福祉法人の地域公益活動の支援と協働

平成30年3月13日に「山口市社会福祉法人地域公益活動推進協議会」の設立総会を行い、同年度から同協議会の取組みをスタートさせた。本会は同協議会の事務局を担っており、市内の社会福祉法人が連携・協働して、地域公益活動に取組み、制度の狭間の福祉課題の解決に向けた協議と仕組みづくりを推進している。

年月	役員及び理事	加入法人全体	各エリア部会他
令和6年 4月	23日(火) 第1回役員会 ・理事5名出席 ・総会について他 26日(金) 監査会監事2名		
5月		20日(月)総会 ・19法人34名出席 (事務局含む) ・記念講演 坂本京子様	20日(月) 第1回北部エリア部会
6月	12日(水) 第2回役員会 ・理事5名出席 ・研修会について他		17日(月) 第1回中央部エリア部会 17日(月) 第1回南部エリア部会
7月			26日(金) 第2回中央部エリア部会
8月		6日(火) 第1回全体研修会 ・17法人21名出席 ※全体63名(学校、事務局等 含む) 「学校と社会福祉法人の連携・協 働について」	30日(金) 第2回北部エリア部会 →台風により延期
9月			
10月	22日(火) 第3回役員会 ・理事6名出席 ・第2回全体研修会について他		20日(日) 親子バスツアー講師(中 央部エリア部会) 23日(水) 第2回北部エリア部会
11月			5日(火) 第3回中央部エリア部会
12月	12日(木) 山口市地区社会福祉協議会 連絡会役員との情報交換会	9日(月) 第2回全体研修会 ・14法人18名出席 ※全体41名(包括、事務局等含 む) 「社会福祉法人と生活支援コー ディネーターとの連携について」	3日(火) 第2回南部エリア部会

年月	役員及び理事	加入法人全体	各エリア部会他
令和7年 1月	14日(火) 第4回役員会 ・理事5名出席 ・第3回全体研修会について他		
2月		6日(木) 第3回全体研修会 (ひきこもり一般公開講座) ・13法人19名出席 ※全体73名(一般参加、事務局等含む) 「山口市の不登校への取組について」	6日(木) 第3回北部エリア部会 14日(金) 種をまきますプロジェクト外会議 17日(月) 華を栄えましょプロジェクト外会議 21日(金) 第3回南部エリア部会
3月	28日(金) 第5回役員会 ・理事5名出席 ・次年度事業計画(案)他		7日(金) 第4回中央部エリア部会

《成果と課題》

令和3年度から、中学校の学習指導要領改訂により介護の授業が導入されるにあたり、市介護保険課から、委託事業として「介護体験事業」を受託した。令和6年度からは小学校も対象となり、市内の小学校(9校)と中学校(4校)に対し、社会福祉法人の職員(8法人)が講師として介護に関する講義と体験学習を実施した。今後、大規模校の実施や、障がいや児童等の他分野まで広げていくことが課題となる。

ひきこもりや生活困窮者、刑余者等の取り組みについては、プロジェクトチームを立ち上げ、パーソナル・サポートセンターやまぐちの協力により、令和4年度末から試験的に受け入れを実施し、令和6年度はひきこもり経験者2名を受け入れた。今後は見えてきた課題をもとに事業を進めていく必要がある。2つめのプロジェクトチームである広報関係については、昨年度立ち上がったホームページの充実等、周知啓発のための方法を検討した。

全体の取組としては、関係機関(学校関係者、生活支援コーディネーター、地区社会福祉協議会等)との情報交換、災害時における協力に関するアンケートを実施した。また、事業の検討及び実施する主体として各エリア部会があり、事業実施に向けた協議を重ねる中で、法人間のネットワークづくりや情報交換につながっている。

今後の課題は、新規加入法人の増加、予算確保、事業としては特に災害時の福祉避難所の受け入れ、地域団体との連携(地区社協等)等、社会福祉法人の事業活動の更なる周知啓発など多岐にわたる。

6 持続可能な権利擁護支援事業の構築及び推進

(1) 日常生活自立支援事業及び法人成年後見事業の推進

1) 日常生活自立支援事業の実施

認知症、知的障がいや精神障がい等の理由により、判断能力が十分でない方々の生活を支援する日常生活自立支援事業は、開始以来25年6箇月が経過し、本会が事業推進を担っている。

○新規相談件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
件数	1	3	2	8	14

○延べ相談及び援助件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
件数	855	1,110	1,474	303	3,742

○新規契約件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
件数	7	2	3	3	15

○解約件数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
件数	15	4	5	2	26

○解約理由

理由	成年 後見	施設 管理	本人 管理	親族 管理	本人 死亡	その他	合 計
件数	8	0	5	4	8	1	26

○利用者数

類型	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
合 計	34	47	54	14	149

○研修並びに会議等

- ・事業説明 6月3日(月) 地区社会福祉協議会連絡会
- ・研修会講師派遣 令和7年2月18日(火) 介護者の会、つくしの会交流会
- ・権利擁護フォーラム事例報告 12月4日(水) 萩市
- ・推進員・生活支援員合同研修会 0回
- ・運営適正化委員会現地調査 11月22日(金) 本所・北部支所

○生活支援員人数 9名 (実活動人数9名)

《成果と課題》

新規契約件数は昨年度から1件増加し15件であった。昨年度と同様、利用者の判断能力の低下などの状況を踏まえて適宜成年後見制度への移行支援を実施し、解約件数26件の内8件が成年後見制度へつながった。今後も事業利用者の思いを大切にしつつ、関係機関と円滑に連携を図り適切な支援に努める。

一方で、事業利用者が自身で契約したスマホなどによるキャッシュレス決済(クレジットカード、電子マネー)で収支バランスが崩れることもあり、支援する上での課題となっている。その他、金銭管理が困難な理由

が身体上の障がい等が原因の方からの相談対応、及び福祉関係者からサービス範囲を越えた支援を求められる場合の対応が課題となってきている。

2) 法人成年後見事業の実施

平成25年度に山口家庭裁判所へ登録申請を行い、法人後見人等候補者名簿への登録が平成26年度6月に完了した。令和7年3月末現在で10件を受任(5件終了)している。

○法人成年後見受任状況

No.	性別	受任時期	類型	申立人	生活場所	備考
1	男性	平成27年1月審判	後見	親族(子)	在宅	終了
2	女性	平成27年3月審判	後見	山口市長	施設	終了
3	女性	平成28年7月審判	後見	山口市長	病院	受任中
4	男性	平成30年9月審判	後見	後見人	在宅	終了
5	女性	令和2年9月審判	後見	山口市長	在宅	終了
6	女性	令和3年12月審判	後見	山口市長	病院	受任中
7	男性	令和4年2月審判	後見	家庭裁判所	施設	受任中
8	女性	令和4年3月審判	保佐	本人	在宅	受任中
9	男性	令和6年6月審判	後見	山口市長	病院	終了
10	男性	令和6年9月審判	保佐	山口市長	施設	受任中

《成果と課題》

本会としては法人成年後見の受任を開始して10年が経過し、山口市は成年後見制度利用促進基本計画を策定し、本格的に権利擁護のネットワークが構築されることが期待される。そのような中、日常生活自立支援事業利用者の中で成年後見制度へ8件移行した。本会の受任件数は2件であったが、今後は計画的に受任を検討し、両制度を適切に利用できる仕組みづくりを進めていくため、日常生活自立支援事業利用者の中で後見制度への移行が望ましい方の把握と移行にむけた対応についても関係各所との連携、協議により進めていく方針である。

(2) 権利擁護のための円滑な意思決定支援の仕組みの構築

1) 山口市権利擁護支援検討ワーキンググループの運営

令和5年度から国の補助事業である持続可能な権利擁護支援モデル事業を山口市が実施するにあたり、その一部を本会が受託した。

同事業では、権利擁護支援のニーズが高まると考えられる「身寄りのない市民」を対象者として想定し、多様な主体がそれぞれの特性を活かして役割分担・連携することで、山口市の実情に合わせた、持続可能な権利擁護支援の仕組みの構築を目指すため、ワーキンググループを6回実施した。また、関係機関へ金銭管理サービスの現状についてのヒアリング及びモデル事業の関係事業を実施している団体への視察研修を実施した。

回	開催日	協議内容
第1回	5月29日(水)	○議事 1 既存の制度及び事業について（成年後見制度改正及び日常生活自立支援事業について） 2 対象者の検討

回	開催日	協議内容
視察研修	7月11日(木)	○視察研修 萩市社会福祉協議会にて ・萩市自立生活安心サポート事業について 参加者 14名
第2回	7月24日(水)	○議事 山口市版モデル事業の実施イメージ(案)について 1 対象者について 2 生活支援事業者のサービス内容等について
関係機関・団体ヒアリング	9月12日(木) 9月19日(木)	○ヒアリング ・障害者支援施設なでしこ園 ・特別養護老人ホーム秋穂あかり園 ※金銭管理の現状について
第3回	10月2日(水)	○議事 山口市版モデル事業の実施イメージ(案)について 1 生活支援事業者のサービス内容等について 2 判断能力の確認方法について
第4回	11月27日(水)	○議事 山口市版モデル事業の実施イメージ(案)について 1 事業名について 2 意思決定サポーターについて 3 監督・支援団体について
第5回	令和7年 1月29日(水)	○議事 山口市版モデル事業の実施イメージ(案)について 1 事業名について 2 事業のスキーム及びフローについて 3 監督・支援団体について
第6回	令和7年 3月12日(水)	○議事 山口市版モデル事業の実施イメージ(案)について 1 事業名について 2 事業のフロー等について

《成果と課題》

簡易な金銭管理サービスを実施している事業所へのヒアリング等を実施し、現状の把握をするとともにワーキンググループでの協議を重ねた。本年度は「対象者」「生活支援事業者」「意思決定応援サポーター」「監督・支援団体」とモデル事業を構成する各要素について検討してきた。来年度には数件程度、モデルを募り、山口市版の仕組みについて、実証事業を実施していく予定である。

7 法律相談や貸付相談及び重層的支援体制整備事業の推進

(1) 生活相談事業の効果的・効率的な運営

1) 法律相談の実施

○相談日 : 毎月第1水曜日(北部支所エリア)と第3水曜日(南部支所エリア)

○相談時間: 午後1時30分から午後3時30分まで(1日4件:1件30分以内)

相談事項		件数	相談事項		件数
家事	離婚	3	不動産	土地建物登記請求	0
	遺言相続・遺産分割	32		賃貸借・売買紛争	0
	その他	2		境界・相隣関係の紛争	6

損害賠償請求	2	土地・建物明渡	0
債権・債務	5	不動産売買	2
労働	1	その他	3
その他	4	合 計	60

《成果と課題》

市民の抱える法律的諸問題に、弁護士による専門的な立場から指導・助言が行われた。

本年度は、予定していた全24回の内1回のみ予約がキャンセルとなり未実施となった。

近年、他機関の実施する無料法律相談事業が充実してきているため、本会が今後も事業を継続していくべきか検討する必要がある。継続する際は、今まで周知啓発として活用していた広報誌が来年度6月1日号より全戸配布が終了となるため、周知方法について課題が残る。

2) お元気コールの実施

○事業内容：ひとり暮らし高齢者の希望者に対し、電話による声の訪問を実施

○実施頻度：利用者に応じて週1回・月2回・月1回の実施

○利用者数： 5世帯（開始件数1、休止件数0、廃止件数3）

《成果と課題》

定期的な声の訪問により、利用者の「安全・安否の確認」や「健康状態の確認」、「精神的ケア」を図るとともに、通話中に発見した福祉ニーズ(困りごと)を関係機関へ繋ぐことで、問題の早期解決に役立っている。

利用者減少に伴い、広報紙にて周知啓発を実施した。問い合わせは増加傾向にあるが、相談者が緊急時対応等を期待されていることがあり、実際に利用につながる件数は少ないのが現状である。

本事業の内容や対応できる範囲を周知徹底する必要がある。

(2) 各種資金の貸付相談窓口の開設

他機関から借入れが困難な失業者世帯や低所得者世帯、障がい者世帯、高齢者世帯を対象に総合支援資金や教育支援資金等の生活福祉資金貸付制度及び法外援護資金について、相談対応と貸付等を行った。

各種資金の貸付相談窓口		相談件数	貸付決定件数
1	生活福祉資金貸付 (総合支援資金・福祉資金・教育支援資金・不動産担保型生活資金・臨時特例つなぎ資金)	361	25
2	不良債権の督促指導(面接及び督促)	0	0
3	法外援護資金の貸付	97	26
4	食糧支援の実施	24	24
5	特例フォローアップ対応	236	-
6	その他	300	-
合 計		1,018	51(食糧支援除く)

※(償還指導)：山口県社会福祉協議会の貸付金については、山口県社会福祉協議会が直接郵送等で償還指導し、本会の法外援護資金については、本会が郵送にて償還指導している。

○研修並びに会議等

研修会講師派遣 令和7年1月 8日(水) 陶地区民児協 生活福祉資金の説明

2月 5日(水) 大殿地区民児協 生活福祉資金の説明

《成果と課題》

本年度は、生活困窮世帯からの相談や新型コロナウイルス感染症対策の特例緊急小口資金等のフォローアップを中心に延べ1,018件の相談と51件の貸付件数があった。特にフォローアップ支援に関しては、令和7年1月末に償還期限を迎える借受人477名に対し、電話連絡や償還指導、免除対応等個別支援を実施した。資金の貸付に限らず、必要に応じて食糧等の現物支給も実施した。

今後も、生活困窮者自立支援事業実施機関をはじめとして関係機関と連携を密にし、具体的な支援を行い、生活困窮者の自立促進を図っていく。

(3) 歳末たすけあい配分金の効果的運用

(単位:円)

No.	配分対象又は事業名	算出基準	件数	配分額
1	当年度末に児童養護施設を就職・進学等で退所する児童	1名当たり 上限70,000円	9名	630,000
2	市社協登録子育てサロン	1サロン 上限15,000円	5サロン	75,000
3	地域住民のつながりを構築するための活動・行事(地区社協)	平均割30,000円＋ 前年度の歳末たすけあい募金の実績割	22地区社協	1,391,788
4	ひとり親(母子父子等)世帯で、満18歳未満の子どもがいる非課税世帯	世帯当り 10,000円	75世帯	750,000
5	障害者手帳を所持している非課税世帯	世帯当り 10,000円	170世帯	1,700,000
6	要介護3・4・5の認定を受けている方がいる非課税世帯	世帯当り 10,000円	19世帯	190,000
7	生活困窮世帯	世帯当り 10,000円 世帯員1名増ごとに 3,000円加算	123世帯	1,896,000
8	あったか相談会(生活困窮者等相談会)	生活困窮世帯に向けて 相談会を実施 来場組数 相談件数	37件 21件	161,893
9	罹災世帯	全壊(全焼)・半壊(半 焼)1件当たり 20,000円	6件	120,000
10	市社協広報啓発	社協だより発行の一部 ホームページ	広報紙:1回 HP:2箇月分	664,014
11	歳末活動費	消耗品費・通信運搬費		389,786
12	令和7年度地域福祉活動事業費			2,817,324
	合 計			10,785,805

《成果と課題》

事業内容や配分対象者などは、地域課題に沿った活用しやすいものであるか、山口市共同募金委員会審査委員会や運営委員会、本会の共同募金担当者会議などで協議を行い、毎年内容の見直しを行っている。本年度は、歳末たすけあい募金の目標額に達しなかった場合の対策(配分事業の優先順位の想定)等の検

討を行った。

今後の課題として、児童福祉分野の支援に関する事業の新規開設に向けて、事業ニーズを把握し、目的と対象者を明確にして具体的な事業内容を計画する。令和7年度も引き続き配分事業を見直し、地域課題解決につながるものであるか内容を精査していく。

(4) 福祉総合相談事業機能及び周知の強化

令和5年度から地域福祉課(本所・北部支所)では、従来、本会で行っている福祉総合相談の機能及び周知の強化のため、やまぐち「まちの福祉相談室」を山口市と連携して取り組んでいる。また、川西地域包括支援センター及び川西第2地域包括支援センターにおいては、山口市から、やまぐち「まちの福祉相談室」を受託し、相談体制の充実を図っている。

相談件数

項目	内容	市社協	川西地域包括 支援センター	川西地域第2包 括支援センター	合計
相談者	本人	22	44	66	132
	家族	1	21	7	29
	地域	4	3	12	19
	関係機関等	4	44	62	110
	計	31	112	147	290
相談方法	来所	3	20	11	34
	電話	21	58	103	182
	訪問	3	24	22	49
	その他	4	10	10	24
	計	31	112	146	289
相談内容	仕事探し・就職について	1	10	1	12
	資金の貸付について	0	0	2	2
	こころの問題に関すること	0	7	11	18
	介護に関すること	8	18	1	27
	家族関係・人間関係	0	4	12	16
	収入・生活費のこと	0	8	16	24
	税金や公共料金等の支払について	0	12	1	13
	住まいについて	2	5	1	8
	食べるものがない	0	1	3	4
	子育てに関すること	0	1	0	1
	地域との関係について	0	3	0	3

	債務について	0	0	0	0
	病気や健康に関すること	0	17	26	43
	家計全般に関すること	0	11	6	17
	ひきこもり・不登校	1	1	5	7
	DV・虐待について	0	1	0	1
相談内容	その他	22	41	101	164
	計	34	140	186	360
相談実件数		9	17	17	43
相談延べ件数		65	198	304	567

《成果と課題》

【本所 地域福祉課】

地区社協、地区民児協、地区福祉員協議会等へ周知を行った。本人からの相談が多く、対応困難ケースに関しては市地域福祉課や関係機関と連携し情報共有や対応を行った。相談ケースは高齢者関係だけでなく、子ども関係や生活困窮に関わることなど多岐にわたっており、多くの関係機関と連携しながら対応していくことが大切である。市役所の電話相談経由で、地域福祉課のふくまる相談を紹介されるケースもあり、市担当課とふくまる相談員と、相談者がたらいまわしにならないよう共通認識を持つよう情報共有をしていく。

【山口市川西地域包括支援センター】

小郡地域において、民生委員児童委員協議会や福祉員協議会の定例会、地区社会福祉協議会主催の研修会、地域ケア会議等に出席し、相談室の周知を行った。相談は本人や関係機関等からが多いが、対象者が潜在的ニーズを抱えているケースも多く、すぐに問題解決をしないこともあるため、併設の地域包括支援センターとの連携やアウトリーチを通じた継続的支援を行っている。また、複合化・複雑化したケースについては重層的支援会議や個別ケア会議を活用し、多くの関係機関と情報の共有、連携を図りながら対応を行っている。

【山口市川西第2地域包括支援センター】

阿知須・嘉川・佐山の各地域で、民生委員児童委員協議会や福祉員協議会の定例会に参加し、啓発を行うとともに、相談を受けて対応を行った。また、阿知須おげんきかんまつりで地域包括支援センター職員とふくまる相談員で出張ふくまる相談を行った。まちの福祉相談室の周知が広がりつつあり、相談も徐々に増えている。なんでもまるごと相談ということで、相談が多種多様で多岐にわたっているため、地域包括支援センター職員と情報共有しながら対応を行い、また、山口市地域福祉課のふくまる相談員や様々な関係機関と連携して対応を進めている。

8 介護保険法関連事業及び障害者総合支援法に基づくサービス事業の推進

(1) 高齢者福祉の推進

1) 介護サービス相談員派遣事業の実施

* 受託事業

○介護サービス相談員派遣等事業内容

介護サービス相談員が介護サービス提供事業所等に出向いて、利用者またはその家族から介護サービスに関する不安や不満、疑問等を聞き苦情申し立てなどに至る前に、サービス提供事業所と利用者の間の橋渡し役として問題の改善やサービスの質向上、利用者の自立した日常生活の実現を図ることを目的としている。

○実施対象の介護サービス

- ①施設サービス： 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院
- ②居宅サービス： (介護予防)特定施設入居者生活介護
通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション
(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護
- ③地域密着型サービス： 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
(介護予防)認知症対応型通所介護
地域密着型通所介護
総合事業通所型サービス
(介護予防)小規模多機能型居宅介護
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
- ④特定施設入居者： 有料老人ホーム(介護付き・住宅型)
生活介護： サービス付き高齢者向け住宅

○事業実施範囲と実施事業所数

山口市内の事業所 106箇所 (令和5年度は111箇所)

○事業実施結果

〈介護相談内容〉

内 容	件数	内 容	件数
入所・退所・利用料金	1	その他のサービス	0
設備・備品	0	介護保険料	0
食事・嗜好	7	利用料	0
トイレ・排泄	2	給付内容	0
入浴・清潔	7	その他の介護保険	1
趣味・娯楽	10	医療保険制度	0
人間関係・プライバシー	3	老人福祉制度	0
施設・職員の対応	6	老人保健制度	0
健康・医療・リハビリ	55	病氣・健康管理	0
移動・送迎	3	家族問題	2
安全管理	0	その他	5
拘束	0	合 計	102

内 容	件数
気付き	20
実相談数	99
利用者数	2,897

《成果と課題》

116事業所訪問の予定をしていたが、コロナ感染症や感染症予防で6事業所、事業所閉鎖で3事業所が中止になり106事業所を訪問した。そのうち介護保険外の有料施設は6事業所で昨年度より3事業所が増加となった。

11月から市内でインフルエンザが流行し、訪問予定事業所でもコロナクラスターが発生して延期の事業所もあった。

相談者は99名で件数は102件。昨年と比べると26件減った。相談内容は、健康・医療・リハビリに関する内容が55件と圧倒的に多かった。次年度訪問事業所は112事業所(有料施設は11事業所)の予定である。

課題としては、引続き介護サービス相談員の健康管理を徹底し、予定件数を実施することである。

過去の相談者や気になった点の改善点やサービスでの変化を含めて細かく観察し、必要な情報は事業所と共有し、サービスの向上につながる報告書を作成することで更に信頼関係を築いていく工夫と努力が重要になる。

ごく一部のみ通常の時間で実施しているが、未だ短時間で、利用者と一緒に食事を摂っていない。そのうえ利用者が高齢化しており、いかに利用者の声や相談を拾って事業所に届けるかなど課題は多いが、自分の感じた疑問や感動を大切に、利用者の声なき声を感じるよう、介護サービス相談員の資質の向上に努めた。引き続き介護保険以外の有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅にも周知して実施につなげたい。

2) 居宅介護支援事業の実施

1. 南部指定居宅介護支援事業所

月	ケアプラン(件数)		月	ケアプラン(件数)	
	介護保険	介護予防		介護保険	介護予防
4	72件	0件	10	44件	0件
5	74件	0件	11	29件	0件
6	70件	0件	12	17件	0件
7	68件	0件	令和7年1	0件	0件
8	64件	0件	2	0件	0件
9	59件	0件	3	0件	0件
合 計				497件	0件

《成果と課題》

南部指定居宅介護支援事業は、社協の基盤強化計画での事業評価の中で、本年度をもって本事業を廃止する運びとなり、利用者、家族の意向を確認して、他事業所への引継ぎを行い、全てのケースを無事移管し、事業を終了した。

2. あとう居宅介護支援事業所

月	ケアプラン(件数)		月	ケアプラン(件数)	
	介護保険	介護予防		介護保険	介護予防
4	120件	0件	10	115件	0件
5	122件	0件	11	118件	0件
6	120件	0件	12	114件	0件
7	115件	0件	令和7年1	107件	0件
8	114件	0件	2	113件	0件
9	113件	0件	3	118件	0件
合 計				1,389件	0件

《成果と課題》

利用者の心身の状況や生活状況を勘案し、利用者やご家族の意向を尊重した上で、住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、利用者の立場に立った支援に努めた。

また、より多くの利用者への支援や、複合化複雑化した課題を持たれたケース等の増加による職員の負担軽減のため、職員体制を強化した。

3) 訪問介護事業の実施

○サービス利用者数

地域	サービス内容				
	延べ利用者数	身体介護	身体生活介護	生活援助	総合支援事業
阿東	331名	926時間	2087.75時間	364.25時間	132名
南部	214名	91.8時間	232時間	300時間	97名
合計	545名	1017.8時間	2319.7時間	664.25時間	229名

《成果と課題》

昨年度と比べ、全体的には利用者数・介護の提供時間ともに減少している。

南部訪問介護事業所では、職員数の減少が続ぎ、かつ職員の高齢化等に伴い訪問依頼があっても受け入れが困難な状況が続いており、本年度、基盤強化計画の事業評価を行う中で、令和6年度をもって本事業を終了する運びとなった。昨年度の決定に伴い、令和6年3月末で利用者の引継ぎを滞りなく終え事業を終了した。

あとう訪問介護事業所は、職員数が減少したが、ニーズの減少も相まって新規利用者の依頼を全て受け入れる事が出来た。

令和7年度は職員一人一人が資質の向上を図り、質の高い支援が出来るよう努める。

4) 訪問看護事業の実施

○対象地域 阿東地域

月	介護保険		介護予防		医療保険	
	利用者	訪問回数	利用者	訪問回数	利用者	訪問回数
4	48名	197回	14名	52回	13名	83回
5	46名	206回	13名	47回	12名	78回
6	47名	173回	11名	37回	12名	104回
7	44名	179回	12名	42回	14名	159回
8	42名	163回	14名	53回	17名	120回
9	41名	156回	15名	56回	18名	110回
10	42名	171回	14名	54回	18名	107回
11	42名	154回	14名	50回	19名	108回
12	42名	162回	16名	54回	16名	74回
令和7年1	43名	167回	16名	57回	12名	52回
2	40名	154回	16名	47回	15名	83回
3	44名	173回	17名	59回	17名	120回
合計	521名	2,055回	172名	608回	183名	1,198回

《成果と課題》

本年度は常勤3名、非常勤4名の7名体制でサービスを行った。昨年と比べ、全体的に利用者数は変わらないが訪問回数は減少した。内訳としては、介護予防は利用者、訪問回数ともに増加したが介護保険は利用者、訪問回数ともに大きく減少した。医療保険は利用者、訪問件数ともに増加したが、点滴・処置等の一時的な指示での訪問や、終末期の利用者のため短期間の利用が多く、月によって変動が大きかった。新規の依頼も多く、訪問が開始となるが、短期間の訪問で入院、入所となるケースが増え、年間を通しての利用者・訪問回数の増加にはなっていない。

医療依存度の高い利用者や緊急時対応を希望されている利用者も多く、訪問看護のニーズは高い。住み慣れた自宅で安心して過ごすことができるように支援するためにも、職員一人一人のスキルアップを図り、多職種連携も強化し在宅医療ニーズ等の増加に対応できるようにしたい。

5) 山口市川西地域包括支援センターの運営

* 受託事業

1 ネットワークの構築

①包括ケア会議出席状況

		出席回数
個別ケア会議		15回
地域別ケア会議		9回
住民主体会議		38回
地域包括支援センター連絡会議		11回
ネットワーク構築のための会議		36回
内訳	(1)民生委員・児童委員協議会	12回
	(2)福祉員会	1回
	(3)地域密着型サービス運営推進会議	4回
	(4)居宅部会等介護支援専門員関係	6回
	(5)地区社会福祉協議会理事会等	13回

2 総合相談・支援業務

総合相談への対応状況(業務区分のその他を除く)

		(件数)	・相談内容	(延件数)
電話	実件数	221件	介護予防	142件
	延件数	1,188件	生活支援	866件
来所	実件数	290件	虐待	53件
	延件数	407件	認知症	96件
訪問	実件数	53件	介護保険	669件
	延件数	412件	閉じこもり	1件
文書・Eメール	実件数	30件	緩和ケア	9件
	延件数	77件	総合事業	13件
その他	実件数	0件	障害者自立支援	6件
	延件数	0件	その他	65件
合計	実件数	594件	合計	1,920件
	延件数	2,084件		
夜間・土・日・休日		223件		

3 権利擁護業務

・権利擁護への対応

地域福祉権利擁護事業に向けての支援	6件
成年後見制度利用に向けての支援	82件
消費者被害に対する支援	0件
措置入所に対する支援	1件

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 (延件数)

介護支援専門員への個別相談	16件
---------------	-----

5 介護予防業務実施状況 (実件数)

介護予防出張講座	3件
----------	----

6 指定介護予防支援業務

介護予防支援業務

予防給付プラン作成件数

(件数)

(開催数)

年間給付管理件数	2,733件
新規作成件数	85件

サービス担当者会議	208回
-----------	------

* 介護予防支援業務に関する研修会への協力

7 その他 (実施回数)

広報活動(地域包括支援センターに関するPR等)	43回
-------------------------	-----

8 認知症地域支援推進員

■認知症対応力向上のための支援

介護支援専門員からの相談、支援	9回
認知症カフェとの連携	14回
地域団体との連携(認知症啓発等)	1回
キャラバンメイトとの連携	6回
オレンジサポーターとの連携	8回

■認知症予防・普及啓発 (実施回数)

認知症サポーター養成講座	9回
介護予防講座、調整	1回
図書館等公共施設との連携	22回
福祉用具事業所との連携	6回
放課後児童クラブとの連携	4回

■相談支援・支援体制構築

相談への対応状況(業務区分のその他を除く)		(件数)
電話	実件数	8件
	延件数	115件
来所	実件数	11件
	延件数	37件
訪問	実件数	9件
	延件数	51件
その他	実件数	2件

広報活動(認知症地域支援推進員に関するPR)	13回
------------------------	-----

9 生活支援コーディネーター(第2層)

■地域組織からのニーズ把握の実績

主催者団体名	内容 (聞き取り方法・参加会議名等)	内訳		
		訪問	参加	その他
小郡地区社会福祉協議会	事前打ち合わせ会議 研修会や会議の参加	2回	6回	
小郡地区民生委員児童委員協議会	定例会参加		7回	2回
おごおり地域づくり協議会 (地域福祉部会)	会議参加、地域課題の共有		8回	
山口市老人クラブ連合会小郡支部	研修会、事前打ち合わせ参加		3回	1回
単位老人クラブ連合会	集いの場への参加		5回	2回
小郡便利マップ作成委員会	事前打ち合わせ 委員会参加		6回	1回

主催者団体名	内容 (聞き取り方法・参加会議名等)	内訳		
		訪問	参加	その他
小郡地区地域福祉活動計画策定委員会	委員会参加		5回	
自立支援型地域ケア会議	会議参加		14回	

■地域資源の把握に関する実績

実態把握を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	訪問	参加	その他
地域住民等	5回	16回	3回
いきいき百歳体操グループ		27回	5回
公共施設			2回
商店等(地域の企業等)	14回		1回
認知症カフェ		5回	
地域の情報等(サロングループ)		3回	
介護保険施設			5回

■不足する生活支援サービス等の把握や創出に関する実績

実態把握を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	協議	訪問・参加	その他
民間企業(とみー珈琲)		1回	
単位老人クラブ		2回	
山口市老人クラブ小郡支部		4回	

■生活支援の立ち上げ支援に関する実績

地域	支援した相手	訪問回数
小郡	とみー珈琲	1回
小郡	山口市社会福祉協議会	3回
小郡	ふみおか仏壇店	3回
小郡	単位老人クラブ(中央通)	1回

■協議体設置及び運営に関する活動実績

協議体名	回数
小郡地区地域支え合い活動協議会準備会	8回
小郡地区地域支え合い協議会(さぼさぼ小郡)	9回

広報活動(生活支援コーディネーターに関するPR)	2回
--------------------------	----

個別ケースの同行訪問:24件

個別ニーズと取り組みのマッチング:3件

《成果と課題》

川西地域包括支援センターは小郡地区の担当として、高齢者の総合相談窓口として多くの相談対応を行うことができた。また、リハビリ分野を含めた複数の専門職による同行訪問等を通して、高齢者が元気を取り戻すため（自立支援）のアドバイスや、生活支援コーディネーターが集めた地域の社会資源情報などの紹介を行った。

認知症施策については、アルツハイマー月間に合わせて小郡図書館等、複数の公共機関で認知症関連の展示を行い、小学生から高校生まで、若年層に向けて認知症サポーター養成講座を行うことができた。また、オレンジサポーターとの情報交換会への参加や、認知症カフェに参加することで、小郡地域の認知症の人とその家族の支え合いについて、関係者と共に考え、理解することができた。

高齢者の困りごとの解決に向けて、地域の団体と一緒に支え合い活動ができるように、小郡自治会連合会、おごおり地域づくり協議会、小郡地区社会福祉協議会、小郡地区民生委員児童委員協議会等の関係機関と一緒に検討、協議する場を持ち、小郡支え合い協議会（さぼさぼ小郡）の立ち上げに協力することができた。

また、企業による通いの場を設置することができて、高齢者が気軽に行ける場所の開拓をすることができた。今後もコロナ禍で薄れていた集いの場を増やしていき、高齢者等の個別事例や、今年度小郡地区社会福祉協議会が策定した、「小郡地区第3次小地域福祉活動計画」の高齢者課題をもとに、地域の課題解決に向けて地域住民や関係機関及び協力企業も交えて考え取組んでいきたい。

6) 山口市川西第2地域包括支援センターの運営

* 受託事業

1 ネットワークの構築

①包括ケア会議出席状況

出席数

個別ケア会議	3回	
地域別ケア会議	7回	
住民主体会議	6回	
地域包括支援センター連絡会議	12回	
ネットワーク構築のための会議	94回	
内 訳	(1)民生委員・児童委員協議会	47回
	(2)福祉員会	19回
	(3)地域密着型サービス運営推進会議	9回
	(4)居宅部会等介護支援専門員関係	6回
	(5)地区社会福祉協議会理事会等	13回

2 総合相談・支援業務

総合相談への対応状況（業務区分のその他を除く）

（件数）

電話	実件数	246件
	延件数	1,315件
来所	実件数	49件
	延件数	120件
訪問	実件数	36件
	延件数	444件
文書・Eメール	実件数	0件
	延件数	17件
その他	実件数	9件

・相談内容

（延件数）

介護予防	120件
生活支援	735件
虐待	19件
認知症	136件
介護保険	838件
閉じこもり	1件
緩和ケア	6件
総合事業	8件
障害者自立支援	5件

	延件数	59件
合計	実件数	340件
	延件数	1,955件
夜間・土・日・休日		62件

その他	135件
合計	2,003件

3 権利擁護業務

・権利擁護への対応 (延件数)

地域福祉権利擁護事業に向けての支援	4件
成年後見制度利用に向けての支援	5件
消費者被害に対する支援	0件
措置入所に対する支援	1件

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 (延件数)

介護支援専門員への個別相談	14件
---------------	-----

5 介護予防業務実施状況 (実件数)

介護予防出張講座	1件
----------	----

6 指定介護予防支援業務

介護予防支援業務

予防給付プラン作成件数

(件数)

年間給付管理件数	3001件
新規作成件数	82件

(開催数)

サービス担当者会議	221回
-----------	------

* 介護予防支援業務に関する研修会への協力

7 その他 (実施回数)

広報活動(地域包括支援センターに関するPR等)	6回
-------------------------	----

8 認知症地域支援推進員

■認知症対応力向上のための支援

介護支援専門員からの相談、支援	1回
認知症カフェとの連携	12回
地域団体との連携(認知症啓発等)	6回
キャラバンメイトとの連携	0回
オレンジサポーターとの連携	1回

■認知症予防・普及啓発 (実施回数)

認知症サポーター養成講座	3回
図書館等公共施設との連携	4回
福祉用具事業所との連携	1回

■相談支援・支援体制構築

相談への対応状況(業務区分のその他を除く)		(件数)
電話	実件数	83件
	延件数	210件
来所	実件数	6件
	延件数	19件
訪問	実件数	38件
	延件数	64件
その他	実件数	2件
	延件数	14件
広報活動(認知症地域支援推進員に関するPR)		6回

9 生活支援コーディネーター(第2層)

■地域組織からのニーズ把握の実績

主催者団体名	内容 (聞き取り方法・参加会議名等)	内訳		
		訪問	参加	その他
嘉川地区社会福祉協議会	地域課題の聞き取り訪問同行	1回		
嘉川地区社会福祉協議会理事会	会議参加・課題の聞き取り等		7回	
嘉川地区民生委員児童委員協議会	会議参加		8回	
嘉川地区福祉員協議会	会議参加		4回	
佐山地区社会福祉協議会	地域課題の聞き取り訪問同行	1回		
佐山地区民生委員児童委員協議会	会議参加・課題の聞き取り等		9回	
佐山地区福祉員協議会	会議参加		7回	
阿知須地区民生委員児童委員協議会	会議参加・課題の聞き取り等		11回	
阿知須地区社会福祉協議会	個別情報交換会		0回	
自立支援型地域ケア会議	会議参加		15回	

■地域資源の把握に関する実績

実態把握を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	訪問	参加	その他
地域住民等		28回	
いきいき百歳体操グループ		33回	
趣味サークル活動	10回		
商店等	3回		
地域の企業等	9回		
認知症カフェ	6回		
介護支援専門員			1回
地域の情報等			3回

■不足する生活支援サービス等の把握や創出に関する実績

実態把握等を行った対象事業所・地域団体・企業等	内訳		
	協議	訪問・参加	その他
自治会関係者	0回		
ふれあい・いきいきサロン			1回
一般社団法人	1回		
地域住民団体	15回		

■生活支援サービスの立ち上げ支援に関する実績

地域	支援した相手	訪問回数
		0回

■協議体設置及び運営に関する活動実績

協議体名	回数
阿知須地区個別情報交換会	0回
嘉川地区社協三役会・計画策定委員会	5回
佐山地区民協三役会	2回
広報活動(生活支援コーディネーターに関するPR)	6回

《成果と課題》

山口市川西第2地域包括支援センター(担当地区:嘉川、佐山、阿知須)が開設され3年が経過した。周知が広がってきたこともあり、相談件数が増加した。特に阿知須地区の相談が増えている。また、多種多様な相談に関わりの難しいケースの支援が増えてきており、やまぐち「まちの福祉相談室」のふくまる相談員や3職種で協力し、関係機関等と連携しながら対応を進めた。

また、今年度は嘉川地区で地区社協や民児協の協力を得て、高齢者の生活課題に関するアンケートを実施し、地域課題について実態把握を行った。今後、必要な生活支援サービスの仕組みづくりや通いの場の創出に向けて働きかけていきたい。

リハビリ専門職による同行訪問を行い、リエイブルメントの視点で介護予防ケアマネジメントを進めていくように取り組んだ。また、本人の望む生活に向けて支援できた事例を研修で報告することができた。

昨年度に引き続き、地域のイベントである阿知須のひなもんまつりに参加し介護予防に取り組んだり、山口市川西第2地域包括支援センターの近くにある NPO 法人ヘルスプロモーションが開設されている百十カフェと連携して、地域との交流を積極的に行った。

認知症関係については、9月のアルツハイマー月間に合わせて、阿知須図書館や地域交流センターなどで認知症に関する書籍やチラシ等を展示し、更に医療機関や薬局にも協力を得て、チラシやポスターで啓発を行った。また、本年度も山口市川西第2地域包括支援センター周辺で、オレンジガーデンを造り、認知症のシンボルカラーで知識の普及啓発を行った。認知症サポーター養成講座は佐山小学校や地域の自治会で実施し、認知症カフェの未設置だった嘉川地区に「オレンジカフェかがわ」が11月に開設された。

今後も引き続き、様々な関係機関や多職種、地域との連携を図り、相談支援体制をより一層強化していきたい。

(2) 障がい者福祉の推進

1) 社会福祉センターしらさぎ会館の運営

障がい者及び福祉団体の活動の拠点であるしらさぎ会館は、障がい者団体、関係機関等と連携しながら、障がい者が気軽に集うことができる開かれた施設を目指して運営を行っている。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染対策(マスク着用及び手指消毒の実施、体温計測等)は個々の判断に委ねることとし、館内での飲食についても事前申請により可能とした。コロナ前の行事が再開するにつれ、利用件数・人数もコロナ前までとはいかないものの増加した。

また、感染対策として行っていた Wi-Fi の貸出が、5類移行後も増加している。

会館施設の老朽化に対しては、本年度は屋上防水改修工事を行った。

障がい者が自立した社会生活の実現のため、地域活動支援センターⅡ型事業、手話通訳者設置事業、手話通訳者等派遣事業、要約筆記者派遣事業を実施するとともに、各事業担当者が連携して支援できるよう情報共有につとめた。

【しらさぎ会館利用状況】

種 別	件 数	人数(名)
会館事業	370	3,119
障がい者団体	54	556
福祉団体	307	7,127
その他	15	210
合 計	746	11,012

【しらさぎ会館事業及び活動状況】

事 業 名	開設日数・延べ人数	年間合計
地域活動支援センターⅡ型事業	開設日数	222日
	利用者延べ人数	2,124名
手話通訳者設置事業	延べ通訳・支援者数	968名
手話通訳者等派遣事業	延べ派遣者数	862名
要約筆記者派遣事業	延べ派遣者数	628名

【全 館 事 業】

《地域生活支援事業》

① 地域活動支援センターⅡ型事業

事業内容は、創作的活動及び生産活動の機会の提供、社会との交流に関する基礎的事業と、地域において雇用・就労が困難な在宅障がい者に対する機能訓練・社会適応訓練・送迎支援等のサービスを実施する機能強化事業がある。

基礎的事業では、絵手紙、ものづくり、書道、縫い物の講座及び誕生日会・季節行事、音楽レク、屋外訓練、美化活動、朗読、特別講座を実施した。

機能強化事業では、健康体操、太極ストレッチ、百歳体操、ボウリング、ヨガ、卓球バレー、シャッフルボード、ひも体操、体力測定、脳トレ、オセロ・トランプ、手話、点字、パソコン、難聴者サロン、盲サロン、デフサロン、しらさぎサロン等の講座を実施した。

○利用者延べ人数 2,124名

【 障がい別利用状況 】

身体障がい	肢体不自由	2名
	視覚障がい	26名
	聴覚障がい	22名
	内部障がい	1名
知的障がい		1名
精神障がい		6名
重複障がい		5名
合計		63名

・新規契約 5名(視覚障害 3名、精神障害 1名、重複障害 1名)

・利用終了 3名(死亡 1名、転居 1名、本人希望 1名)

《成果と課題》

令和6年度に入ってから、新規利用者が5名あったが、利用休止の人もあり、実利用者数は昨年の66名から63名へ減少した。高齢化や基礎疾患のある利用者が年々増えていることや、1人あたりの利用頻度が少なくなっているため、今年度の延べ利用者数は昨年度に比べると約290人減少した。

講座の内容では運動系や外出の講座が人気であり、椅子に座ってできる運動を増やすことで、障がいにこだわらず誰でも参加できるよう工夫するとともに、「盲サロン」、「デフサロン」、「難聴者サロン」において外出機会を増やした。また、新たにボランティア団体と連携して、「朗読」講座を始めた。

送迎対象者は、今年度40名となっている。令和5年度までは自分で自動車やバスを利用していた人の送迎希望が増加している。

利用者一人ひとりの利用頻度は少なく、限られた講座のみ参加する利用者が多いため、今後は利用者の声に耳を傾け一人ひとりの障がいにあわせた支援を行うとともに、利用者が安心して安全に集える講座づくりに努めたい。

② 手話通訳者設置事業

令和6年度特記すべきこととして、設置手話通訳者体制が大きく変更された。令和5年度末に、4名の設置手話通訳者のうち2名が定年退職を迎え、1名が家庭の事情により退職となった。そのため、令和6年4月より、正規職員(週5日勤務)1名、定年退職者の1名が継続雇用職員(週4日勤務)、もう1名が嘱託職員(週5日勤務)の計3名となり、1名減員となった。それに伴い、地区担当を廃止するとともに、北部担当(しらさぎ会館)と南部担当(南部支所)を北部しらさぎ会館に集約した。3名の設置手話通訳者がしらさぎ会館にて、市内全域の意思疎通支援事業のコーディネーターとして、通訳申請を受け、意思疎通支援者(手話通訳者)の派遣調整や関連業務を行った。申請内容によっては、派遣ではなく設置手話通訳者として、意思疎通支援事業の通訳業務を対応している。

また、聞こえないことから生じる情報不足等による生活上の困難を抱えるろう者への相談支援を行い、生活課題の内容に応じて、親族並びに専門機関と連携を取りながら、継続的な通訳と相談支援を行っている。

【 設置手話通訳者対応内訳 】

	【分類】	【件数】
	行政	28件
	福祉	101件
	医療	169件
	労働	9件
	文化	14件
	教育	11件

設置手話通訳者 正規 1名(手話通訳士) 継続 1名(手話通訳士) 嘱託 1名(手話通訳士) [意思疎通支援事業]	警察	5件
	生活	63件
	その他	1件
	団体	2件
	遠隔手話通訳	0件
	通訳対応合計	403件
	支援(窓口)	205件
	支援(訪問)	76件
	支援(調整)	8件
	支援(電話)	163件
	支援(遠隔)	113件
	支援対応合計	565件
	総合計	968件

《成果と課題》

意思疎通支援事業に係る通訳者派遣申請に対して、設置手話通訳者の通訳対応は403件、相談等の支援対応は、565件、合計968件であった。昨年度の889件と比べると79件の増加となった。通訳対応は、昨年度の471件と比べると68件減少、支援対応は、昨年度の418件と比べると147件増加となった。

通訳対応においては、病院受診等の「医療」が169件、介護保険サービスの利用や日常生活自立支援事業などの「福祉」が101件と多く、専門機関と連携しての専門的な内容を含む通訳を行った。入院、手術、施設入所、財産管理などに関する事例には、設置手話通訳者が継続して通訳対応を行っている。

山口市消防本部との連携業務として、救急要請時の通訳対応を行っているが、本年度は該当事案がなかった。救急搬送時の通訳対応については、消防本部や関係機関との間で業務の位置づけや連携手順の再確認が必要である。

支援対応においては、日常生活に関するさまざまな相談や申請相談の「窓口」が205件と最も多い。文章理解が苦手なろう者に対して、持参した書類の内容を手話で説明することも多々ある。次に、対面で相談した後の「電話通訳」の依頼が多く、163件であった。相談内容は複雑・専門化してきており、ろう者それぞれの生活歴をふまえた対人支援が重要である。設置手話通訳者の配置が集約されたため、南部地区のろう者や高齢のろう者については、出向いて相談支援する「訪問」が増えている。施設入所中のろう者へは、訪問により、手話でのコミュニケーション機会を持ち、本人の要求などの聞き取りを行い、関係機関と連携した。その他、登録手話通訳者の現場対応に同行し、円滑な通訳派遣のための「調整」を行った。

「遠隔手話通訳」の実績となる申請はなかった。しかし、手話遠隔パソコンを使用するテレビ電話サービス「支援(遠隔)」は、113件であった。ビデオ通話による手話での問い合わせや申請内容の確認などを行った。利用登録を進めたことで、昨年度の21件と比べると92件の増加となった。連絡や聞き取りが手話で行えることは、メールやFAXで行うことと比べると格段に意思疎通が図れるようになり、業務効率も良くなった。また、引き続き、南部支所窓口を設置しているタブレット端末からしらすぎ会館手話遠隔パソコンへつなぎ、手話(ビデオ通話)による相談対応を行っている。電話ができないろう者の連絡手段としてビデオ通話が活用できるようになってきた。

登録手話通訳者(山口市意思疎通支援者)増員を目的として、『登録試験対策講座』を「金曜夜間」と「火曜昼間」の2コースで各6回開催した。昨年度に引き続き、山口市手話奉仕員養成委員会が開催する「ステップアップ講座」修了者が継続して受講できるよう計画し、修了生を含めて14名の受講申し込みがあった。10名が登録試験を受験したが、残念ながら、合格者はなかった。

昨年度に引き続き、登録手話通訳者となった手話奉仕員11名を対象に『フォローアップ講座』を開催した。この講座では、手話通訳者資格取得を目標とし、山口県手話通訳者登録(全国統一)試験に2名が合格した。合格した2名は、手話奉仕員では担えなかった分野への通訳派遣が次年度より可能となる。

引き続き、意欲のある人材へのモチベーション維持とともに資格取得をめざすための育成に努める。

高齢の一人暮らしの生活で様々な場面に困難を抱えるろう者、また、聴覚だけでなく精神の障がいを抱えるろう者には、相談支援や訪問支援を通じて、ろう者自身の自己決定をサポートするとともに、関係機関と連携し、適切な支援を行っていく。また、地域で生活するうえで、「聞こえない」がゆえに生じる不安や心配事を軽減できるよう、手話通訳者として、また、支援者として、関係機関等を含めた、ろう者が地域で暮らしていくためのネットワーク構築も図っていく。

その他、「聞こえないこと」「聞こえない人」「コミュニケーション方法」をテーマに小・中学校の福祉体験学習、専門学校や地域などへ講師として出向き、手話やろう者への理解の普及に取り組んだ。

③ 手話通訳者等派遣事業

ろう者の日常生活における他者との意思疎通の支援として、登録手話通訳者(39名)を派遣している。通訳者派遣申請に対する登録手話通訳者の派遣調整及び関連事務を行っている。

【登録手話通訳者派遣内訳】

登録手話通訳者39名 (手話通訳士 1名) (手話通訳者 27名) (手話奉仕員 11名)	【分類】	【件数】
	行政	19件
	福祉	177件
	医療	325件
	労働	3件
	文化	236件
	教育	18件
	警察	1件
	生活	41件
	その他	0件
	団体	4件
	派遣合計	824件

※主催者負担 263件（設置手話通訳者通訳対応を含む。）

《成果と課題》

本年度の派遣件数は824件。昨年度の857件から33件減少した。

派遣内容のうち、病院受診などの「医療」が325件、介護保険サービスでの定期的な訪問介護や訪問看護などの「福祉」が177件と多かった。医療に次いで件数が多かった「文化」236件は、その全てが主催者負担であり、しらかぎ会館地域活動支援センター講座が多い。なお、地域活動支援センター講座については、手話通訳者だけでなく、手話奉仕員の派遣も行った。ろう者が構成員となっている「団体」申請は、4件であった。山口県聴覚障害者福祉協会へ広域派遣を2件依頼した。

登録者研修会を2回実施し、資質向上と登録者としての意識付けを図った。

1回目は、「実技『聞き取り通訳』～自分の通訳技術を知る・考える～」と題し実施した。

各自の手話表現をビデオ撮影し、客観的に見ることで自身の通訳技術の振り返りを行った。併せて、他者の手話通訳を観察し、お互いに意見を出し合った。講師・アドバイザーにろう者2名を招き、ろう者の視点による的確な意見(アドバイス)を直接聞くことで、自身の手話通訳を意識し、今後の技術向上のための取り組みのきっかけ、学習のポイントを確認した。また、山口県意思疎通支援事業について、前年度の事業報告や取り組みについての説明を行った。

2回目は、「課題提出研修『報告書の書き方を見直そう』」と題し実施した。

登録者全員の課題提出による研修とした。通訳場面に派遣された想定で、報告書を作成した。提出された報告書を基に次年度、登録者個々へフィードバックし、全体でも、課題共有、検討を行う予定である。併せて、アンケートにより、事業に対する質問・意見を聴取した。

本年度新たに登録者研修会とは別に「ミニ学習会」を開催した。今後も具体的なテーマ・通訳場面・課題などについて学習し、現場対応力の向上を目指す。

山口市意思疎通支援者(手話通訳)登録試験では、残念ながら、合格者はいなかった。大きな課題である登録手話通訳者全体の高齢化は変わらないため、引き続き、次世代の登録手話通訳者を確保するための人材育成を行っていく。

今後も、適正で円滑なコーディネートを行うとともに、登録手話通訳者並びにろう者と連携し、より良い意思疎通支援ができるように努める。

④ 要約筆記者派遣事業

年度末の登録通訳者は21名。登録者の多くは仕事を持っているが、早めの打診や登録者の協力を得て、全体の9割を占める平日の派遣に対応できた。

年間派遣件数は364件と昨年度とほぼ同数であった。地域活動支援センターへの派遣は135件で前年の193件から3割減となった一方、人員を要する遠隔通訳の利用が伸びたこともあり、延べ派遣者数は79名の増となった。

登録者研修は、2回実施した。

1回目は全国要約筆記問題研究会のウェビナーを利用し、報告書の書き方について学んだ。公的記録である報告書には客観的事実を書くことで危機管理にもつながる等、従来のアプローチとは違った内容を県外の要約筆記者の意見とともに学ぶことができた。

2回目は施行から6年目となる山口市意思疎通支援事業実施要綱を基に、申請から報酬支払までの流れを確認した。依頼書のやり取りの方法等、気付きを出してもらい、共有した。派遣元と登録者の考えが乖離しないよう心掛け、スムーズな事業展開に繋げたい。後半では、事例検討を行った。正解を導くことは難しいが、臨機応変な対応が求められる際にも根拠の説明のできる行動を目指したい。今後も多様な事例から意見を出し合うことで研鑽し、備えていく。

福祉体験学習の筆談プログラムに1件の依頼があり、対応した。

【派遣内訳】

【派遣内訳】	【件数】
行政	5件
医療	62件
労働	6件
文化	281件
教育	0件
その他	10件
合計	364件

《成果と課題》

派遣経費を主催者負担としたものは、36件。件数は微増にとどまるが、これまで関わりのなかった事業者からの依頼が数件あった。こうした新規事業者の利用においては、主催者が負担する経費が最大のネックとなるが、市の「合理的配慮の提供支援に係る助成金制度」の利用もあり、スムーズな派遣に繋げることができた。

要約筆記者派遣事業の認知度向上並びに利用者拡大を目的として、「聞こえのサロン」を4回計画したが、

うち1回は新型コロナ感染者の増加により、中止とした。補聴器をテーマにした回は当事者の参加が最も多く、関心の高さがうかがえる。特に装用開始へのためらいや調整の難しさに戸惑う様子が見られた。また、派遣事業への新規依頼にもつながった。今後のサロンの開催については、参加者同士の生活面における工夫等を出し合えるよう仕掛けていきたい。

団体依頼によるものは、6件。難聴者の所属する手話サークルと難聴者協会の活動に関するものであった。

遠隔要約筆記は96件の実績となった。これまでの定期(月1回)の依頼のほか、新たに平日5箇月間に及ぶオンライン研修での依頼があった。研修主催者による通信環境が整っていることもありスムーズに行うことができた。一方で、遠隔のため対象者の状況把握が難しい等、遠隔ならではの課題もあった。また、専門性の高い内容をいかにわかりやすく伝えるか、改めて考える場となった。

〈聞こえのサロン 開催状況〉

回	テーマ	講 師	参加者数
第1回	「補聴器どねえにつかちよる？」	認定補聴器技能者 石田 肇 氏	*11名
第2回	「コミュニケーションボードをつくってみよう」	山口市要約筆記サークルやまびこ	*19名
第3回	「コミュニケーションボードで話そう」	全国要約筆記問題研究会山口県支部 支部長 二岡 敬子 氏	6名
第4回	「聞こえづらいつてどういうことか考えてみませんか？」	山口県中途失聴・難聴者協会 重村 智子 氏	中止

***第1回及び第2回は、地域活動支援センター「難聴者サロン(公開講座)」との共催事業

2) 障害者福祉作業所の運営

① かがやき

1) 運営

令和6年8月末で利用者1名が退所し、登録者数は7名となった。就労継続支援B型の事業所として、利用者の意向、適性、障がいの特性を踏まえて作成した個別支援計画に基づきサービス提供に努め、日々の作業活動において一人ひとりの特性能力を活かし、自分らしく働けるよう支援する。

1) 作業内容

作業科目	受注先	内 容
瓦留めクリップ等の組立て	オノダネイル	瓦留め耐風クリップ、ラク枠、デッキロック等の組立て、箱詰め(毎日)
紙製品の封入	石見紙工業	ルーズリーフ、クリヤーブック等の封入、封緘、梱包(毎日)
印刷物の封入	介護労働安定センター	チラシ、案内状等の封入、封緘、タックシール貼り、仕分け(年12回程度)
シール貼り	田辺海苔店	海苔袋のシール貼り(年10回程度)
しらさぎ会館の清掃	山口市社協	しらさぎ会館の清掃(毎日)
ポスティング	地域情報新聞	地域情報誌「ほっぷ」のポスティング(週1回)

作業科目	受注先	内 容
アーユスの清掃	老人保健施設アーユス	老人保健施設アーユスの清掃(毎週火・水曜日)
柴田病院の清掃	柴田病院	柴田病院管理棟の清掃(毎週火・水曜日)
史跡大内氏遺跡見学者用 駐車場トイレの清掃	山口市文化財保護課	史跡大内氏遺跡見学者用駐車場トイレの清掃(毎週 月・金曜日)
福祉医療費受給者証等の 封入・封緘	山口市保険年金課	福祉医療費受給者証等の封入・封緘(年1回程度)

2) 行事等

開催日	内 容
6月7日(金)	AED講習会(児童館・福祉センター合同)
10月31日(木)	避難訓練(地震・風水害)
12月5日(木)	秋のお出掛け企画(石見紙工業見学と津和野散策)
12月23日(月)	クリスマス会(忘年会)
令和7年2月13日(木)	感染症対策についての研修(厚生労働省動画視聴)
3月13日(木)	避難訓練(火災)(児童館・福祉センター合同)

3) 研修等

主 催	内 容	会 場	開催日
山口県障害者権利擁護セ ンター	山口県障害者虐待防止・権 利擁護研修会	オンデマンド講義	12月20日(金)
山口市地域自立支援協 議会就労支援部会	アセスメント研修会	山口市小郡保健福祉 センター	令和7年3月10日(月)

4) 利用状況

年間開所日数	239日(月平均19日)
延べ通所者数	1,550名(月平均129名)
1日平均利用者数	6.5名
年間工賃支払総額	3,103,718円
平均工賃(月額)	35,269円(時給373円)

《成果と課題》

本年度は主軸である石見紙工業からの受注が4割弱減少したが、全体としては昨年度とほぼ同程度の収入となった。利用者が1名退所した分、年間平均工賃が2,000円程度上がった。

かがやきは山口市から建物を借用(指定管理)し事業を行っているが、建物の老朽化等の課題を抱えている。また送迎を実施していないこともあり利用者が微減し、赤字経営が続いている。このような現状を踏まえ、基盤強化計画の事業評価において今後の方向性について協議した結果、令和7年度をもって障害者福祉作業所かがやき事業を終了することが決定した。来年度は利用者、家族及び各関係機関等の理解と協力を得ながら、利用者移管に最善を尽くし、円滑な事業の終了を進める。

②希望の館

1)運営

利用者は昨年と変わらず6名であった。就労継続支援B型の事業所として、利用者の意向、適正、障がい特性を踏まえて作成した個別支援計画に基づいたサービス提供に努め、利用者一人ひとりの人格を尊重しながら、利用者の立場に立って支援を行う。

2)作業内容

作業科目	受注先	内 容
山口市阿知須体育センター清掃	山口市	清掃作業(週3回)
山口市巾着公民館公衆トイレ清掃	山口市	トイレの清掃作業(週1回)
山口市阿知須健康福祉センター「おげんきかん」清掃	山口市社協	清掃作業(週2回)
山口市阿知須健康福祉センター「おげんきかん」周辺の除草	山口市社協	除草作業(10～11月)
山口市川西第2地域包括支援センタートイレ清掃	山口市社協	トイレの清掃作業(週2回)
山口市川西第2地域包括支援センター駐車場の除草	山口市社協	除草作業(4～5月)
自動車部品等の成形	モルテン大津	ゴム製部品のバリ取り作業

3)行事等

開催日	内 容
4月11日(木)	花見(阿知須築地公園、道の駅きららあじす)
5月21日(火) 22日(水)	阿知須中学校職場体験学習
5月28日(火)	かがやき・希望の館合同会議(第1回)
6月20日(木)	避難訓練(火災) 阿知須出張所と合同
9月19日(木)	避難訓練(風水害)
11月22日(金)	衛生委員会「感染症対策講座」
12月26日(木)	大掃除・忘年会
令和7年2月13日(木)	避難訓練(地震)

4)研修等

主 催	内 容	会 場	開催日
山口県障害福祉サービス協議会	第1回研修会「ご本人の思いへのアプローチ～意思決定支援と医療同意～」	山口県社会福祉会館	7月5日(金)
山口県障害者権利擁護センター	山口県障害者虐待防止・権利擁護研修会	オンデマンド講義	12月17日(火)

5)利用状況

年間開所日数	239日(月平均19日)
年間利用者延べ人数	1,266名(月平均105名)
1日平均利用者数	5.3名

年間工賃支払総額	1,735,512円
平均月額工賃(一人)	24,104円(時給294円)

《成果と課題》

利用者数は昨年度と変わりはなく6名であった。作業に関しては、昨年度受注が少なかった王子ゴム化成の仕事はなくなったが、その他の仕事は昨年とほぼ変わらず行えた。作業以外にも、花見や忘年会、お出かけ、室内レク等をして、利用者は余暇を楽しむことができた。

希望の館は建物の老朽化や、就労継続支援B型事業所の増加に伴い、新しい利用者が増えず、赤字経営が続いていること等から、本年度、社協の基盤強化計画の事業評価の中で、事業の存続について検討がなされ、令和7年度をもって、かがやきと希望の館両事業所を終了する運びとなった。来年度は、利用者及び家族、また各関係機関等の理解や協力を得ながら、利用者の移管が滞りなく行えるように努めていきたい。

3) 地域活動支援センターⅢ型「アカシア工房」の運営 * 受託事業

- 1) 事業内容: 身体・精神・知的障がいをお持ちの方を対象に、主に就労の場や手芸品等の作製、レクリエーションを通じて社会参加を促す。
- 2) 開設日: 延べ 229日
- 3) 利用者: 延べ 1,394名
- 4) 実利用者: 12名【登録者: 12名】(令和7年3月31日現在)
- 5) 作業内容: 基礎的事業は、手芸品等の製作による創作的活動及び石見紙工業からの作業の受注による生産活動と山口市からの阿東保健センター清掃作業、市営住宅の清掃作業である。
社会との交流の促進に関する事業として、三谷ふれあいセンターの清掃作業、敬老会の会場準備、りんご園の枝木拾い作業、お菓子の袋詰め作業、クリスマスナイトフェスティバル会場準備などアカシア工房以外の人と合同で行う作業。

作業以外の行事

開催日				内 容
令和6年 5月	28	火		ひまわり花咲くプロジェクト取組
6月	5	水		メロンの植え付け体験、石見紙工業工場見学 A 班
	6	木		石見紙工業工場見学 B 班
8月	7	水		第4回オープンデー開催
	21	水		阿東中オープンデー見学
	23	金		ワイワイ交流会ママバンドコンサート鑑賞
9月	25	水		プチ運動会開催
	25	水		尺八・ハーモニカ・童謡を歌うコスモス会との交流
	30	月		防火避難訓練(保健センター合同)
10月	21	月		生け花体験講座
	30	水		りんご狩り・昼食
11月	27	水		クリスマスの飾りを一緒に作ろう
12月	25	水		クリスマス会(デイケア主催)
令和7年 1	6	月		年始福笑い会
	27	月		就労継続支援B型「つわぶきの里」とポッチャ交流会
	2	18	火	阿東リハビリサービスにてハンドベル演奏
	2	19	水	徳佐婦人会とのポッチャ交流会

開催日			内 容
3	5	水	調理実習(食生活改善委員会にて)
	11	火	避難訓練(火災想定)保健センター合同
	25	火	萩・石見空港社会見学
	26	水	FUN DAY でピザ作り体験

《成果と課題》

本年度も施設外での活動に積極的に取り組んだ。行政からの市営住宅の空き家清掃及び除草作業、農家からの玉ねぎの植え付けなどの新規委託作業を行った。

更に、地域の NPO 法人の協力も得てメロンの植え付けから販売までを行い、ものを育てることや販売する大変さなど、施設内作業では体験できなかったことに取り組んだ。

また、レクリエーション内容を見直してひと月に一回、発語・発声練習のためカラオケや体調維持のためにヨガに取り組み、好評で月に一度のお楽しみの日となった。

周知活動については、引き続き地域内の方々に対してオープンデーの開催や地域内の行政窓口や医療機関にパンフレット等の掲示を依頼していく。その甲斐あって医療機関からの声掛けにより11月から新規利用者1名の通所が開始した。

今後も周知活動や体験の場を設けるとともに、主体性を持って活動してもらうことで地域生活上の自立につながる支援を行っていきたい。

5) 障がい者の居宅介護事業の実施

	サービス内容					
	延べ利用者数	身体介護	家事援助	通院介助	同行援護	重度訪問介護
阿東	56人	35. 5時間	647. 5時間	0時間	123. 5時間	0時間
南部	49人	0時間	223. 0時間	7.5時間	21. 5時間	0時間
合計	105 人	35. 5時間	870. 5時間	7. 5時間	145時間	0時間

《成果と課題》

昨年度と比較し、全体的に延べ利用者数・訪問時間とともに、減少であった。

南部訪問介護では、登録訪問介護員の定年による退職や高齢化により、重度訪問介護や身体介護の支援が出来なくなっている。同行援護の支援については有資格保持者が限られており、依頼に対応ができていないのが現状である。このような現状を踏まえ、基盤強化計画の事業評価において事業廃止が決定した。そのため、令和6年9月、利用者の引継ぎを滞りなく終え、事業を廃止した。

あとう訪問介護では、令和6年度は利用者が1名減少し、サービスの提供時間も減少した。令和7年度は同行援護従事者が1名増員となるため、同行援護の利用時間の増加を目指したい。今後も利用者から選ばれる事業所として努力する。

重点事業Ⅱ

「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画」の推進(令和5年度～令和9年度)

◇基盤強化計画推進室の設置による計画の推進及び進行管理〔2年次〕

1 推進会議体による計画の推進

本会は「地域共生社会(ともに生きる豊かな地域社会)」の実現に向けて、令和4年度に社協事業の戦略やビジョン、組織、経営基盤の強化を目的とした令和5年度～令和9年度の中長期計画である「第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画(以下「第3次計画」という。))を策定した。「第3次計画」は、「組織強化と効率的な組織運営」、「人材の確保・運営」、「安定的な財政運営」の3部門を柱とし、10の基本目標、22の実施目標、35の取組目標を定め、具体的対策を計画化した。

「第3次計画」の進行管理は、新設の「基盤強化計画推進室」が担い、その推進母体に下記12の推進会議体を位置づけ、それぞれに割り当てられた取組目標の対応策について協議した。

(1) 事務局長・課長会議

本会議は、常務理事・事務局長・事務局次長・課長・推進室長で構成し、毎月1～2回定期的に開催した。月2回開催する場合は、前半の会議を基盤強化計画主体の会議に位置づけた。各推進会議体から上がってきた取組目標の決定事項や事務局長・課長会議として諮るべき取組目標の対応策について協議し、事務局としての最終決定を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回	4月30日(火)	1. 第1回理事会・定時評議員会に提出する規程の制定(案)及び一部改正(案)の協議 2. 第3次山口市社協活動基盤強化計画(令和5年度からの継続事業)の協議 3. 令和6年度 基盤強化計画推進会議体と担当職員の選定(報告) 4. 令和6年度 事務局長・課長会議(基盤強化)年間計画(案)の意見集約 5. 令和6年度 事務事業評価シートの更新〔進行管理〕作業の伝達
第2回	5月14日(火)	1. 法令等遵守規程及び法令等遵守方針の作成 2. 「職員研修実施の手引き」の作成 3. 南部出張所の再編(廃止を含む)の協議 4. 次年度の介護・障がいサービス課の拠点(配置)の移動の検討 5. 職員意向調査実施の前倒しの提案 6. 遺贈(寄付金)の運用のルール of 検討
第3回	5月27日(月)	1. 法令等遵守規程及び法令等遵守方針の作成 2. 「職員研修実施の手引き」の作成 3. 年間開催計画の決定 4. 事務事業評価シートに基づくヒアリングの設定 5. 南部エリア2出張所の再編(廃止を含む)の協議 6. 次年度の介護・障がいサービス課の拠点(配置)の方向付け 7. 遺贈(寄付金)の運用のルール of 検討
第4回	6月17日(月)	1. 法令等遵守規程及び法令等遵守方針の作成 2. 「職員研修実施の手引き」の作成 3. 南部エリア2出張所の再編(廃止を含む)の協議 5. 次年度の介護・障がいサービス課の拠点(配置)の方向付け 6. 南部支所の地域福祉担当と生活相談担当を合体の検討 8. 南部エリア2出張所の再編(廃止を含む)の協議 9. 育児・介護休業法、次世代育成支援対策推進法の改正(伝達)

回	開催期日	取組内容
第5回	6月27日(木)	1. 法令等遵守規程及び法令等遵守方針の作成 2. 「職員研修実施の手引き」の作成 3. 本会広報紙に対する読者アンケートの実施の協議 4. 本会ホームページに寄付金受付募集の開設の協議 5. 南部エリア2出張所の再編(廃止を含む)の方向付け 6. 次年度の介護・障がいサービス課の拠点(配置)の方向付け 7. 南部支所の地域福祉担当と生活相談担当を合体の検討 8. 南部支所を小郡出張所に改編することの検討 9. 遺贈(寄付金)の運用のルール作成 10. 次世代育成支援対策推進行動計画及び女性活躍推進行動計画の遂行
第6回	7月31日(水)	1. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備 2. 資格取得のための支援制度構築の協議 3. 職員研修実施の手引きの作成 4. OJTシートを使ったキャリア形成「試行」の提案 5. 「職員キャリア形成シート(OJT/OFF-JT受講実績記録表)」の作成依頼 6. 職位別キャリア形成分野 主任・主事の研修会の提案 7. ハラスメント研修の実施の協議 8. 本会広報紙に対する読者アンケートの実施の協議 9. 秋穂出張所機能の再検討 10. ヒアリング結果に基づく事務事業[介護・障がいサービス課22事務事業①]評価の決定
第7回	9月6日(金)	1. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備 2. 資格取得のための支援制度構築の協議 3. 職員研修実施の手引きの作成 4. OJTシートを使ったキャリア形成「試行」の提案 5. 「職員キャリア形成シート(OJT/OFF-JT受講実績記録表)」の作成依頼 6. 職位別キャリア形成分野 主任・主事の研修会の提案 7. 本会広報紙に対する読者アンケート実施の協議 8. ヒアリング結果に基づく事務事業[介護・障がいサービス課22事務事業②]評価の決定
第8回	9月24日(火)	1. 推進会議体[①総務課会議 ②作業所コア会議 ③広報委員会 ④研修委員会 ⑤共同募金担当者会議]の取組み(報告)
第9回	10月4日(金)	1. 推進会議体[①総務課会議 ②作業所コア会議 ③広報委員会 ④研修委員会 ⑤共同募金担当者会議]の取組み(報告) 2. ヒアリング結果に基づく事務事業[総務課18事務事業]評価の決定
第10回	10月15日(火)	1. 推進会議体[①総務課会議 ②研修委員会 ③作業所コア会議 ③予算編成会議]の取組み(報告) 2. ヒアリング結果に基づく事務事業[生活相談課13事務事業]評価の決定 ヒアリング結果に基づく事務事業[地域福祉課47事務事業]評価の決定
第11回	10月30日(水)	1. 推進会議体[①研修委員会 ②南部介護保険事業コア会議 ③作業所コア会議 ④予算編成会議 ⑤秋穂地区社協との協議]の取組み(報告)
第12回	11月5日(火)	1. 4出張所の存続と改編の協議 2. 南部介護保険事業積立金の効果的な事業配分の協議 3. 秋穂地区社協及び阿知須地区社協との協議(報告)
第13回	11月28日(木)	1. 推進会議体[①広報委員会 ②研修委員会 ③総務課会議]の取組み(報告) 2. 事務事業評価の変更 3. 第2回理事会に提出する基盤強化計画資料の確認 4. 人事評価シート作成(中間報告) 5. 福祉課題解決積立金の有効活用の提案
第14回	12月23日(月)	1. 推進会議体[①広報委員会 ②研修委員会]の取組み(報告)

回	開催期日	取組内容
		2. 主任・主事アンケートで出された新規事業の選定 3. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の選定 4. 人事評価シート(明日のチーム)作成のシミュレーション実施
第15回	令和7年 1月17日(金)	1. 推進会議体[①福祉作業所コア会議 ②広報委員会 ③研修委員会]の取組み(報告) 2. 主任・主事アンケートで出された新規事業の選定 3. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の選定
第16回	1月29日(水)	1. 推進会議体[①研修委員会 ②共同募金担当者会議]の取組み(報告) 2. 主任・主事アンケートで出された新規事業の選定 3. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の選定
第17回	2月4日(火)	1. 労使協定に提案する育児・介護休業等に関する規程(規程第78号)の一部改正(案)の協議 2. 主任・主事アンケートで出された新規事業の選定 3. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の選定 4. 人事評価シート(明日のチーム)作成のシミュレーション実施
第18回	2月13日(木)	1. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の選定 2. 主任・主事アンケートで出された新規事業の選定 3. 主任・主事アンケートで出された縮小・廃止事業の協議 4. 主任・主事アンケートで出された改善事業の方向付け 5. 主任・主事アンケートで出された充実事業の方向付け 6. 第3回 職員研修会(OJT研修)の開催に向けて(確認)
第19回	2月28日(金)	1. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の選定[最終決定] 2. 主任・主事アンケートで出された新規事業の選定[最終決定] 3. 主任・主事アンケートで出された縮小・廃止事業の協議 4. 主任・主事アンケートで出された改善事業の方向付け[最終決定] 5. 主任・主事アンケートで出された充実事業の方向付け[最終決定] 6. 第3回 職員研修会(OJT研修)の開催(振り返り) 7. 山口市社協 合併20周年記念誌の作成に向けて(確認)
第20回	3月24日(月)	1. 山口市社協 合併20周年記念誌の作成の概要 2. 主任・主事アンケートで出された縮小・廃止事務事業の協議
令和6年度の主な取組実績		令和7年度の主な取組計画
①事務事業の評価に基づく進捗管理(評価シートの更新) ②法令等遵守規程及び法令等遵守方針の作成[規程は令和6年度 第1回理事会で決議] ③介護・障がいサービス課の拠点(配置)の方向付け ④南部出張所(秋穂・阿知須)存続の検討及び方向付けの協議 ⑤「次世代育成支援対策推進行動計画」及び「女性活躍推進行動計画」の遂行 ⑥地区社協役職員の労務面の現状把握(会長手当、労災保険・雇用保険の加入状況、賃金設定等) ⑦人事評価制度導入の検討 ⑧事務事業の評価に基づき2事業(障害者福祉作業所「かがやき」事業・「希望の館」事業)の終了を決定[令和6年度 第2回理事会・第2回評議員会へ報告]		①事務事業の評価に基づく進捗管理 ②人事評価制度導入のシミュレーション ③同一労働同一賃金への対応 ④法令等遵守規程及び法令等遵守方針の職員への周知 ⑤人材育成方針の作成

(2)基盤強化計画会議〔進捗状況説明会議〕

本会議は、各所属長に計画の進捗状況を説明する会議に位置づけ、年3回開催した。

回	開催期日	説明内容
第1回	4月1日(月)	1. 基盤強化計画推進会議体の令和5年度取組報告と令和6年度取組内容の伝達 2. 令和5年度 事務事業評価で決定した11終了事業の伝達
第2回	9月3日(火)	1. 「職員研修実施の手引き」の概要 2. 「OJTシートを使ったキャリア形成」の試行依頼 3. 「職員キャリア形成シート(OJT/OFF-JT受講実績記録表)の作成依頼 4. 主任・主事対象の職位別キャリア形成研修会の開催予告 5. 第3回職員研修会(職位別グループワーク)の開催予告
第3回	令和7年 1月6日(月)	1. 令和6年度 基盤強化計画 推進会議体の進捗状況(中間報告)
令和6年度取組実績		令和7年度取組計画
① 計画の伝達、進捗状況の報告(令和6年度4月・9月・11月月例会)	① 計画の伝達、進捗状況の報告(令和7年度4月・11月月例会)	
② 事務事業評価の報告(各部署へ文書で通知)	② 事務事業評価の報告(各部署へ文書で通知)	

(3)総務課会議

本会議は、課長以下課内の正規職員及び推進室長で構成し、総務課会議で諮る取組目標の対応策について月1回の頻度で協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	4月15日(月)	1. 基盤強化計画担当者の選定 2. 令和6年度 事務事業評価シートの作成手順(伝達) 3. 総務課会議で協議する年間計画の作成 4. 令和6年度 総務課専任チーム(経理・労務・事業)の編成(試行) 5. 法令等遵守規程(案)及び法令等遵守方針(案)の協議 6. 電子決裁等の検討 7. 職員プロフィールブック作成の周知
第2回	5月27日(月)	1. 総務課会議で協議する目標の年間計画の確認 2. 事務事業評価シートの更新の進め方と担当職員の決定 3. 県内市社協視察の選定(宇部市社協) 内容:経理、労務、共同募金の運営状況と効率化の取組み 4. 令和5年度 決算状況(報告) 5. 遺贈の配分(案)の検討
第3回	6月27日(木)	1. 事務事業評価シートのヒアリング日程の決定 2. 宇部市社協視察の概要の確認 3. 遺贈の運用ルール及び積立金管理運用規程の一部改正(案)の検討 4. 育児・介護休業法及び次世代育成支援対策推進法の改正の確認 5. 次世代育成支援対策推進行動計画及び女性活躍推進行動計画の遂行
ヒアリング	7月10日(水)	1. 総務課事務事業評価シートのヒアリングの実施
視察 研修	9月4日(水)	宇部市社協視察研修 テーマ:事務事業のスリム化及び効率化の取組み
第4回	9月24日(火)	1. 基盤強化計画推進会議体の取組報告 ・総務課会議(宇部市社協視察研修会報告) ・広報委員会(本会広報紙に対する読者アンケートの実施と集計結果)

回	開催期日	取組内容
		・研修委員会(「職員研修実施の手引き」の活用等) 2. 共同募金の新規事業所開拓(企業ボランティア活動促進モデル事業所対象) 3. 共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直しと再構築
第5回	10月23日(水)	1. 基盤強化計画推進会議体の取組報告 ・広報委員会(社協だより発行回数の協議及び宇部市社協視察研修会概要) ・研修委員会(ハラスメント研修の概要等) 2. 総務課事務事業評価更新の決定(報告)
第6回	11月27日(水)	1. 基盤強化計画推進会議体の取組報告 ・広報委員会(宇部市社協視察研修会出席委員の報告等) ・研修委員会(主任・主事対象の職位別キャリア形成企画の報告及び第3回職員研修会「グループワーク」の概要説明) 2. 決裁ルートの効率化の検討 3. 福祉課題解決積立金の有効活用の提案(主任・主事アンケートを参考)
第7回	12月23日(月)	1. 基盤強化計画推進会議体の取組報告 ・広報委員会(当事者団体への情報掲載に関する新様式の提案等) ・研修委員会(第2回職員研修会の反省等) 2. 主任・主事アンケートで出された新規事業の協議①
第8回	令和7年 1月6日(月)	1. 主任・主事アンケートで出された新規事業の協議② 2. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の協議①
第9回	1月21日(火)	1. 主任・主事アンケートで出された縮小・廃止・改善事業の協議①
第10回	2月27日(木)	1. 福祉課題解決積立金を活用した新規4事務事業の決定(報告) 2. 主任・主事アンケートで出された新規10事務事業の決定(報告) 3. 主任・主事アンケートで出された縮小・廃止・改善・充実(追加)事業の協議②
第11回	3月24日(月)	1. 主任・主事アンケートで出された縮小・廃止事務事業の協議③ 2. 事務決裁規程(別表)の見直し 3. 令和6年度 基盤強化計画 推進会議体の取組内容(最終報告)
令和6年度の実績		令和7年度の取組計画
①経理・労務・事業専任チームの編成(試行) ②給与明細の電子化の推進 ③総務課事務事業の評価シートの更新 ④職員プロフィールブックの作成 ⑤三井倉庫の貸与解消 ⑥堀コミュニティサロンの備品の撤去・整理		①情報セキュリティ基本規程を策定 ②平常時・災害時のライン機能などを活用した連絡方法を構築 ③新たな財源の確保の研究 ④経理体制の見直し ⑤財政管理及び経営分析のための仕組みづくり

(4) 予算編成会議

本会議は、4課長及び4課の予算管理責任者並びに推進室長で構成し、予算編成会議で諮る取組目標の対応策について年5回に亘り協議した。

回	開催日	協議内容
第1回	6月4日(火)	1. 基盤強化計画担当者の選定 2. 令和5年度取組実績(振り返り) 3. 令和6年度 基盤強化計画(年間計画)の作成 4. 遺贈(寄付金)の運用ルールを検討①
		基盤強化計画以外

回	開催日	協 議 内 容
		5. 令和5年度 決算報告と反省 6. 令和6年度サマーレビュー作成上の注意点(伝達)
第2回	8月8日(木)	1. 令和6年度 年間計画(内容確認) 2. サマーレビューに提出した21事務事業及び3要望事業(内容確認) 3. 遺贈(寄付金)の運用ルールの検討② <u>基盤強化計画以外</u> 4. 南部居宅介護及び訪問介護事業所の閉所に伴う経費負担(確認) 5. 消費税の修正申告(伝達) 6. 福祉大臣等(株)勤草システックとの契約継続等の決定
第3回	10月11日(金)	1. サマーレビューに提出した21事務事業及び3要望事業(市の回答確認) 2. 遺贈(寄付金)の運用ルールの検討③ 3. 福祉課題解決積立金の新設(案)の協議 3. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業(地域生活支援活動推進事業)の協議 4. 会費・寄付金・共同募金配分金を財源とする自主事業の再編 <u>基盤強化計画以外</u> 5. 南部介護保険事業終了による関係車両の組替え
第4回	12月11日(水)	1. サマーレビューに提出した21事務事業及び3要望事業(市の回答確定) 2. 南部介護保険事業積立金の効果的な組替え 3. 遺贈(寄付金)の運用ルールの検討④ 4. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の協議 5. 主任・主事のアンケートから出された新規事業・廃止事業の協議 <u>基盤強化計画以外</u> ・令和7年度予算(人件費及び経費按分)の確認 ・車両の配置と維持管理経費の確認
第5回	令和7年 2月14日(金)	1. 令和7年度の持続可能な予算編成の考え方(確認) 2. 福祉課題解決積立金を活用した新規事業の選定 3. 主任・主事アンケートで出された新規事業の選定 <u>基盤強化計画以外</u> 4. 令和6年度 第二次補正予算(案)(確認) 5. 令和7年度 当初予算(案)(確認) 6. 勘定科目の取扱い(確認)
令和6年度の実績		令和7年度の実行計画
①市民からの遺贈の組立(積立金管理運用規程の一部改正は令和6年12月第2回理事会へ上程) ②持続可能な会費及び寄付金の配分事業の見直し ③共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し ④委託事業、指定管理事業、補助事業、自主事業の精査(事務事業評価に基づいて)		①福祉課題解決積立金を活用した新規事業の試行 ②持続可能な会費及び寄付金の確保と効率的運用 ③共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し ④新たな財源の確保の研究 ⑤車両管理計画の策定及び実施 ⑥OA機器等の配置計画の策定及び実施

(5) 研修委員会

本会議は、各課から選任された研修委員及び推進室長で構成し、研修委員会で諮る取組目標について年5回に亘り協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	5月8日(水)	1. 基盤強化計画担当者の選定 2. 令和5年度取組実績(振り返り) 3. 令和6年度 基盤強化計画(年間計画)の作成 4. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備 5. 資格取得のための支援制度の構築 6. 冊子のタイトル「OJTマニュアル」を「職員研修実施の手引き」に変更 7. ハラスメント研修の実施(反省) 8. 職員研修会の年間計画(年3回)の作成
第2回	7月26日(金)	1. 職員研修会の年間計画(年3回)の確認 2. 主任・主事対象の職位別キャリア形成分野企画の概要 3. 第1回職員研修会「障害のある人への合理的配慮の提供」の協議 4. リモート会議などネット環境に対応した環境の整備 5. 資格取得のための支援制度の構築 6. 「職員研修実施の手引き」の校正 7. ハラスメント研修の具体化
第3回	10月28日(月)	1. 第1回職員研修会「障害のある人への合理的配慮の提供」開催の振り返り 2. 主任・主事対象の職位別キャリア形成分野企画の予告 3. 「職員研修実施の手引き」の有効活用の提案 4. 第2回職員研修会「ハラスメント(上司編／一般職員編)」の具体化 5. 第3回職員研修会「職位別グループワーク」の具体化
職員別 キャリア 形成企画	11月15日(金)	<u>主任・主事研修会</u> 内 容： 第1部 研修会① 事業相互紹介 研修会② 各課長への質問タイム 第2部 茶話会 第3部 懇親会 会 場： 第1部・第2部 南部支所2階 第3部 福の花
第4回	令和7年 1月22日(水)	1. 第2回職員研修会「ハラスメント(上司編／一般職員編)」の実施(振り返り) 2. 第3回職員研修会「職位別グループワーク」の進め方の確認 3. 「職員研修実施の手引き」の有効活用 4. 職位別キャリア形成第2弾企画「主任・主事アンケートで出された新規事業」の選定(中間報告)
第5回	3月25日(火)	1. 職員研修会の年間実施報告(年3回) 2. 第3回職員研修会「職位別グループワーク」の実施(振り返り) 3. 職位別キャリア形成研修受講の確認(職員キャリア形成シート(OJT/OFF—JT 受講実績記録表に反映) 4. 意思疎通支援普及事業の位置づけの変更 5. 職位別キャリア形成分野第2弾企画「主任・主事アンケートで出された事務事業の選定(最終報告) 6. 主任・主事アンケートで出された縮小・廃止事務事業の協議

回	開催期日	取組内容
		7. 主任・主事アンケートで出された改善事業の方向付け 8. 主任・主事アンケートで出された充実事業の方向付け 9. 「職員研修実施の手引き」の有効活用 10. 人事評価制度の導入について(経過報告) 11. 令和7年度 職員研修会(年3回)の提案
令和6年度の実績		令和7年度の実行計画
①リモートに移行できる会議の提案(月例会議は令和6年5月からハイブリットで開催) ②「職員研修実施の手引き[「OJT(職場での仕事経験や指導、助言、相互の学び合いによる育成)」と「OFF-JT(職場外研修)」、「SDS(自己啓発研修)」]の作成 ③OJT(職場内訓練)の推進マニュアルの作成と試行 ④職員キャリア形成シート(OJT/OFF—JT受講実績記録表)の作成 ⑤資格取得のための支援制度の構築[4職種(社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・手話通訳士)の受験合格者に受験料の補助の設定] ⑥職位別キャリア形成分野企画「主任・主事の研修会・茶話会・懇親会」の開催 ⑦ハラスメントに関する職員研修の企画(上司編／一般職員編)に基づく開催		① 人材育成方針の作成 ② 職位についての研修の実施 ③ ICT活用方針の策定

(6)広報委員会

本会議は、各課から選任された広報委員及び推進室長で構成し、広報委員会で諮る取組目標の対応策について隔月奇数月に協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	5月15日(水)	1. 基盤強化計画担当者の選定 2. 令和5年度取組実績(振り返り) 3. 令和6年度 基盤強化計画(年間計画)の作成 4. 本会広報紙に対する読者アンケート実施の素案づくり 5. 本会ホームページに寄付金受付募集の素案づくり
第2回	7月17日(水)	1. 本会ホームページに寄付金受付募集の開設報告(7月1日～) 2. 本会広報紙に対する読者アンケート実施(8月1日付け)の最終確認 3. 本会ホームページに掲載する当事者団体への新様式の提案
第3回	9月18日(水)	1. 本会広報紙に対する読者アンケートの集計結果① 2. 社協だより発行方法・発行回数の協議① 3. 本会ホームページに掲載する当事者団体への新様式の提案(意向確認のアンケートの実施)① 4. 県内市町社協のSNS活用状況の確認(山口県社協調査により)
第4回	11月13日(水)	1. 本会広報紙に対する読者アンケートの集計結果② 2. 社協だより発行方法・発行回数の協議② 3. 本会ホームページに掲載する当事者団体への新様式の提案(意向確認のアンケートの実施)②

回	開催期日	取組内容
		4. 本会ホームページに寄付金及び社協会費の受付・管理フォーム〔Syncable 導入による寄付募集の開設検討①〕 5. 宇部市社会福祉協議会視察研修会の事前打ち合わせ
視察 研修	11月13日(水)	宇部市社協視察研修 1. 広報活動(SNSの活用による情報発信等)の取組み
第5回	令和7年 1月15日(水)	1. 社協だより発行方法「回覧方式」の方向性の決定 2. 本会ホームページに当事者団体の情報掲載の新様式の導入(令和7年1月10日～) 3. 本会ホームページに寄付金及び社協会費の受付・管理フォーム〔Syncable〕導入による寄付募集の開設準備② 4. 宇部市社会福祉協議会視察研修会の出席職員の報告(所感・意見) 5. 本会ホームページ強化化(SNS導入)の具体案(令和7年度に向けて)①
第5回	3月14日(金)	1. 社協だより発行方法「回覧方式」に決定 2. 本会ホームページの当事者団体の情報掲載の新様式の導入(令和7年1月10日～)(再確認) 3. 本会ホームページに寄付金及び社協会費の受付・管理フォーム〔Syncable〕導入による寄付募集の開設準備③ 5. 本会ホームページ強化(SNS導入)の具体案(令和7年度に向けて)② 6. 山口市社協 合併20周年記念誌の作成の概要
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①「こちら社協です」読者アンケートの実施 ②社協だよりの発行方法の変更(全戸配布方式から回覧方式へ) ③ホームページに寄付金及び社協会費の受付募集の開設(寄付集めのクラウドサービス Syncable の導入によるクレジットカード、銀行振込に対応) ④ホームページの当事者団体の情報掲載に関する新様式の提案と変更 ⑤ホームページの充実を主軸にInstagramやライン等数々のSNSの活用①キャラクターの活用(再点検)		① 本会ホームページ強化の具体策(SNS導入、マニュアル作成、閲覧数の集計、SNS強化職員の育成等) ② 本会ホームページの寄付金受付募集〔Syncable 導入〕の対応マニュアルの作成 ③ 山口市社協 合併20周年記念誌の作成

(7)事業調整会議

地域福祉課長以下課内職員で構成し、地域福祉課事務事業の情報伝達、課題共有の場として位置づけ、月1回の頻度で開催した。(取組内容は97頁に掲載)

(8)衛生推進者会議

法人内に配置している衛生管理者及び衛生推進者で構成し、「働きやすい職場環境づくり」を実施目標として6月に開催した。

回	開催期日	取組内容
第1回	6月18日(火)	1. 基盤強化計画担当者(確認) 2. 令和6年度 基盤強化計画(年間計画)(伝達) 3. 衛生管理者、衛生推進者の職務内容(伝達) 4. 育児/介護休業法、次世代育成支援対策推進法の改正(伝達)

回	開催期日	取組内容
		5. 女性活躍推進行動計画の遂行(伝達) 6. ハラスメントについての防止策や連絡先(伝達) 7. メンタルヘルスについて相談しやすいシステムづくり(伝達) 8. その他、通常の衛生管理についての意見交換
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①衛生推進者の職務の再確認 ②時間外労働削減の提案 ③「次世代育成支援対策推進行動計画」及び「女性活躍推進行動計画」の遂行 ④育児・介護休業法、次世代育成支援対策推進法改正の周知 ⑤職員の健康診断に基づく健康保持(健康相談・面接指導等)の周知 ⑥ハラスメント及びメンタルヘルスケアの相談窓口の周知		①衛生推進者の職務の再確認 ②時間外労働削減の提案 ③「次世代育成支援対策推進行動計画」及び「女性活躍推進行動計画」の遂行 ④育児・介護休業法改正の周知 ⑤職員の健康診断に基づく健康保持(健康相談・面接指導等)の周知 ⑥ハラスメント及びメンタルヘルスケアの相談窓口の周知

(9) 南部介護保険事業コア会議

事務局長、事務局次長、介護障がいサービス課長及び主幹並びに事業所管理者、推進室長で構成し、事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回コア会議	10月25日(金)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議 ・利用者(要支援・要介護ケース)のケース移行(～令和6年12月末まで) ・慰労金の支給の準備 ・システム及び公用車両のリース契約の解消等 ・山口県、山口市に対する事業所の休止及び廃止書類の提出 ・他介護保険事業関連機関、事業所への廃止の周知及びお礼 ・繰越金及び積立金の取扱い ・登録訪問介護員の最終会議[令和6年12月20日(金)]
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①南部介護保険事業所(居宅介護支援事業所・訪問介護事業所)廃止(令和7年3月31日)に向けての目標設定に基づいた取組		①南部介護保険事業(居宅介護支援事業・訪問介護事業)の繰越金及び積立金の取扱いの確定

(10) 北部介護保険事業コア会議

事務局長、事務局次長、介護障がいサービス課長及び主幹、推進室長で構成し、当該臨時職員の期末手当廃止と賃金の引上げに向けての協議を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回コア会議	5月1日(水)	1. 当該臨時職員の期末手当廃止と賃金等の引上げの協議 ・正看護師賃金 1,500円/時間→1,800円/時間(300円増額) ・准看護師賃金 1,300円/時間→1,600円/時間(300円増額) ・訪問介護員賃金 1,000円/時間→1,300円/時間(300円増額)

回	開催期日	取組内容
		・車借上げ料15円/km→20円/km(5円増額) ・正看護師移動手当 30円/km→36円/km(6円増額) ・准看護師移動手当 26円/km→32円/km(6円増額) ・訪問介護員移動手当20円/km→26円/km(6円増額)
令和6年度の取組実績		令和7年度の取組計画
①北部介護保険事業所の臨時職員の期末手当廃止と賃金等の引上げの検討		①あとう訪問介護事業所及びあとう居宅介護支援事業所の赤字経営への対処

(11)障害者福祉作業所コア会議

事務局長、事務局次長、介護障がいサービス課長及び主幹並びに両作業所所長、推進室長で構成し、事務事業評価に基づく障害者福祉作業所廃止に向けての協議を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回コア会議	9月5日(木)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議①〔作業所廃止の目標は最長令和9年3月末に設定〕
第2回コア会議	10月9日(水)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議②〔作業所廃止の目標は令和8年3月末とし、最長令和9年3月末に変更〕
第3回コア会議	11月29日(金)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議③〔作業所廃止の目標は令和8年3月末に変更〕 <u>作業所廃止までの目標設定</u> (1) 事務局長・課長会議〔令和6年10月30日〕 (2) 山口県及び山口市に対する事業終了、作業所廃止の打診〔令和6年11月〕 (3) 会長・副会長会議〔令和6年12月4日〕 (4) 令和6年度 12月理事会〔令和6年12月20日〕 (5) 職員に対する事業終了等の周知と意向確認 <u>第1段階</u> 当該職員への作業所閉所の説明会の開催〔令和6年12月下旬〕 <u>第2段階</u> 当該職員(一人ひとり)対象の面談の実施〔令和7年1月中旬〕 (6) 障害者相談支援事業所に対する作業所閉所等の周知〔令和6年12月〕 (7) 令和6年度 3月評議員会〔令和7年3月21日〕 ※障がい者福祉作業所「かがやき」と「希望の館」廃止の説明と告知を行う。 (8) 利用者及び家族に対する作業所閉所等の周知〔令和7年4月〕 (9) 山口市へサマーレビューで令和7年度末の作業所閉所を予告 (10) 利用者の作業所移管〔令和7年4月以降～12月頃〕 (11) 令和7年度 12月理事会へ事業廃止議案の上程 (12) 山口県に対する作業所廃止書類の提出及び山口市に対する指定管理業務(基本協定)の期間短縮の調整〔令和8年1月〕 (13) 令和7年度 令和8年3月評議員会へ事業廃止議案の上程 (14) 作業所廃止の周知及びお礼〔令和8年3月末〕
健康福祉部訪問	11月29日(金)	1. 山口市へ事業所廃止の打診
会長・副会長会議	12月4日(水)	1. 事業所廃止の提案

回	開催期日	取組内容
第3回理事会	12月20日(金)	1. 事業所廃止の告知
事業廃止説明会	12月23日(月) 12月26日(木)	1. 当該職員対象の事業所廃止の説明会
当該職員面談	令和7年 1月中旬	1. 当該職員対象の面談の実施
第4回コア会議	1月29日(水)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議④ ・目標設定の振り返りと軌道修正
第5回コア会議	3月7日(金)	1. 事務事業評価に基づく南部介護保険事業所廃止に向けての協議⑤ ・目標設定の振り返りと今後の進め方の再設定
第2回評議員会	3月21日(金)	1. 事業所廃止の告知
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①かがやき及び希望の館両作業所廃止(令和8年3月31日)に向けての目標設定に基づいた取組 ・事務局長・課長会議で作業所廃止を事務局として決定 ・山口県及び山口市に対する事業終了、作業所廃止の打診 ・会長・副会長会議で作業所廃止を決定 ・令和6年度 12月理事会で作業所廃止の説明と告知 ・職員に対する事業終了等の周知と意向確認 <u>第1段階</u> 当該職員への作業所閉所の説明会の開催 <u>第2段階</u> 当該職員(一人ひとり)対象の面談の実施 ・障害者相談支援事業所に対する作業所閉所等の周知 ・令和6年度 3月評議員会で作業所廃止の説明と告知		① かがやき及び希望の館両作業所廃止(令和8年3月31日)に向けての目標設定に基づいた取組 ・目標設定の振り返りと今後の進め方の再設定 ・各請負業者との契約解消の優先順位の設定 ・請負作業減に伴う利用者(作業生)への工賃補填(支給基準の設定) ・令和7年度の利用者(作業生)減による職員体制及び所得補償の原資の確認 ・職員慰労金の支給(案)及び原資の確認 ・作業所休止後の人事異動(実施しない) ・公用車及びパソコンのリース契約の解消又は移行 ・かがやきの指定管理(建物)返還に向けての備品整理及び廃棄 ・希望の館閉所後の令和8年度以降の建物管理

(12) 南部エリア2出張所コア会議

本会議は、常務理事・事務局長・事務局次長・課長・推進室長で構成し、南部エリア2出張所(秋穂出張所・阿知須出張所)の再編(廃止を含む)について協議を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回	5月27日(月)	1. 南部エリア2出張所の業務の現状 2. 南部エリア2出張所の方向性の目標設定
第2回	6月17日(月)	1. 南部エリア2出張所の業務の現状 2. 秋穂出張所の方向性(職員配置、勤務体制、関係機関・団体との協議) 3. 南部エリア2出張所の方向性の目標設定
秋穂総合支所	7月4日(木)	1. 秋穂出張所の方向性について打診
第3回	7月31日(水)	1. 秋穂出張所機能の再検討
第1回 秋穂地区社協(3役)	9月20日(金)	1. 秋穂出張所の方向性(職員配置、勤務体制等)について打診

回	開催期日	取組内容
第2回 秋穂地区社協(3役)	10月21日(月)	1. 秋穂出張所の方向性(職員配置、勤務体制等)について打診
第4回	11月5日(火)	1. 4出張所業務の現状と課題 2. 4出張所の方向性(存続と改編)
阿知須出張所	12月12日(木)	1. 南部エリア2出張所設置の再検討 2. 阿知須出張所及び阿知須健康福祉センターの方向付け
第3回 秋穂地区社協(3役)	12月24日(火)	1. 南部エリア2出張所設置の方向性 2. 秋穂出張所の職員体制(案)について打診 3. 秋穂地区社協の回答
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①南部エリア2出張所の方向付け		①南部エリア2出張所の方向付け(目標設定と実行)

(13)事業継続計画(BCP)検証会議

福祉サービス事業所の所属長又は職員並びに推進室長で構成し、事業継続計画(BCP)の検証を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回	12月19日(木)	1. 事業所単位の事業継続計画(BCP)の検証[災害発生から概ね24時間(1日)以内を想定] ・緊急連絡網による職員の安否確認、所在確認、勤務可能の職員確認等 ・参集後の利用者の安否確認(連絡網の活用) ・建物・施設の設備及びライフラインの点検(災害時施設等点検チェックリストの活用) ・参集職員間の役割分担の設定
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①介護・障がい関連の事業所単位の事業継続計画(BCP)の検証		②介護・障がい関連の事業所単位の事業継続計画(BCP)の検証

(14)虐待防止及び身体拘束等適正化検討委員会

福祉サービス事業所の所属長又は職員並びに推進室長で構成し、虐待防止及び身体拘束等適正化について情報交換、情報共有を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回	12月19日(木)	1. 委員会の目的及び役割(確認) 2. 虐待防止及び身体拘束等の適正化のための指針の協議 3. 各所属における虐待防止及び身体拘束等適正化に向けた取組の現状把握(セルフチェックリスト、研修、その他日常の取組等) 5. 各所属で取組む虐待防止の研修の実施、虐待防止委員会の記録及び職員への周知 4. 身体拘束を行っている利用者がある場合又は身体拘束を開始する検討が必要な利用者がある場合の進め方
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①虐待防止及び身体拘束等の適正化のための指針の作成 ②各所属における虐待防止及び身体拘束等適正化に向けた取組の現状把握 ③身体拘束の利用者、検討が必要な利用者の進め方の確認		①各所属における虐待防止及び身体拘束等適正化に向けた取組の現状把握 ②身体拘束の利用者、検討が必要な利用者の進め方の確認

(15) 感染症対策委員会

福祉サービス事業所の所属長又は職員並びに推進室長で構成し、感染対策について情報交換、情報共有を行った。

回	開催期日	取組内容
第1回	12月19日(木)	1. 委員会の目的(確認) 2. 感染症対策マニュアル(案)の協議 3. 各所属における感染症の職員及び利用者の発生状況(報告) 4. 各所属における感染症予防及びまん延防止のための研修並びに訓練の実施状況(報告) 5. 記録の整備(伝達)
令和6年度の実績		令和7年度の実績
①感染症対策委員会の設置及び開催 ②感染症対策マニュアルの作成 ③各所属における感染症予防及びまん延防止のための研修並びに訓練の実施		①感染症対策委員会の開催 ②感染症対策マニュアルの遂行 ③各所属における感染症予防及びまん延防止のための研修並びに訓練の実施

(16) 共同募金担当者会議

本会議は、各課から選任された共同募金担当者及び推進室長で構成し、共同募金担当者会議で諮る取組目標対応策について年4回に亘り協議した。

回	開催期日	取組内容
第1回	4月22日(月)	1. 基盤強化計画担当者の選定 2. 令和5年度取組実績(振り返り) 3. 令和6年度 基盤強化計画(年間計画)の作成 4. 共同募金の配分事業の見直し ・みんなに優しいまちづくり支援事業のリニューアル ・災害支援事業(災害見舞金支給規程の一部改正) 5. 歳末たすけあい募金の配分事業の見直し ・目標額の減額 ・生活困窮者等の生活相談所開設及び食糧支援事業の減額 ・罹災者応援事業の増額 ・児童福祉施設交流支援事業の廃止 ・地区社協広報支援事業の組換え ・令和5年度歳末募金額の減少に伴う収入(に応じた予算編成(組換え)) ・災害義援金が山口県共同募金会等から山口市に配分される場合、災害義援金を優先し、歳末募金からの配分金は適用除外
第2回	6月4日(火)	1. 共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直しと再構築 ・一般募金配分金団体(ボランティア団体・福祉団体)助成事業の再検討 ・一般募金配分金の公募による助成事業の開設の検討(既得権による団体助成の見直し) ・地域のつながりを絶やさない事業(増額)を踏まえ、歳末たすけあい募金額が相対的に多い旧町の地区社協対策(意向確認) ・歳末たすけあい募金の目標額が達しなかった場合の対策(配分事業の優先順位の決定) 2. 募金額拡充(集め方)の再検討
第3回	9月17日(火)	1. 共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直しと再構築 ・「児童福祉施設等交流支援事業」に代わる「児童分野の支援に関する事業」の開設 2. 募金額拡充(集め方)の再検討
第4回	令和7年 1月28日(火)	1. 共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直しと再構築 2. 募金額拡充(集め方)の再検討 ・「UMOUプロジェクト in 山口」の周知 ・「赤い羽根共同募金の寄付付自動販売機(コラボ自動販売機)」の開拓 ・ガチャ募金の開拓
令和6年度の実績		令和7年度の実績

回	開催期日	取組内容
①共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し		①共同募金・歳末たすけあい募金の配分事業の見直し ②募金額拡充(集め方)の提案

《成果と課題》

本年度は、第3次計画の2年次で、計画の10の基本目標、22の実施目標、35の取組目標を16の推進会議体に振り分け、それぞれの会議体が主体となって対応策について協議した。取組目標には、取り組みやすい目標と直ぐに明確な方向性が出せない目標があるが、それぞれの会議体で協議し、現状把握と課題整理、そして成果物ができたことは評価できる。

令和6年度は、利用者の微減により赤字運営が続き、数年前から基盤強化計画の事案として上がっていた就労継続支援B型事業所の「かがやき」と「希望の館」の閉所を決めた。作業所の利用者の中には、開設当初からの利用者もあり、閉所に至った経緯を丁寧に説明するとともに、相談支援事業所のお力を借りながら、利用者や保護者家族の思いを真摯に受け止め、寄り添いながら利用者の特性に合った次の就労場所や居場所が見つかるよう最善を尽くす所存である。

人材育成部門では、職員研修が計画的かつ効果的に進むように、「職員研修実施の手引き」を研修委員会母体に作成した。職員研修の基本的な進め方である「OJT(職場での仕事経験や指導、助言、相互の学び合いによる育成)」と「OFF-JT(職場外研修)」、「SDS(自己啓発研修)」を解説するとともに、特に効果的な実践方法である「OJT」については、本年度の昇任職員と新任職員を対象に指導職員が個別に面談を通じて指導する時間を設定し、人材育成に取り組んだ。

財政運営部門では、近年の会費、寄付金、共同募金等自主財源の大幅な減収に歯止めがきかず、積立金を取り崩して均衡を保つ状況となっている。これまでも自主財源の会費、寄付金、共同募金については、事務事業を見直して支出削減を行ってきたが、少々の見直しでは追い付かず、抜本的な精査、見直しが喫緊の課題となっていた。

そこで、共同募金配分事業については、他の自主財源に先駆けて、収入(実績額)に構成比率(全予算に対する各事業の占める割合)を乗じて配分額を決定する緊縮財政に取り組んだ。特に共同募金の配分を受けている団体には、実績減の状況を説明し、助成金減額の理解を求めていった。これにより同意が得られ、収入に応じた配分が実現した。

また、令和5年度の市民からの遺贈は、「福祉課題解決積立金」をメインに「地域福祉活動積立金」及び「施設及び設備整備積立金」並びに「繰越金」に配分し、新設の「福祉課題解決積立金」は、福祉課題解決につながる新規事業の財源としての仕組みができた。

しかし、「安定的な財政運営の仕組みづくり」までは至っておらず、懸案事項として次年度につなげ、将来的にも財政負担の増大が見込まれる事業や、費用対効果が低い自主事業については効率化の視点でさらに精査し、本会にとって費用対効果が低い委託事業については山口市へ返還する等、5年間かけて収支のバランスが取れた健全で持続可能な財政運営を具現化し、体系化する。

2 令和6年度 評価シートに基づく事務事業の方向性

(1) 目的

本会は、数多くの委託事業、補助事業、自主事業を抱えており、近年、地域共生社会の実現を目指すための「地域づくり」に焦点をあてた新事業の委託が増えている。本会が地域共生社会の実現に向けて時代に即した効率的な事業運営を進めていくには、各事業を精査分析し、利用者の満足度が高い事業は、主力事業に位置づけ力を入れるとともに、利用者の満足度が低い事業や採算や効率の低い事業は縮小・廃止に向けて整理する等、組織も含めて法人としての方向性を明確に打ち出していく必要がある。

評価シートは、各事務事業の過去5年間の実績、成果と課題及び改善点、費用対効果を明確化し、事務事業を5段階評価(必要度や将来度のランク付け)するもので、その評価に基づき明確化した課題を計画的に取り組むことで、①主力事業の構築や②組織の再編成、③適正な人員配置の参考とする。

(2) 第3次山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画の事務事業評価の位置づけ

部 門	1 組織強化と効率的な組織運営
基本目標	2 業務の効率化
実施目標	2 事務事業の評価と業務改善・事務の効率化

(3) 事務事業の範囲

- ・将来にわたって方向性を示す必要がある101事務事業〔推進室で提示〕
〔地域福祉課47 生活相談課13 介護・障がいサービス課23 総務課18〕

(4) 事務事業評価の進め方

第1段階 事務事業評価シートの更新作業

■作業内容

- ①事業の指標箇所(令和5年度実績及び令和6年度予算額)の入力
- ②新たな課題の追加入力 ③目標設定年度の変更入力 ④その他修正箇所等の入力
- ②③④は追加、変更等がある場合のみ

・担当職員が評価シートの上部分(令和6年度予算額まで)を加筆修正し、成果と課題以降の変更は所管課内で協議の上、所属長(課長含む)及び主幹が赤字で修正し、作業終了後、基盤強化計画推進室に報告する。

■更新作業期間 令和6年5月13日(月)～5月31日(金)

※6月前半事務局長・課長会議で更新作業の状況確認

第2段階 ヒアリングの実施

事務局長及び推進室(室長・担当課長)が所属長(課長含む)及び主幹の更新した評価シートに基づいてヒアリングを実施する。なお、サマーレビューに関連する事務事業については、優先して実施する。

■ヒアリングの実施 6月3日(月)～7月19日(金)

期 日	担当部署
6月11日(火)	南部支所(地域福祉担当)
6月14日(金)	山口市福祉センター

期 日	担当部署
6月19日(水)	生活相談課
6月24日(月)	社会福祉センターしらさぎ会館
6月26日(水)	徳地出張所
6月26日(水)	秋穂出張所 山口市秋穂コミュニティセンター
7月 2日(火)	地域福祉課
7月 4日(木)	障害者福祉作業所「かがやき」・「希望の館」
7月 5日(金)	山口市川西地域包括支援センター 山口市川西第2地域包括支援センター
7月10日(水)	総務課
7月11日(木)	阿知須出張所
7月12日(金)	地域活動支援センター「アカシア工房」
7月17日(水)	阿東出張所(地域福祉担当)
7月17日(水)	阿東出張所(介護・障がいサービス担当)

第3段階 各事務事業の方向性の更新〔進行管理〕

- ・推進室(室長・担当課長)でヒアリング結果を分析後、各事務事業の方向性(案)を事務局長・課長会議に提示し、協議の上法人としての方向性の更新を決定する。

■方向性の更新決定 8月・9月の事務局長・課長会議

第4段階 各事務事業の評価(必要度・方向性)決定

■各所属長へ文書で通知 11月20日(水)

課 名	主力事業	事務事業の方向性				事務事業 合計
		1 事業拡大	2 現状維持	3 事業縮小	4 受託終了 事業廃止	
1 地域福祉課	6	4(4)	21(29)	14(7)	8(7)	47(47)
2 生活相談課	2	2(2)	8(7)	1(1)	2(2)	13(12)
3 介護・障がいサービス課	0	0(0)	19(18)	0(2)	4(2)	23(22)
4 総務課	2	1(1)	10(12)	6(4)	1(1)	18(18)
合 計	10	7(7)	58(66)	21(14)	15(12)	101(99)

※()は令和5年度実績

(5)進行管理 基盤強化計画推進室

(6)10の主力事業の推進

- ①地域福祉課(6事業) (1)地区社協支援事業
(2)福祉員活動事業
(3)民生委員児童委員協議会事業
(4)地域福祉推進に係る事業
(5)友愛訪問活動促進事業
(6)ボランティアセンター管理運営事業
- ②生活相談課(2事業) (1)日常生活自立支援事業 (2)法人成年後見事業

- ③総務課(2事業) (1) 法人運営事業 (2) 共同募金事業

(7) 事務事業評価で決定した13の終了事業

- ①地域福祉課(6事業) (1) 移送サービス支援事業(小郡)
(2) 移送サービス支援事業(阿知須)
(3) 阿東区域外出支援サービス事業
(4) 小郡高齢者生きがいセンターさるびあ館
(5) 祭壇等備品貸出事業(地域活性化事業)
(6) 生活支援コーディネーター(第1層)業務(新)
- ②生活相談課(2事業) (1) 高額介護サービスつなぎ資金貸付事業
(2) 生活安定対策資金貸付事業
- ③介護・障がいサービス課(4事業) (1) 南部居宅介護支援事業
(2) 南部訪問介護事業
(3) 障害者福祉作業所「かがやき」事業(新)
(4) 障害者福祉作業所「希望の館」事業(新)
- ④総務課(1事業) (1) 堀コミュニティサロン管理(徳地出張所維持管理事業)

《成果と課題》

本年度の年度初めの取組みとして「事務事業の評価」を位置づけ、将来にわたって方向性を示す必要がある101事務事業〔推進室で提示〕の評価を、評価シート(各事務事業の過去5年間の実績、成果と課題及び改善点、費用対効果等)に基づいて、5段階(必要度や将来度のランク付け **A**事業拡大、**B**事業現状維持、**C**事業内容を見直して現状維持又は縮小、**D**事業縮小又は終了を検討、**E**事業終了)で評価することで、各事務事業の方向性を整理することができた。

これまでは、所属長と事業担当者を中心に共有していた課題もあり、今回の事務事業評価により法人全体の課題として共有することで、課題解決に向けての目標設定や着地点(ゴール)を打ち出すことができた。

今回の事務事業の精査と評価を通して、「10の主力事業」を法人として力を入れるべき事業として位置づけ職員に周知するとともに開設30年以上経過している就労継続支援B型事業所の「かがやき」と「希望の館」の閉所を決定し、理事会及び評議員会において報告した。次年度、1年かけて利用者の適正に合った就労場所が確保できるよう努めていく。

主要事業

1 自律した法人運営と「働き方改革」の推進

(1) 就業関連規程に基づいた「働き方改革」の推進

- ① 育児短時間勤務及び子の看護休暇に関する就業規程 5 規程(就業規程・嘱託職員就業規程・臨時職員就業規程・登録生活支援員就業規程・放課後児童クラブ支援員及び補助員就業来て)の一部改正
- ② 育児・介護休業等に関する規程の一部改正
- ③ ハラスメント防止規程の一部改正
- ④ 法令等遵守規程の制定
- ⑤ 事務事業評価による業務の効率化、省力化
- ⑥ 次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の推進及び進行管理
- ⑦ 女性活躍推進法に基づく行動計画の推進及び進行管理
- ⑧ カスタマーハラスメント等不当要求行為対応マニュアルの作成

(2) 組織基盤の整備

1) 住民会員(一般会員)会費の周知の徹底

会費項目 (一口金額)	山口地域 (500円)	小郡地域 (500円)	秋穂地域 (500円)	阿知須地域 (500円)	徳地地域 (500円)	阿東地域 (500円)
会員数	45,582	4,692	2,077	2,528	1,940	1,959
金額(円)	22,791,000	2,346,402	1,038,500	1,264,000	970,000	979,800
合 計(円)					29,389,702	

※前年度比 275,948円減

2) 住民会員(一般会員)会費以外〔市内統一〕の周知の徹底

会費項目 (一口金額)	特別会員会費 (1,000円)	組織会員 (団体会員)会費 (3,000円)	組織会員 (施設会員)会費 (7,000円)	賛助会員会費 (5,000円)
件 数	72	87	49	187
金額(円)	893,000	261,000	350,000	1,175,110
合 計(円)				2,679,110

※前年度比 71,390円減

○新たな事業所等に対する賛助会員会費の増強・拡大

本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を鑑み、訪問による新規事業所開拓を積極的には行わなかった。例年どおり、本会職員が関わりのある事業所に対して、賛助会員への加入をお願いした。

3) 善意銀行の周知と適正な配分実施

寄附項目	一般寄附	香典返し	資産積立	合 計
件数(件)	79	188	0	267
金額(円)	1,546,104	12,553,000	0	14,099,104

※前々年度比 2,658,473円減

(2) 法人の運営

1) 理事会及び評議員会の開催

開催日(会議名)	内 容
6月10日(月) (第1回理事会)	報告第1号 就業関連6規程の一部改正について 報告第2号 介護保険関連14運営規程の一部改正について 報告第3号 会長、常務理事の職務執行状況について (提出議案) 議案第1号 令和5年度 事業報告について 議案第2号 令和5年度 収支決算報告について 議案第3号 令和6年度 資金収支第一次補正予算(案)について 議案第4号 残任期間に伴う評議員選任・解任委員会委員の選任(案)について 議案第5号 第1回評議員選任・解任委員会の開催(案)について 議案第6号 第1回評議員選任・解任委員会に提出する評議員の選任候補者の推薦(案)について 議案第7号 定時評議員会の開催(案)について 議案第8号 役員(理事)候補者の提案について 議案第9号 臨時職員就業規程(規程第15号)の一部改正(案)について 議案第10号 給与規程(規程第18号)の一部改正(案)について 議案第11号 高額介護サービス費等貸付規程を廃止する規程(規程第110号)の制定(案)について 議案第12号 法令等遵守規程(規程第111号)の制定(案)について
6月25日(火) (定時評議員会)	(提出議案) 議案第1号 令和5年度 事業報告について 議案第2号 令和5年度 収支決算報告について 議案第3号 令和6年度 資金収支第一次補正予算(案)について 議案第4号 理事の選任(案)について 議案第5号 高額介護サービス費貸付規程を廃止する規程(規程第110号)の制定(案)について
12月20日(金) (第2回理事会)	報告第1号 会長専決事項「介護保険関係事業」及び「障害者総合支援関係事業」運営規程の一部改正について 報告第2号 会長専決事項 育児・介護休業に関する規程の一部改正について 報告第3号 会長、常務理事の職務執行状況について 報告第4号 裁判外紛争(ADR)による和解勧告について (提出議案) 議案第1号 積立金管理運営規程(規程第24号)の一部改正(案)について

開催日(会議名)	内 容
令和7年 3月11日(火) (第3回理事会)	報告第1号 会長専決事項 指定就労継続支援(B型)事業運営規程【山口市社会福祉協議会障害者福祉作業所】(規程第55号)の一部改正について 報告第2号 会長専決事項 山口市川西地域包括支援センター指定介護予防支援事業運営規程(規程第69号)及び山口市川西第2地域包括支援センター指定介護予防支援事業運営規程(規程第102号)の一部改正について 報告第3号 会長専決事項 移動支援規程(規程第73号)の一部改正について 報告第4号 会長専決事項 放課後児童クラブ支援員及び補助員就業規程(規程第97号)の一部改正について 報告第5号 会長、常務理事の職務執行状況について (提出議案) 議案第1号 令和6年度 資金収支第二次補正予算(案)について 議案第2号 令和7年度 事業計画(案)について 議案第3号 令和7年度 資金収支予算(案)について 議案第4号 就業規程(規程第13号)の一部改正(案)について 議案第5号 給与規程(規程第18号)の一部改正(案)について 議案第6号 育児短時間勤務及び子の看護休暇に関する就業関連5規程の一部改正(案)について (1)就業規程(規程第13号) (2)嘱託職員就業規程(規程第14号) (3)臨時職員就業規程(規程第15号) (4)登録生活支援員就業規程(規程第95号) (5)放課後児童クラブ支援員及び補助員就業規程(規程第97号) 議案第7号 育児・介護休業等に関する規程(規程第78号)の一部改正(案)について 議案第8号 ハラスメント防止規程(規程第92号)の一部改正(案)について 議案第9号 登録訪問介護員就業規程を廃止する規程(規程第112号)の制定について 議案第10号「役員等損害賠償責任保険」契約の締結について 議案第11号 第2回評議員会の開催(案)について 議案第12号 理事候補者の提案について
令和7年 3月21日(金) (第2回評議員会)	(提出議案) 議案第1号 令和6年度 資金収支第二次補正予算(案)について 議案第2号 令和7年度 事業計画(案)について 議案第3号 令和7年度 資金収支予算(案)について 議案第4号 役員等の報酬に関する規程(規程第19号)の一部改正(案)について 議案第5号 ハラスメント防止規程(規程第92号)の一部改正(案)について 議案第6号 理事候補者の選任(案)について

2) 監査の実施

開催日	内 容
5月24日(金)	令和5年度 監査(財務監査・事業監査)

3) 評議員選任・解任委員会の開催

開催日	内 容
6月14日(金) (第1回評議員選任・解任委員会)	議案第1号 残任期間に伴う評議員の選任(案)について

(4) 運営体制の強化

1) 月例会議の開催

本会事務事業の円滑な推進に向けた調整・協議・連絡事項を内容とした会議を開催した。

○年間開催回数 11回(月1回開催 8月を除く。)

※4月、9月及び1月は全所属長を招集する会議に位置付けた。令和7年5月の月例会議からオンライン開催を開始し、会議出席の移動時間の短縮を図った。

2) 事業調整会議の開催

各事業について市内全域を対象に推進するため、下表のとおり事業調整会議を開催した。

なお、毎回、地区福祉員協議会、地区民生委員児童委員協議会の定例会に出席する際の情報提供資料の確認を行った。また、毎回生活支援コーディネーターに関する報告も行った。昨年度同様に本会議とは別に小グループで課題を協議する場(コア会議)を設け、「山口市地域福祉計画・山口市地域福祉活動計画」の取り組みとリンクさせて協議した。

○年間開催回数 12回(月1回)

開催日	協議内容
4月24日(水)	・事務分掌等について ・各事業の伝達と依頼等
5月28日(火)	・いきいきサロンお助け隊の見直し等について ・各事業の伝達と依頼等
6月12日(水)	・見種まきリーディング事業について等について ・各事業の伝達と依頼等
7月22日(月)	・福祉教育、巡回訪問等について ・各事業の伝達と依頼等
8月27日(火)	・生活支援コーディネーター等について ・各事業の伝達と依頼等
9月30日(月)	・介護体験・福祉教育等について ・各事業の伝達と依頼等
10月28日(月)	・介護体験・福祉教育等について ・各事業の伝達と依頼等
11月26日(火)	・事業の進行状況等について ・各事業の伝達と依頼等
12月25日(水)	・事業評価等について ・各事業の伝達と依頼等
令和7年 1月27日(月)	・事業計画等について ・各事業の伝達と依頼等
2月26日(水)	・福祉機器リサイクル事業等について ・各事業の伝達と依頼等
3月19日(水)	・来年度の事業調整会議等について ・各事業の伝達と依頼等

《成果と課題》

事業の内容確認や調整の他、情報の共有や職員の意識統一が図れた。事業調整会議等を通じて、各地区の状況把握等を行った。次年度以降は、各地区担当が把握した内容について問題解決が進むよう事業等の様々な調整を図っていきたい。

(5) 共同募金運動への協力

1) 一般募金(目標額:30,970,000円)

(単位:円)

募金種別	令和6年度実績	令和5年度実績	前年度比
戸別募金	21,540,130	21,938,913	△398,783
法人募金	2,443,050	2,450,292	△7,242
募金百貨店	365,526	403,536	△38,010
職域募金	1,506,133	1,520,497	△14,364
街頭募金	157,258	166,548	△9,290
興行募金	530,988	713,933	△182,945
その他	1,714,430	1,712,403	2,027
合計	28,257,515	28,906,122	△648,607

2) 歳末たすけあい募金(目標額:11,000,000円)

(単位:円)

募金種別	令和6年度実績	令和5年度実績	前年度比
戸別募金	9,873,539	10,103,761	△230,222
学校募金	56,524	159,304	△102,780
その他の募金	855,742	602,252	253,490
合計	10,785,805	10,865,317	△79,512

3) 災害義援金

○実績額: 274,686円

4) 行事の内容

開催日	内容	備考
4月11日(木)	山口市共同募金委員会監事会	監事3名 事務局
6月1日(土) ～7月16日(火)	募金箱イラストコンテスト作品募集 応募作品 48点	赤い羽根賞 1点 アピール賞 3点 アイデア賞 3点
6月20日(木)	山口市共同募金委員会運営委員会	運営委員10名 監事1名 事務局
7月9日(火)	山口市共同募金委員会審査委員会	共同募金及び歳末たすけあい募金配分決定
7月16日(火)	山口市共同募金委員会運営委員会	運営委員8名 事務局
8月9日(金)	山口市共同募金委員会推進委員会	推進委員37名 事務局
10月1日(火)	共同募金開始行事、街頭募金	山口井筒屋前
10月5・19日(土)	街頭募金、街頭宣伝	中市、米屋町、道場門前商店街 ※19日は荒天のため中止
10月～12月	法人、職域募金	山口市内全域
10月26日(土)	チャリティーゴルフ大会	湯田カントリークラブ 参加者37名
令和7年 2月17日(月)	山口市共同募金委員会審査委員会	令和6年度歳末たすけあい配分報告 令和7年度共同募金配分計画

開催日	内 容	備 考
2月25日(火)	山口市共同募金委員会運営委員会	令和6年度歳末たすけあい配分報告 令和7年度共同募金配分計画

《成果と課題》

昨今の社会情勢の不安に合わせ、共同募金は年々募金実績が減少しており、一般募金及び歳末たすけあい募金共に昨年度の実績を下回った。内訳としては、戸別募金や興行募金の減少が著しい半面、子ども会募金、窓口募金、募金箱等の募金実績が増加した。本年度はUMOUPプロジェクトのチラシを募金の依頼時に配布し、広く周知を行ったことで、本会への寄付へつながった。

また、本年度もイラストコンテストを実施し、小学生から高校生を対象に呼びかけ、48点の応募があった。

配分事業においては、共同募金の目的に沿った使途となるよう本会内で担当者会議を開催し、事業の再考を図った。配分内容や方法について見直し、共同募金が有効に活用できるよう協議した。

今後の課題として、全体的に募金額が減少している中、新たな共同募金の財源の確保について開拓が必要である。併せて、募金がどのように活用されているのか、寄付者に対してわかりやすく伝えることが求められている。

(6) 福祉サービス事業に関する苦情解決の取り組み

○苦情の受付状況

内 容	苦情申出者	件数
地域の活動に非協力的な職員の言動	地域づくり協議会役員	1
団体の集まりに依頼しても参加しない、来客者へ挨拶しない職員の言動	地区社協役員	1
広告料の集金の仕方、個人情報が入団体へ漏洩(※他団体のこと)	住民(匿名)	1
チェアキャブ貸出し時の説明不足	チェアキャブ利用者の家族	2
職員間のコミュニケーション不足	本会職員	1
広報紙への内容の誤記載	ボランティアグループ会員	1
職員間での言い方・接し方	本会職員	1
補助基準の周知不足(※他団体のこと)	自治会長	1
合 計		9

○令和6年度 苦情解決関係者研修会

開催日 令和7年1月16日(木) 午後2時～4時

会 場 山口市社会福祉協議会 本所 会議室

内 容 「苦情解決関係者の役割と苦情解決のポイント」

講 師 山口県福祉サービス運営適正化委員会 事務局長 岡村 昌一郎 氏

参加者 10名(第三者委員3名、苦情解決責任者兼苦情受付担当者1名、苦情受付担当者2名、事務局次長2名、課長2名)

《成果と課題》

本年度の苦情等の申し出は9件であった。内容としては、市民や職員間のコミュニケーション不足や説明不足によるものが多かった。中には、初期対応を誤り解決が遅れたケースがあった。

令和5年度の件数(21件)より、大きく減少したが、それは同じ市民からの苦情が数回にわたりあったものが無くなったためである。

苦情対応では、初期対応が非常に大切である。まずは受け止め、傾聴する姿勢が必要である。

これから組織を良くするために、市民からの苦情は本会に対する提案・要望と捉え丁寧に対応していきたい。

(7) 関係機関等との渉外・その他調整等

1) ソーシャルワーク実習等の引受

福祉現場の実習等については、山口県内の大学(福祉学部)及び福祉職をめざす山口市出身者、福祉事務所等からの相談・依頼を受けて、本会としてソーシャルワーク実習Ⅱ等を積極的に引受け、人材育成に努めた。

学 校 名	実習人員	実 習 期 間	実習受入部署
山口県立大学 看護栄養学部 看護学科	4名 (各日 2名ずつ)	7月23日(火) 7月25日(木)	山口市川西地域 包括支援センター
山口県立大学 看護栄養学部 看護学科	4名 (各日 2名ずつ)	7月9日(火) 7月11日(木)	山口市川西第2地域 包括支援センター
山口県立大学 社会福祉学部 社会福祉学科	3名	8月19日(月)～9月20日(金)	山口市社会福祉協議会 本所兼北部支所
九州医療科学大学 通信教育部 社会福祉学部	1名	8月19日(月)～9月20日(金)	山口市社会福祉協議会 本所兼北部支所
山口県立大学 社会福祉学部 社会福祉学科	1名	8月19日(月)～9月20日(金)	山口市川西第2地域 包括支援センター
山口県立大学 社会福祉学部 社会福祉学科	2名	8月19日(月)～8月20日(水) ※インターンシップ	山口市社会福祉協議会 本所兼北部支所

2 財源の新規開拓と効果的な法人及び事業運営による経営基盤の強化

(1) 予算編成会議の開催

回	開催日	協議内容
第1回	6月4日(火)	1. 基盤強化計画(年間計画)について 2. 令和5年度決算報告・反省点の確認について 3. 令和6年度サマーレビューについて 4. 車両の配置及び負担経理区分について など
第2回	8月8日(木)	1. 基盤強化計画(公費財源の確保、遺贈の運用ルール)について 2. 積立金管理運営規程について 3. サマーレビューの反省について 4. 福祉大臣など(株)勁草システックとの契約について 5. 消費税の修正申告について 6. 南部居宅介護・介護事業所の閉所に伴う経費負担及び協議事項について など
第3回	10月11日(金)	1. 基盤強化計画(福祉課題解決積立金活用によるサービスの創設)について 2. 会費・寄付金・共同募金配分金等を財源とする自主事業の再編について 3. 車両配置計画について など
第4回	12月11日(水)	1. 基盤強化計画(会費・寄付金を財源とする持続可能な自主事業の再編、南部介護保険事業積立金の効果的な事業配分、積立と配分の仕組みづく等)について 2. 新年度の人件費の確認について 3. 経費按分(弁護士、社労士、会計士、システム等)について 4. 車輛の配置と維持管理経費について など
第5回	令和7年 2月14日(金)	1. 基盤強化計画(持続可能な予算編成の考え方、福祉課題解決金の充当事業、新規採用事業と予算)について 2. 令和6年度第2次補正予算について 3. 令和7年度当初予算について など

《成果と課題》

山口市社会福祉協議会活動基盤強化計画の中の財源確保部門の一環として、費用対効果を考慮した予算編成を行うため、5回にわたり管理職及び予算管理責任者で年間を通じ、予算編成会議を行った。

昨年度に、遺贈による多額の寄附があり、寄附者の意思に沿った活用が出来るように活用事業の協議を行った。

また、積立金管理運営規程を協議し、活用しやすいものに別表の内容を改正した。

さらに、共同募金を財源とした配分事業について、地区の意見を参考に、事業の見直しを行った。

3 社協の経営理念に基づいた計画的な人材の育成・確保の仕組みづくり

(1) 職員研修会の開催

回	日時／会場	研修テーマ／対象	備 考
第1回	日 時 10月2日(水) 午後2時～ 会 場 南部支所	テーマ 合理的配慮について 対象職員 全職員	講師 山口市障がい福祉課職員 参加方法(3つから選択) ・対面研修 ・オンライン研修 ・オンデマンド研修(録画を視聴)
第2回	日 時 12月5日(木) 午後1時30分～ 会 場 しらさぎ会館	第1弾 ハラスメント研修(上司編) テーマ① 「ハラスメントのない職場環境づくり」 テーマ② 「交通事故防止」 対象職員 ・管理職・主査以上 ・事業管理者(主任・主事)	テーマ①講師 リソラ社会保険労務士法人 代表 宇佐美理世 氏 テーマ②講師 県共済 主事 岩本浩平 氏 参加方法(2つから選択) ・対面研修 ・オンデマンド研修(録画を視聴)
	日 時 12月13日(金) 午後1時30分～ 会 場 南部支所	第2弾 ハラスメント研修(一般職員編) テーマ 同上 対象職員 主任・主事・嘱託・臨時	
第3回	日 時 令和7年 2月20日(木) 午後の部 午後1時30分～ 会 場 南部支所 夜間の部 午後6時～ 会 場 山口市福祉センター	テーマ OJTによる職員のキャリア形成支援について (1)事例発表 午後の部 受講者 松田主事 指導者 杉村主査 夜間の部 受講者 内田主任 指導者 中田主査 (2)職位別グループワーク テーマ1 「あなたは山口市社協をどういう社協にしたいか」 テーマ2 「後輩職員の能力を引き出し伸ばす指導方法を考える」 対象職員 正規職員	講師 基盤強化計画推進室 室長 角野有三 氏 参加方法 ・対面研修

(2) 職位別キャリア形成企画(基盤強化)の開催

回	日時／会場	研修テーマ／対象
主任・主事 研修会	日 時 11月15日(金) 午後3時30分～ 会 場 第1部・第2部 南部支所2階 第3部 福の花	内 容 ： 第1部 研修会① 事業相互紹介 研修会② 各課長への質問タイム 第2部 茶話会 第3部 懇親会 対象職員 正規職員(主任・主事) 参加方法 対面研修

※研修参加の感想を所属長へ提出(必須)

《成果と課題》

研修委員会で内容を協議し、毎年定例で職員研修会を実施している。

全職員を対象として、ハイブリット研修と当日参加できない職員に対してオンデマンド研修をしているが、ネットワーク環境や Zoom の音声等課題は残っている。

本年度は、職員研修参加者へアンケートを実施し、受講人数の把握と研修の意見を聞くことができた。

また、基盤強化として職位別キャリア形成企画の開催をし、主任・主事が一堂に集まり発表の場を設け親睦を図るとともに、相互の事業内容を理解することができた。

その中で、本会の新規・改善・廃止事業についての意見を求めた。その際に出された意見が、基盤強化会議にて事業運営の見直しを進めるための参考となり、主任・主事の新たな視点を取り入れることができたことは成果といえる。

昨年度取り組んだ「職員プロフィールブック」の様式が完成し、運用を開始することができた。

この取組の契機となった、コロナ禍において他部署の職員との交流が少ない中で、業務上の円滑なコミュニケーションを図るためのツールとして活用していきたい。

関連事業

1 広報・啓発活動の充実・強化

(1) 社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式の開催

○開催日 10月24日(木)午後1時30分～2時30分

○会場 山口県総合保健会館 第1研修室

○参加者 24名(内被表彰者21名・感謝状贈呈者3名)

○内容

表彰 本会表彰規程に基づき、社会福祉事業関係功労者等の表彰を行い、その功績を讃えた。

部 門	個人	団体
被 表 彰 者	65名	7団体
感謝状贈呈者	8名	1団体

《成果と課題》

本年度も記念講演は行わず、被表彰者・感謝状贈呈者を対象に「社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式」を開催しその功績を讃えた。本年度は、昨年度より受賞者が多く、表彰者件数は72件(個人・団体)、感謝状贈呈者は9件(活動者・寄付者)であった。

来年度は、改選期ということもあり受賞人数が大幅に増加することを予想している。

また、「社会福祉功労者等表彰状・感謝状贈呈式」のみの形も定着してきているが、次年度は合併 20 周年ということもあり、令和元年度以来の講演開催を予定している。次々年度以降は従来の形に戻し、受賞者をお祝いしたい。

(2) 機関紙「山口市社協だより(こちら社協です)」の発行

○事業内容: 年6回「山口市社協だより(こちら社協です)」を発行し、各戸及び関係機関へ配付した。

本会事業や福祉団体の活動紹介、福祉サービスの情報を掲載し、市民から親しまれる紙面づくりに努力した。また、表紙・裏表紙はカラー刷りとなっている。

発行月	発行部数	発行回数(頁)	配布先
4・6・8・10・12・2月	各73,800部	6回(8頁)	各戸、関係機関

《成果と課題》

本年度も年6回「山口市社協だより(こちら社協です)」を発行した。

掲載記事を広報委員会でしっかりと厳選し、掲載しきれない内容については、ホームページで紹介するなど、広報活動を工夫した。本年度は更なる向上に向けて、読者アンケートも実施した。山口市民の様々な年齢層の方に回答いただき、いただいた意見をもとに、よりよい広報紙の作成に向けて広報委員会で協議した。さらに、広報に力を入れている市町社協(宇部市社協)へ視察に行き、目に留まる広報紙のコツやホームページのレイアウトなど様々な助言をいただいた。

また、本会のイメージキャラクターの「タスクン、ふれっぴー」を積極的に活用し、キャラクターの周知と親しみやすい紙面づくり及び記事の質の向上に取り組んだ。

次年度の6月号から、市からの要請により、全戸配布を廃止し、班単位の回覧方式に変更となる。

2 福祉団体への支援・協力

(1) 山口市ボランティア連絡協議会の運営

本年度も、役員会とボランティア相互の連携を深めるため研修会や交流会を行った。

開催日	内 容	会 場	参加者数
4月15日(月)	令和6年度 山口市ボランティア連絡協議会総会	山口県総合保健会館 第1研修室	76団体 個人9名
5月27日(月)	第1回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	16名
7月 3日(水)	第2回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	13名
8月28日(水)	第3回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	14名
9月 2日(月)	山口市ボランティア連絡協議会研修会	阿東地域交流センター 篠生分館	50名 (一般含む)
10月1日(火)	赤い羽根共同募金オープニング行事	井筒屋前	1名
10月5日(土)	赤い羽根共同募金 街頭募金活動①	山口市中市商店街	7団体 個人34名
10月19日(土)	ふれあいレク大会(式典参加)	山口県身体障害者福祉 センター	1名
10月19日(土)	赤い羽根共同募金 街頭募金活動②	山口市中市商店街	7団体 個人19名
11月 6日(水)	第4回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	山口市社会福祉協議会 南部支所	13名
11月19日(火)	山口市ボランティア連絡協議会交流会	山口県総合保健会館 多目的ホール	72名 (一般含む)
12月12日(木)	小委員会	山口市社会福祉協議会 本所・北部支所	6名
12月19日(木)	第6回山口県ボランティア交流大会	山口県セミナパーク	山口市 17名
12月27日(金)	小委員会	山口市社会福祉協議会 本所・北部支所	3名
令和7年 1月22日(水)	第5回 山口市ボランティア連絡協議会役員会	湯田地域交流センター	13名
3月26日(水)	第6回山口市ボランティア連絡協議会役員会 新旧役員顔合わせ会	山口市社会福祉協議会 南部支所	14名
随時	山口市ボランティア連絡協議会 支援事業(メニュー事業)	6件	—

《成果と課題》

一本化した山口市ボランティア連絡協議会の運営が10年目に入った。

本年度は研修会を阿東地域交流センター篠生分館にて行った。山口市の魅力について、加入団体である、山口市観光ボランティアガイドの会とおいでませ山口  NAVI にお話をいただいた。

11月に開催した交流会では加入グループである「ビューティケア山口」と「大内文化探訪会」が活動発表を行った。パネルの展示では、加入グループ以外にさぼらんて等の外部団体からの出展があった。また宇部フロン

ティア大学短期大学部保育学科教授 伊藤一統 氏から「あつまる・つづく活動のために ボランティア・マネジメントのススメ」と題した講演が好評だった。今回も参加制限を設けず、一般市民に参加の呼びかけを行い数名の参加者があった。

会員の高齢化や後継者問題等で解散・退会する団体・個人が相次いだ中、新しい団体が2つ、個人が2名加入された。

独自事業である支援事業(補助金)の利用が6団体と過去最も多くの申請件数となった。

今後も山口市ボランティア連絡協議会への加入促進、発展、交流につながる取り組みを考え、役員の方と協議し活動の支援を行う。

(2) 山口市民生委員児童委員協議会の運営

* 受託事業

期 日	内 容	会 場 等
4月5日(金)	監事会	山口市社会福祉協議会本所
4月6日(土)～15(月)	春の全国交通安全運動	9地区
4月18日(木)	会長・副会長会議(第1回)	山口市社会福祉協議会本所
4月23日(火)	山口市民生委員児童委員協議会総会	山口県総合保健会館
5月5日(日)～11日(土)	児童福祉週間	—
5月12日(日)～18日(土)	民生委員・児童委員の日 活動強化週間	—
5月12日(日)	民生委員・児童委員の日 一斉取組み日	—
5月27日(月)	児童福祉部会研修会(第1回)	山口県総合保健会館
5月27日(月)	高齢福祉部会研修会(第1回)	山口県総合保健会館
5月29日(水)	地域福祉部会研修会(第1回)	山口県総合保健会館
5月30日(木)	主任児童委員連絡会議(第1回)	山口県総合保健会館
6月3日(月)	現任民生委員・児童委員研修会(県社協主催)	山口県セミナーパーク
6月13日(木)	会長・副会長会議(第2回)	湯田地域交流センター
6月19日(水)	理事会(第1回)	湯田地域交流センター
7月1日(月)	青少年健全育成・社会を明るくする運動 式典・パレード	大雨のため中止
7月11日(木)～20日(土)	夏の交通安全県民運動	12地区民児協実施
7月19日(金)	ブロック別研修会 北部 (仁保・小鯖・大内・宮野・徳地・阿東)	徳地文化ホール
7月23日(火)	ブロック別研修会 南部 (陶・鑄銭司・名田島・秋穂二島・嘉川・佐山・小郡・秋穂・阿知須)	山口南総合センター

期 日	内 容	会 場 等
7月30日(火)	ブロック別研修会 中央部 (大殿・白石・湯田・吉敷・平川・大蔵)	山口県総合保健会館
8月23日(金)	交流研修会	山口県総合保健会館
9月3日(火)	地区民生委員児童委員協議会 会長・副会長研修会(県社協主催)	山口県総合保健会館
9月17日(火)	児童福祉部会研修会(第2回)	山口県総合保健会館
9月20日(金)	地域福祉部会研修会(第2回)	山口県総合保健会館
9月21日(土)～30日(月)	秋の全国交通安全運動	7地区民児協実施
9月27日(金)	主任児童委員連絡会議(第2回)	山口県総合保健会館
9月27日(金)	中堅民生委員・児童委員研修会 (県社協主催)	山口県総合保健会館
9月30日(月)	高齢福祉部会研修会(第2回)	山口県総合保健会館
10月2日(水)	会長・副会長会議(第3回)	湯田地域交流センター
10月22日(火)	理事会(第2回)	湯田地域交流センター
10月24日(木)	山口市社会福祉事業功労者等表彰状並びに 感謝状贈呈式	山口県総合保健会館
10月31日(木)	第74回山口県総合社会福祉大会	ルネッサながと
11月8日(金)	民生委員・児童委員活動実践講座 (県民児協主催)	防長苑
11月9日(土)～15日(金)	高齢者の交通事故防止県民運動(前期)	—
11月20日(水)～21日(木)	第93回全国民生委員児童委員大会 ～宮崎大会～	宮崎県宮崎市
12月2日(月)	主任児童委員連絡会議役員会	山口市社会福祉協議会 本所
12月3日(火)	地域福祉部会役員会	山口市社会福祉協議会 本所
12月9日(月)	高齢福祉部会役員会	山口市社会福祉協議会 本所
12月10日(火)～ 令和7年1月3日(金)	年末年始の交通安全県民運動	10地区民児協実施
12月11日(水)	児童福祉部会役員会	山口市社会福祉協議会 本所
令和7年1月30日(木)	会長・副会長会議(第4回)	湯田地域交流センター
2月18日(火)	常任理事会(第1回)	湯田地域交流センター
3月6日(木)	児童委員・主任児童委員研修会	オンライン形式
3月9日(日)～15日(土)	高齢者の交通事故防止県民運動(後期)	—
3月18日(火)	理事会(第3回)	湯田地域交流センター

期 日	内 容	会 場 等
○地区民児協定例会	毎月1回各地区にて実施	—
○県民児協活動強化方策推進事業	大殿・湯田・小郡地区民児協	—
○市民児協活動支援事業	仁保・小鯖・宮野・平川・鑄銭司・秋穂・阿知須地区民児協	—

《成果と課題》

本年度は、専門部会や交流研修会でグループワークを実施、し地区民児協同士の情報交換を行った。委員相互の活動方法や内容を共有することができ、各地区における活動の振り返り及び先進的な取り組みについて持ち帰ることができた。その他、様々な研修会において、基礎的な内容と少し発展した内容を取り入れ、3年任期の2年目として、地域でさらに活動を進めていける働きかけを行った。

各地区民児協会長へ配布していたタブレットについては、十分な活用はできなかったため、地区内での活動に活用してもらうように地区民児協へ移管した。今後のICT化については実施できるところから行っていく。

(2) 山口市介護者の会の運営

開催日	行 事	内 容	参加人数	会 場
4月11日(木)	監査 役員会	総会の開催・令和6年度事業等について	8名	山口市社協南部支所
5月16日(木)	総会	総会 介護講演会「骨粗しょう症について」	総会：15名(委任状23名) 講演会：17名	山口市福祉センター
6月13日(木)	役員会	介護実践教室、介護施設見学等について	7名	山口市社協南部支所
6月13日(木)	介護実践教室	「負担のかからない介護方法」	会員：6名 一般：5名	山口市社協南部支所
7月4日(木)	施設訪問	介護施設見学	8名	ウェルネスセンター中央
8月20日(火)	役員会	介護相談会、介護実践教室、リフレッシュ旅行等について	6名	山口市社協南部支所
9月18日(水)	介護相談会	「意外と知らない？介護・福祉サービス講座」 「個別相談会」	会員：11名 一般：10名 実習生：4名 個別相談者：0名	徳地地域交流センター
10月15日(火)	介護実践教室	「移乗介護の仕方、食事のとり方と嚥下について等介護のコツや実技	会員：8名 一般：8名	特別養護老人ホー

開催日	行 事	内 容	参加人数	会 場
		について」		ム梅光苑
11月8日(金)	リフレッシュ 旅行	津和野・萩方面	会員:18名 一般:0名	津 和 野 「堀庭園」 萩 市「萩 本陣」
12月5日(木)	介護講演会	「あなたや家族が家での暮らしを 望んだときに～在宅介護と在宅医 療について～」	会員:12名 一般:20名 介護福祉医療関 係職:19名	山口市社 協南部支 所
令和7年 1月16日(木)	役員会	認知症を支える家族の会「つくしの 会」との交流について 令和7年度事業計画 他について	6名	山口市社 協南部支 所
2月18日(火)	茶話会	認知症を支える家族の会「つくしの 会」との交流	会員:11名 つくしの会会員:1 7名	山口ふる さと伝承 総合セン ター
3月12日(水)	役員会	令和7年度総会他について	役員:7名 会員:3名	山口市社 協南部支 所

《成果と課題》

介護実践教室、介護相談会、介護講演会は、山口市介護者の会会員のみでなく、一般に関心のある方の参加ができる研修会として継続実施している。一般参加者が少ない研修会もあったが、現在介護に携わっている方や今後家族介護が必要になりそうなため参加したという方もあり、介護に関心のある一定数の方の参加があったことが成果として挙げられる。

今後、会の活動について更なる広報を行い、役立つ研修・活動の場づくりを支援することで、会の発展を目指していきたい。

3 施設の管理運営

(1) 山口市老人福祉館の運営 * 指定管理事業

開館日数 老人福祉館290日・山口児童館291日
 臨時休館 老人福祉館2日・山口児童館2日
 8月30日(金) 台風10号接近のため 1日
 12月21日(土) 館内清掃のため 1日

【山口市福祉センター(老人福祉館・山口児童館)利用状況】

	利用者(名)	月平均(名)
老人福祉館	5,905	492
山口児童館	17,712	1,476
合 計	23,617	1,968

(定期利用グループ)

事業内容	回数/月	利用者(名)	事業内容	回数/月	利用者(名)
民謡等 (3グループ)	11	265	謡曲・詩吟 (2グループ)	5	227
ダンス	4	262	囲碁・将棋 (3グループ)	6	910
人形・手芸 (2グループ)	4	148	三味線	3	170
合 計				1,982	

(不定期利用グループ)

事業内容	回数/月	利用者(名)	事業内容	回数/月	利用者(名)
フラダンス	4	202	大正琴	4	84
日本画	1	31	ケアビクス (転倒予防体操)	2	144
オカリナ	2	66	フォークダンス	2	147
華道	2	309	民謡	4	25
洋裁	2	55			
合 計				1,063	

(新規利用団体)

- ・チューリップ(洋裁)(6月より月2回不定期利用) 計55名(全19回)
- ・歩夢の会(民謡)(9月より月4回不定期利用) 計25名(全24回)

(大殿地区社会福祉協議会)

- ・行くっちゃ! おおどの健康教室(第1～4木曜日実施) 計583名(全32回)

【山口市福祉センターふくろう講座(12回実施)】

日 付	講座名	参加者(名)	日 付	講座名	参加者(名)
6月25日(火)	クラフトバンド	9	10月30日(水)	パソコン②	4
7月30日(火)	絵手紙	8	11月20日(水)	手芸①	10
9月24日(火)	ヨガ①	14	11月26日(火)	手芸②	8
10月 8日(火)	ヨガ②	14	12月23日(月)	小さな門松づくり	11
10月23日(水)	パソコン①	3	令和7年 2月15日(土)	歌物語	39
11月12日(火)	ヨガ③	11	3月 4日(火)	ケアピクス	13
合 計			144		

【ボランティアセンター利用状況】

	利用者(名)	月平均(名)
ボランティアセンター	802	67

《成果と課題》

○運営方針

高齢者が安心・安全に気持ちよく施設利用できるよう施設管理を行った。築60年近い建物のため建物本体の老朽化とともに、設備の更新や修繕箇所も多く、急きょ対応が必要な修繕に追われている。令和6年度は、蛍光灯器具本体の不具合も生じ、市により館内蛍光灯をLED化してもらった。また、地震による落下の危険性から玄関前軒の補修を行った。

施設管理のうち、館内清掃については、次年度の予算確保が困難なため、清掃委託を毎日から週3日に減じ、利用者、職員の協力により気持ちよく利用できる施設の維持を図る。

利用者のサードプレイスとして居心地の良さを感じながら、定期的な利用や講座への参加により仲間づくりを行える場を提供した。利用者の高齢化が年々進み、エレベーター設置がなく階段のみのため、1階の部屋で活動を希望する団体が多く、定期的な利用予約が取りにくくなっており、団体の希望に添えないケースが増加している。

貸館として地域の団体が利用を希望されるケースも増え、近隣の大殿地域交流センターとの棲み分け、貸館利用料金の考え方についても検討していく必要がある。

○山口市福祉センターふくろう講座

ものづくり講座は、講師の魅力と丁寧な指導により、定期講座として定着している。本年度は新たな講座として音楽鑑賞やケアピクス講座を実施した。参加者からの事後アンケートでは、健康や運動、芸術の分野にも関心が高いことがわかった。講座によっては、参加者の材料費等の負担が少しずつ上がっており、今後も費用負担に配慮しながら講座を企画することが課題であり、利用者が興味を持ち参加できる講座を実施していきたい。

○駐車場・駐輪場

駐車場については、利用者が多い場合は、同じ利用団体で縦列駐車を呼びかけており、利用者の意識も定着してきている。利用者の車が多い日は、乗り合わせをお願いするも、予定以上の台数があり、職員が駐車場整理に出る必要がある。高齢者の運転技術には個人差があり、駐車や発進時に、幼児や児童、自転車やバイクでの横断もあることから、今後も駐車場内での見守りは必要と思われる。

大殿小側駐輪場については、長期休暇時になると、児童の自転車で通路がふさがれる状況があり、自転車の移動を呼びかけることが多かった。駐輪場の段差にスロープを設置したが、引き続き適切な場所に駐輪してもらうよう呼びかけていく。

(2) 秋穂コミュニティセンターの運営

* 受託事業

○年間来館者数

	開館日数 (日)	総来館者 人 数(名)	地域別内訳(名)		
			秋穂地域	山口市内	その他
合 計	338	11,767	8,785	2,028	954
月平均		980	732	169	80
一日平均		34.8	26	6	3

(3) 山口市阿知須健康福祉センター(おげんきかん)の運営

* 指定管理事業

○事業内容:山口市阿知須健康福祉センター(おげんきかん)は、すべての市民が安全で健康な生活をおくることができるよう自発的な健康づくり活動や地域福祉を推進する目的で設置された施設である。地域のあらゆる年齢層の方々の健康、福祉、ボランティア、コミュニティ、ふれあい活動の場として幅広い利用が可能である。なお、同センターは、平成15年度に開館した施設(21年目)で、指定管理者として円滑な運営を行っている。

年間延利用者 20,826名(前年度比 6,301名増) 月平均 約1,735名 の利用

	福祉関係	保健関係	各種 団体	定期 利用	社協 関係	高齢者 娯楽室	その他	合 計
合計(名)	1,418	2,786	3,227	4,221	6,225	598	2,351	20,826
%	6.81	13.38	15.50	20.27	29.89	2.87	11.29	100

- * 福祉関係 (7者会議、定例民協、情報交換会、福祉相談、視察研修、各種講習会など)
- * 保健関係 (健康相談、健診事業、子育て支援事業、ブックスタート、各種健康教室など)
- * 各種団体 (コムニオの会、母子保健推進協議会、食生活改善推進協議会、老人クラブ、手話友の会、シルバー人材センターなど)
- * 定期利用 (きんもくせい、3B体操、さわやかコーラス、ひまわり、民児協、山口ラテン Lovers、きららヨガサークル、子育て支援センター、囲碁同好会、阿知須介入研究など)
- * 社協関係 (社協の各種事業、地区社協事業、研修会など)
- * 高齢者娯楽室 (囲碁)
- * その他 (おげんきかんまつり、児童クラブ、こども食堂など)
- * コロナ禍が収束後、利用者が増加傾向にある。

《成果と課題》

山口市阿知須健康福祉センター(おげんきかん)の自主事業として、初心者でも気軽に参加できる運動を行い、日常生活に必要な筋力を鍛え、要介護状態の発生を防ぐとともに、定期的に運動する機会を創出し、コロナ禍が収束したことから、地域コミュニティの場として、定期的に外出する習慣をつけることで、心身の健康増進に寄与することを目的に、シニア健康教室を10回開催した。また、令和2年度から中止していた「おげんきかんまつり」を4年振りに開催し、保健師による健康チェックや、施設の利用者による点訳体験、手話体験、囲碁大会、ボランティア団体によるポッコーン、綿菓子の販売等、利用者や地域の方が、ふれあい、交流することで、相互の理解と親睦を深め合い、福祉と健康のまちを目指しておげんきかんまつりを開催している。

開館から21年を経過しており、令和5年度に外観の改修工事を行ったが、室内施設のエアコンや蛍光灯等の改修がされてないことから、山口市と協議しながら、施設の維持管理計画をたて、計画的な修繕、更新を行っていくことにより、利用者の安全・安心を確保する。また、施設を健全な状態に保ちつつ寿命を延ばし、ライフサイクルコスト削減を図っていく。

山口市の福祉概要

(令和7年3月31日現在)

人 口		184,585 人
		(住民基本台帳による)
世帯数		91,081 世帯
高齢化率		30.90 %
65歳以上高齢者数		56,993 人
民生委員・児童委員		401 人
主任児童委員数		44 人
身体障害者手帳保持者		6,741 人
療育手帳保持者		1,769 人
精神障害者保健福祉手帳保持者		2,310 人
児童扶養手当受給資格者数		1,487 人
被保護世帯数		1,195 世帯
保 健 福 祉 施 設 数	養護老人ホーム	3 箇所
	特別養護老人ホーム	20 箇所
	軽費老人ホーム(ケアハウス含む)	6 箇所
	老人福祉センター	3 箇所
	老人福祉施設付設作業所	1 箇所
	老人短期入所施設	29 箇所
	デイサービスセンター(通所介護)	93 箇所
	デイケアセンター(通所リハ)	8 箇所
	地域包括支援センター	10 箇所
	在宅介護支援センター	3 箇所
	生活支援ハウス	1 箇所
	介護老人保健施設	8 箇所

保健福祉施設数	介護医療院	3 箇所
	訪問看護ステーション	33 箇所
	グループホーム(認知症)	16 箇所
	宅 老 所	0 箇所
	保 育 所	39 箇所 うち1箇所休園を含む
	地域型保育事業所	7 箇所
	へき地保育所	4 箇所 うち2箇所休園を含む
	認定こども園	8 箇所
	生活介護事業所	24 箇所
	自立訓練(生活訓練・宿泊型自立訓練)事業所	3 箇所
	就労移行支援事業所	4 箇所
	就労継続支援事業所A型	6 箇所
	就労継続支援事業所B型	30 箇所
	共同生活援助事業所	19 箇所
	相談支援事業所	14 箇所
	障害者支援施設(施設入所支援)	6 箇所
	地域活動支援センター	3 箇所
	児童養護施設	3 箇所
	児童心理治療施設	1 箇所
	児童家庭支援センター	1 箇所
	福祉障害児発達支援センター	1 箇所
	障害児通所支援事業所	69 箇所
	児童自立支援施設	1 箇所
	母子生活支援施設	1 箇所